

平成 27 年度

全国学力・学習状況調査結果の分析

「授業の改善」「学力と学習状況との相関」等

平成 27 年 12 月

四日市市教育委員会

目 次

1	本市における全国学力・学習状況調査結果の推移・・・・・・・・	p 1
2	校種・教科別 正答数分布グラフ	
	小学校・・・・・・・・	p 3
	中学校・・・・・・・・	p 6
3	校種・教科別 調査結果概要	
	小学校・・・・・・・・	p 9
	中学校・・・・・・・・	p 12
4	調査問題の分析および課題解決に向けた指導事例	
	・小学校 国語、算数、理科・・・・・・・・	p 15
	・中学校 国語、数学、理科・・・・・・・・	p 20
5	各質問紙の調査結果からみえてくること	
	(1) 学習状況と学力の相関からみえてくること・・・・・・・・	p 23
	(2) 学校質問紙回答における四日市市全体と全国との比較・・	p 42
	(3) 学力向上に関する全市的な取組状況・・・・・・・・	p 43
	(4) 各質問紙の回答からみえてくる課題とその対応・・・・・・・・	p 45
	・全体に関すること ・家庭学習に関すること	
	・教科の指導方法・言語活動に関すること	
6	今後の取組の重点・・・・・・・・	p 57
7	参考資料・・・・・・・・	p 59

1 本市における全国学力・学習状況調査結果の推移 (H19～)

小学校		国語		算数		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
平成19年度	本市	81.7	62	81.6	62.1	
	三重県	80.6	60	81.1	61.4	
	全国(公立)	81.7	62	82.1	63.6	
平成20年度	本市	64.1	47.8	71	50.1	
	三重県	62.9	47.1	70.9	49.7	
	全国(公立)	65.4	50.5	72.2	51.6	
平成21年度	本市	68.4	46.8	76	53.1	
	三重県	67.8	46.9	76	52.5	
	全国(公立)	69.9	50.5	78.7	54.8	
平成22年度 抽出校：40校 中、12校参加	本市	81.9	74.3	71.8	47	
	三重県	81.7	75.2	72.4	47.3	
	全国(公立)	83.3	77.8	74.2	49.3	
平成24年度	本市	79.1	51.4	72.6	56.1	58.1
	三重県	79.6	52.7	72.2	56.8	58
	全国(公立)	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
平成25年度	本市	60.7	47.5	76	55.8	
	三重県	60.3	46.7	75.8	55.3	
	全国(公立)	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度	本市	69.7	53.6	76.7	56.7	
	三重県	69.6	52.5	76.2	56	
	全国(公立)	72.9	55.5	78.1	58.2	
平成27年度	本市	67.3	64.2	74.1	43.4	59.1
	三重県	68	65.3	74.8	44.1	59.2
	全国(公立)	70	65.4	75.2	45	60.8

※平成23年度は、東日本大震災により実施していない。

小学校は全国平均正答率を下回る結果に

全国平均正答率と比較すると、平成27年度は国語A・B、算数A・B、理科ともに下回っている。平成19年に全国学力・学習状況調査が全員調査となってから、全国平均を上回ったことがないのが現状である。

全国平均正答率を 100とした場合		国語		算数		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
四日市市	H25	96.8	96.2	98.4	95.5	95.4
	H26	95.6	96.6	98.2	97.4	↑H24データ
	H27	96.1	98.2	98.5	96.4	97.2

※理科は平成24年以来、3年ぶりの実施。

上の表は全国平均正答率を100として比較したものである。平成26年度との比較で見ると、算数Bが97.4から96.4に下がったことを除けば、全国との差は縮まっているといえる。

A問題、B問題ともにほぼ全国並みではあるが、各教科を設問ごとに見ていくと、国語では漢字や語句の知識の定着が不十分であったり、算数では根拠となる事柄や理由を説明することが苦手であったり、と授業の工夫によってカバーできる内容も見られ、今後の課題として残る(3校種・教科別 調査結果概要のページを参照)。

中学校		国語		数学		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
平成 19 年度	本市	82.2	73	76.1	64.1	
	三重県	81.6	71	73.1	60.6	
	全国（公立）	81.6	72	71.9	60.6	
平成 20 年度	本市	73.3	60	65	50.7	
	三重県	72.6	59.4	63.7	49.3	
	全国（公立）	73.6	60.8	63.1	49.2	
平成 21 年度	本市	76.4	74.4	64.3	58	
	三重県	75.9	73.3	62.7	56.5	
	全国（公立）	77	74.5	62.7	56.9	
平成 22 年度 抽出校：22校 中、10校参加	本市	76.1	66	68.5	45.8	
	三重県	74.1	64.1	65.4	42.8	
	全国（公立）	75.1	65.3	64.6	43.3	
平成 24 年度	本市	75.8	63.5	64	49.5	52.2
	三重県	74	61.1	61.6	48	50.6
	全国（公立）	75.1	63.3	62.1	49.3	51
平成 25 年度	本市	75.9	66.6	64.5	40.6	
	三重県	75	65.8	63.2	39.3	
	全国（公立）	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 26 年度	本市	79.9	51.3	69.9	60.5	
	三重県	78	49	67.1	58.3	
	全国（公立）	79.4	51	67.4	59.8	
平成 27 年度	本市	75.8	65.4	66.2	43.5	53.6
	三重県	75	64.3	64.3	40.6	51.9
	全国（公立）	75.8	65.8	64.4	41.6	53

※平成23年度は、東日本大震災により実施していない。

義務教育修了時に全国水準の学力に

中学校は全国平均正答率と比較すると、ほぼ毎年、上回る傾向にある。平成 27 年度は国語 B が正答率で－0.4 ポイントである以外は、国語 B、数学 A・B、理科ともに全国平均を上回っている。特に数学 A・B は平成 25 年度の数学 B を除くと、8 年間上回り続けており、四日市市の強みとなっている。

全国平均正答率を 100とした場合		国語		算数（小 6）・数学（中 3）		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
四日市市	H 2 4（小 6）	96.9	92.4	99	95.2	95.4
	H 2 7（中 3）	100	99.4	102.8	104.6	101.1

※理科は平成24年と平成27年に実施して経年変化を見られるようになっている。

上の表は、全国平均正答率を 100 として、平成 24 年度の小学 6 年生が平成 27 年度に中学 3 年生となって、どのような学力状況になっているかを表したものである。平成 24 年度は国語、算数、理科ともに全国平均を下回っていることから、3 年間で順調に学力が伸びていると判断できる。

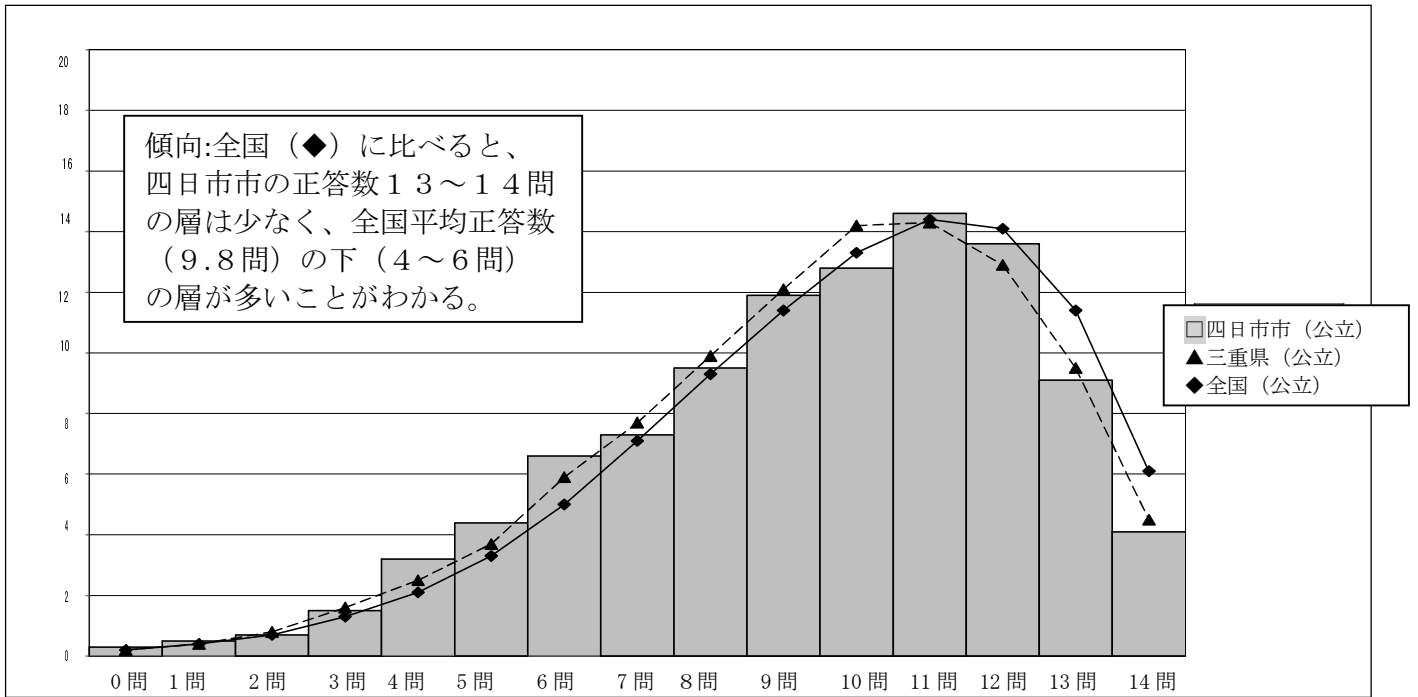
各教科を設問ごとに見ていくと、基礎的な知識の習得よりもむしろ、既存の知識を生かして、条件に合わせて作文したり、数量関係を文字式で表したりするといった応用的な学習活動に弱みが見られる（3 校種・教科別 調査結果概要のページを参照）。

2 小学校・教科別 正答数分布グラフ

国語A

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市（公立）	2,740	9.4 / 14	67.3	10.0	2.9
三重県（公立）	15,998	9.5 / 14	68.0	10.0	2.8
全国（公立）	1,061,264	9.8 / 14	70.0	10.0	2.8

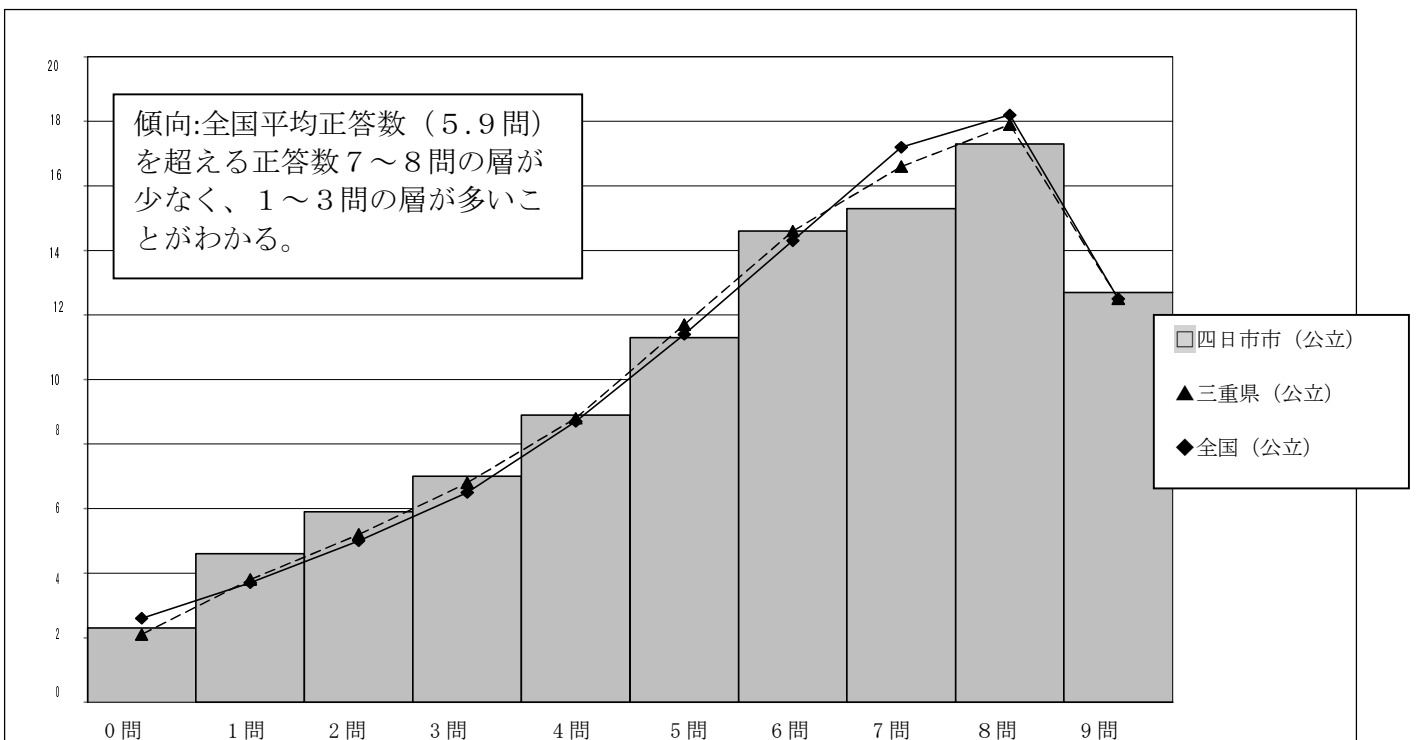
（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））



国語B

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市（公立）	2,740	5.8 / 9	64.2	6.0	2.4
三重県（公立）	15,993	5.9 / 9	65.3	6.0	2.4
全国（公立）	1,061,093	5.9 / 9	65.4	6.0	2.4

（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））

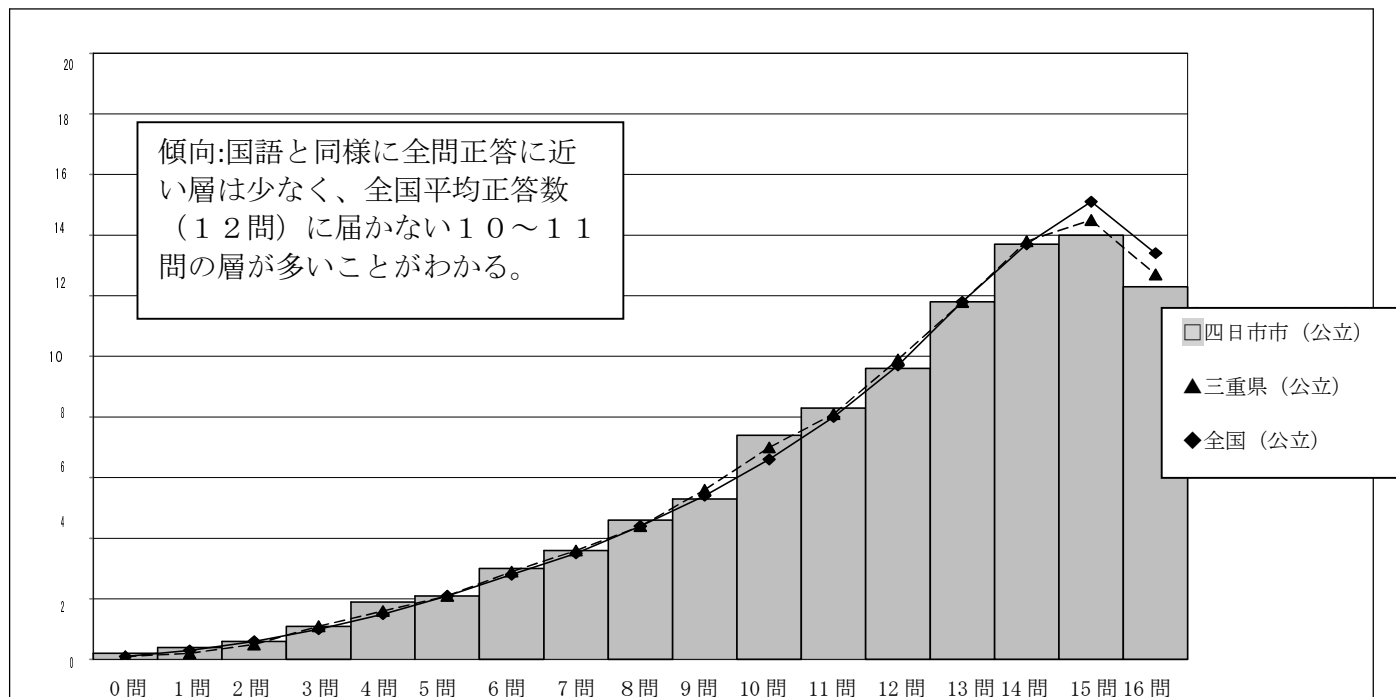


正答数分布グラフ

算数A

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市（公立）	2,741	11.9 / 16	74.1	13.0	3.4
三重県（公立）	16,001	12.0 / 16	74.8	13.0	3.4
全国（公立）	1,061,301	12.0 / 16	75.2	13.0	3.4

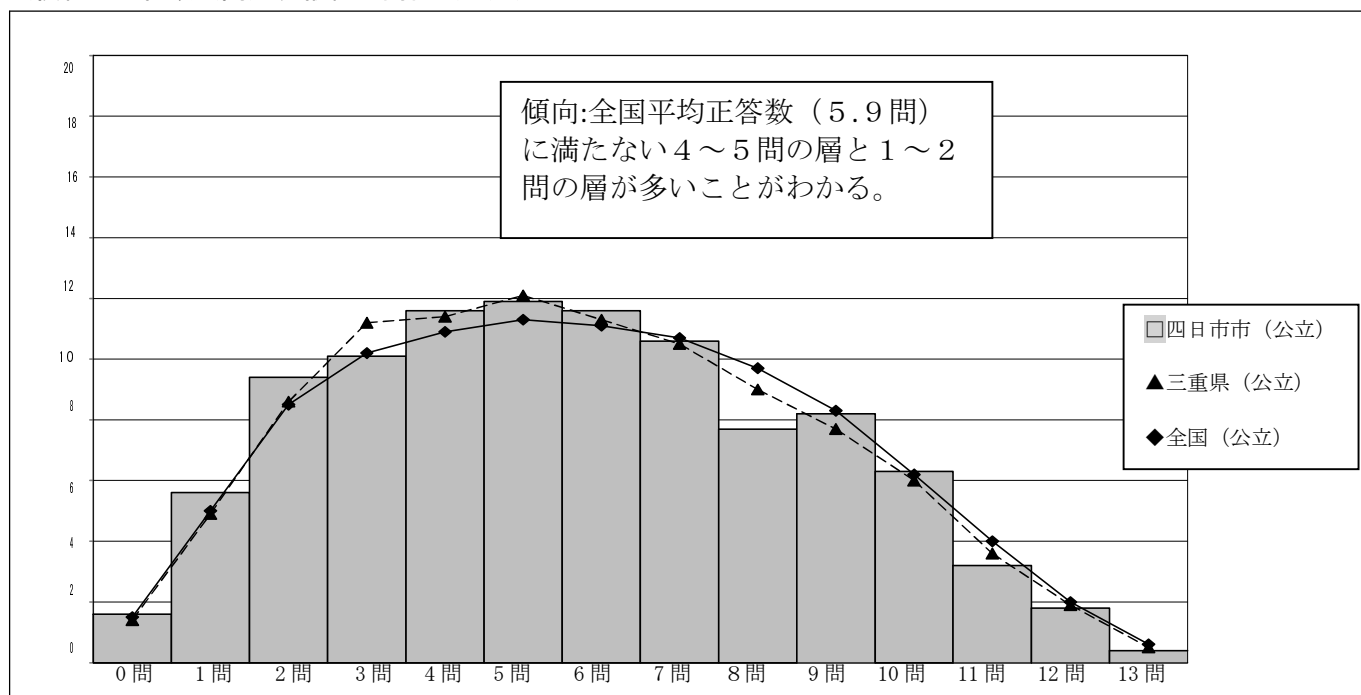
（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））



算数B

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市（公立）	2,741	5.6 / 13	43.4	5.0	2.9
三重県（公立）	15,993	5.7 / 13	44.1	6.0	2.9
全国（公立）	1,061,063	5.9 / 13	45.0	6.0	3.0

（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））

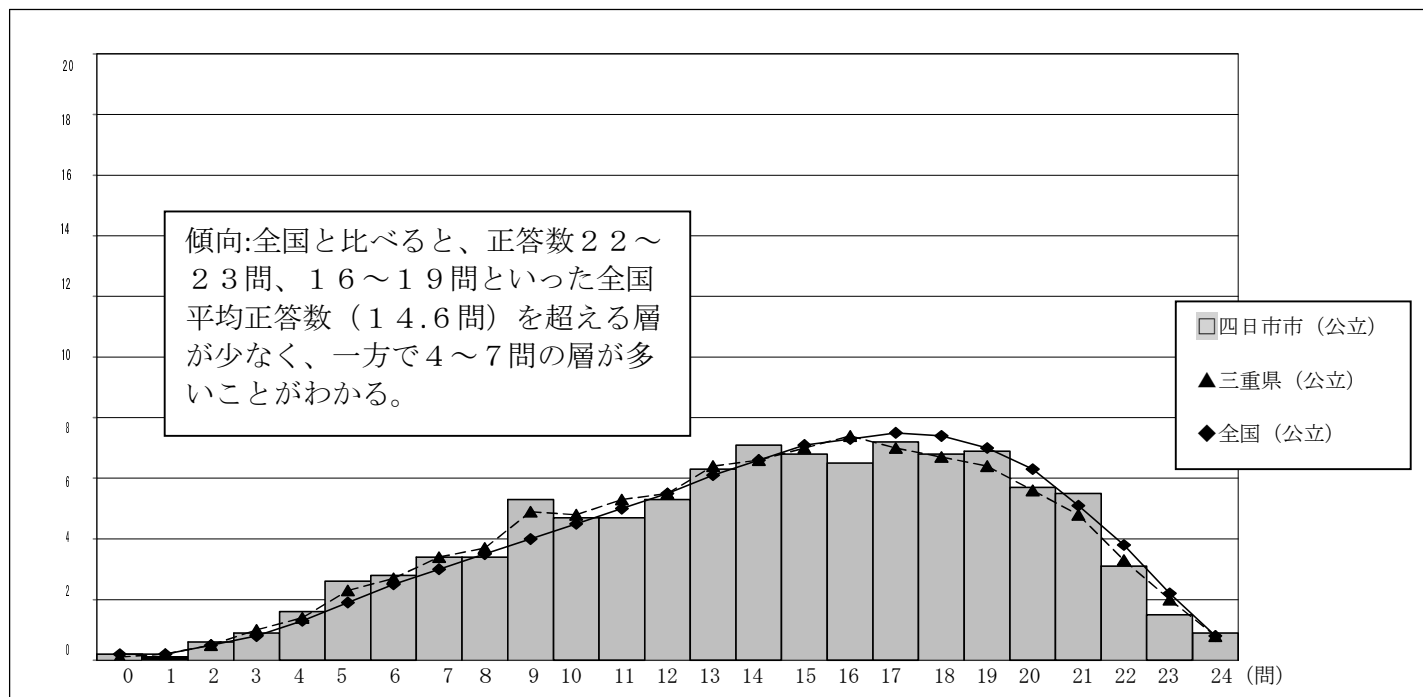


正答数分布グラフ

理科

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市（公立）	2,742	14.2 / 24	59.1	15.0	5.1
三重県（公立）	16,007	14.2 / 24	59.2	15.0	5.1
全国（公立）	1,060,792	14.6 / 24	60.8	15.0	5.0

（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））



小学校 各教科の分布グラフから見えること

平均直下の児童の割合が全国より高く、基本事項の定着が課題

国語A・B、算数A・B、理科ともに共通した傾向は、全国平均と比べて、平均正答数をやや上回る層の割合が少なく、平均正答数をやや下回る層の割合が多いということである。特に平均正答数をやや下回る層の児童は、基礎的な語句の知識や計算などに誤答が見られるが、クラスの約4分の1を占める重要な層である。授業内容を十分に理解できているとはいえない状況の児童もいると考えられ、日々の丁寧な指導によって、「授業がよく分かるようになった」と言えるように引き上げたいところである。

また、国語・算数ともにB問題は満点に近い層が全国とほぼ等しいのに対して、A問題では全国を下回る。このことも、A問題が取り扱う基礎的な問題において、定着の度合いが低い傾向を示している。

P9～11の「校種・教科別の調査結果概要」では、全国平均正答率より著しく高かったり低かったりする問題を取り上げ、四日市市の弱みや強みについて触れている。国語であれば漢字の読み書きや、主語述語を問う文法の基本問題、算数は角の大きさを見通しをもって測定する問題、理科であれば実験器具の名称や使い方など、授業で繰り返し取り上げることで定着が図れる学習活動に課題が見られる結果である。

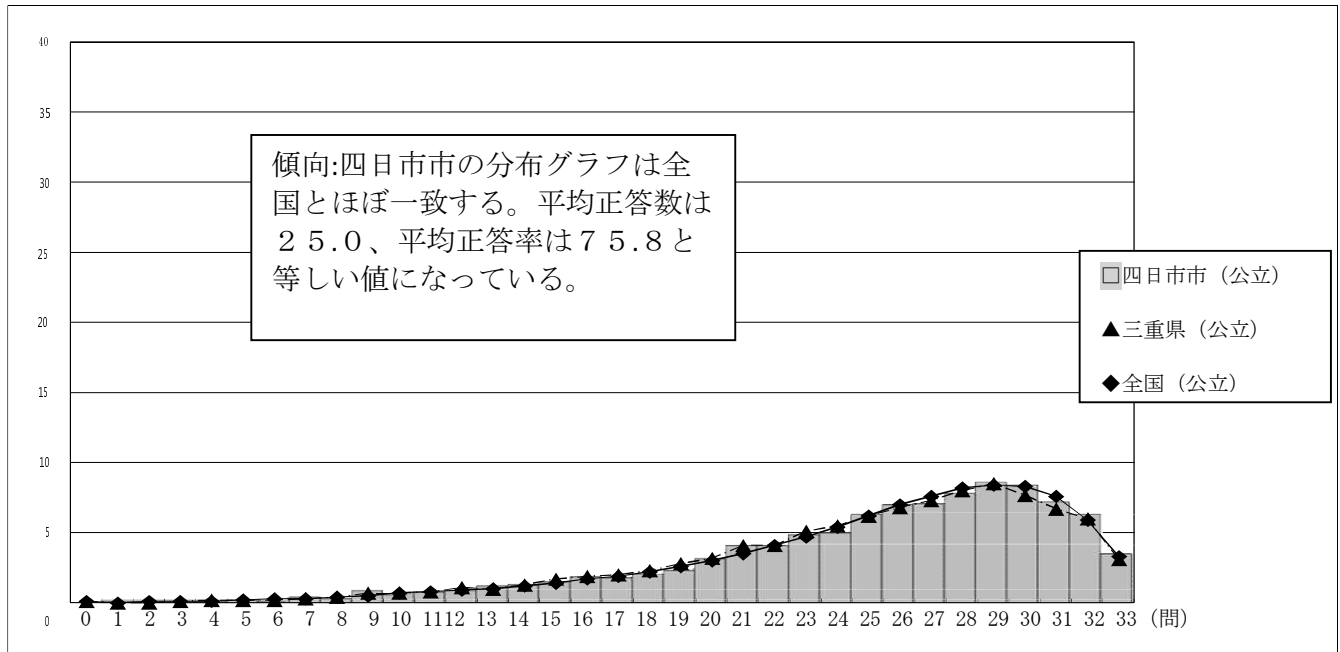
P15～19では、「教科の調査結果概要」を受けて「調査問題の分析および課題解決に向けた指導事例」を紹介している。分析結果をふまえて、実際に授業でどのように生かすのか、またどのように定着を狙うのか、具体的な手立てを示しているのので、各授業での活用が望まれる。

2 中学校・教科別 正答数分布グラフ

国語A

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市（公立）	2,761	25.0 / 33	75.8	26.0	6.0
三重県（公立）	15,908	24.8 / 33	75.0	26.0	6.0
全国（公立）	1,016,451	25.0 / 33	75.8	26.0	6.0

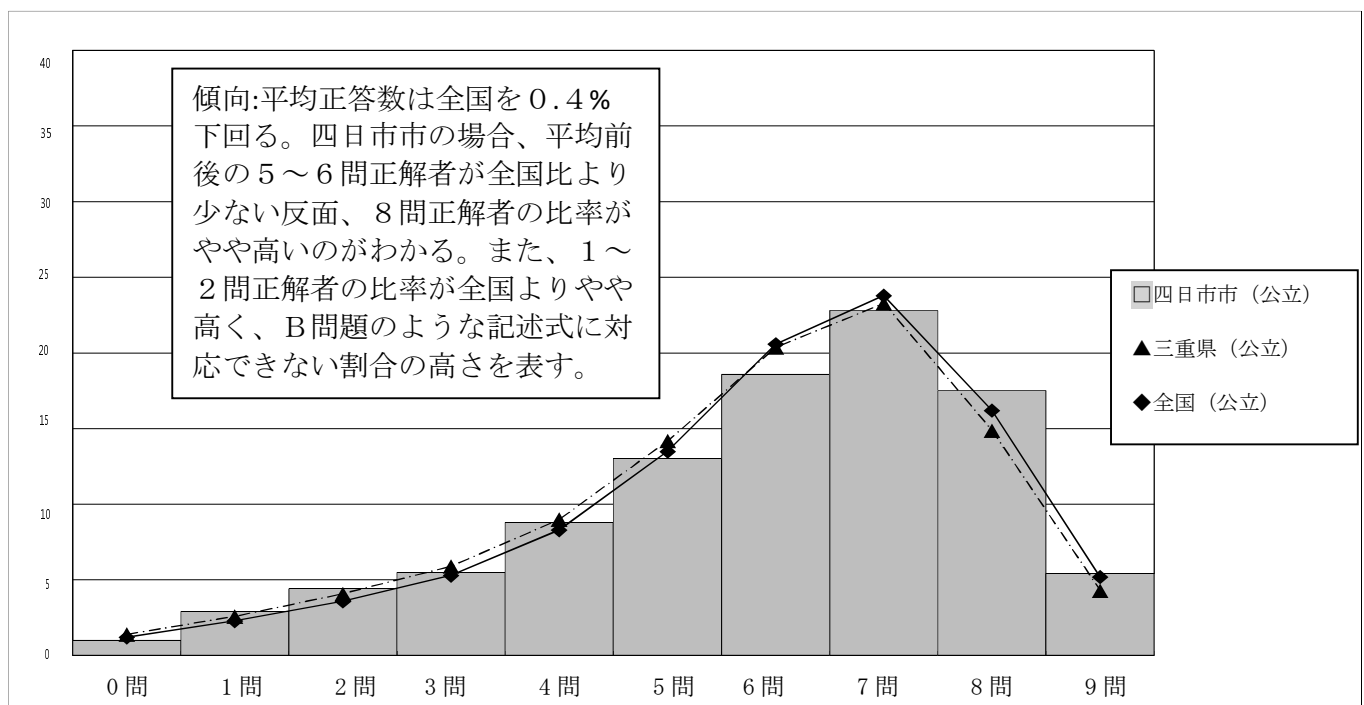
（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））



国語B

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市（公立）	2,758	5.9 / 9	65.4	6.0	2.0
三重県（公立）	15,905	5.8 / 9	64.3	6.0	2.0
全国（公立）	1,016,575	5.9 / 9	65.8	6.0	2.0

（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））

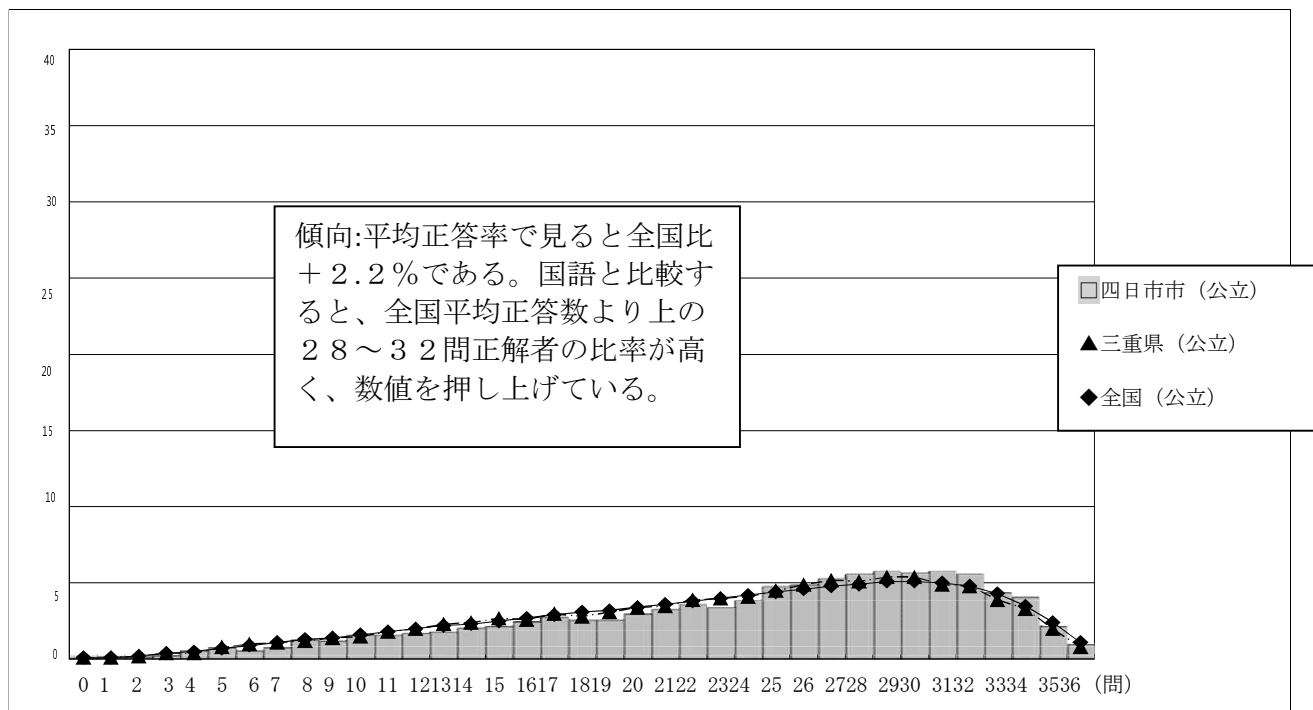


正答数分布グラフ

数学A

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,757	23.8 / 36	66.2	26.0	7.9
三重県(公立)	15,913	23.2 / 36	64.3	25.0	7.9
全国(公立)	1,016,737	23.2 / 36	64.4	24.0	8.0

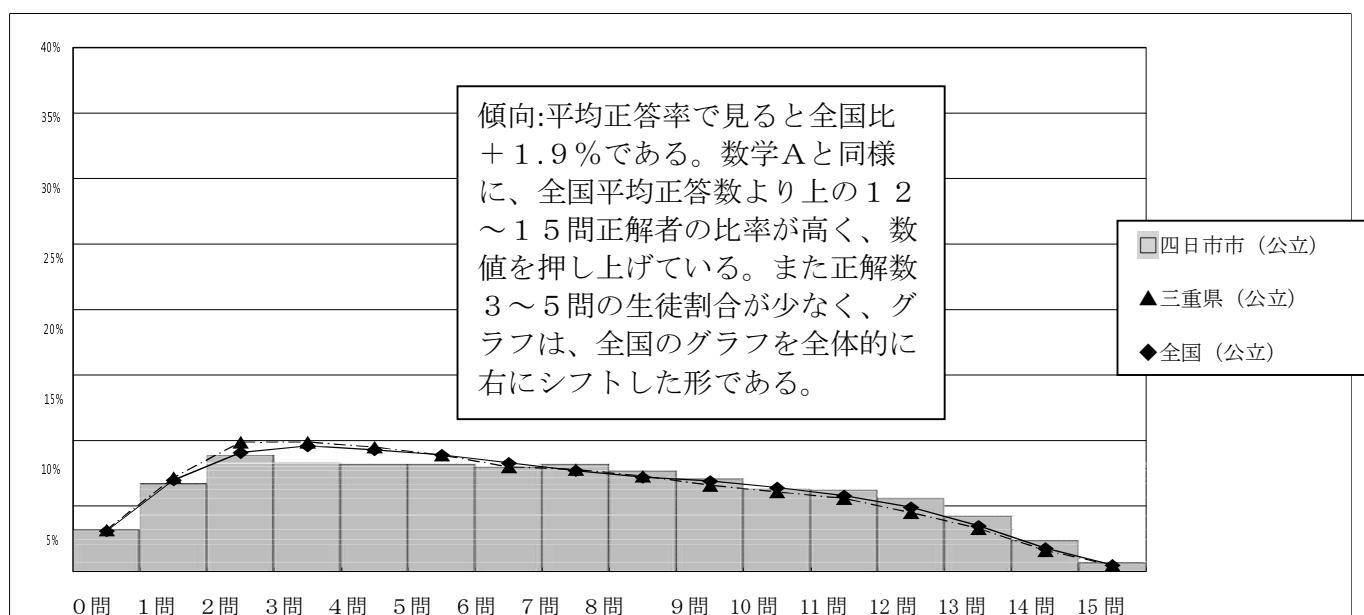
正答数分布グラフ（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））



数学B

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市(公立)	2,758	6.5 / 15	43.5	6.0	3.9
三重県(公立)	15,915	6.1 / 15	40.6	6.0	3.7
全国(公立)	1,016,548	6.2 / 15	41.6	6.0	3.8

正答数分布グラフ（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））

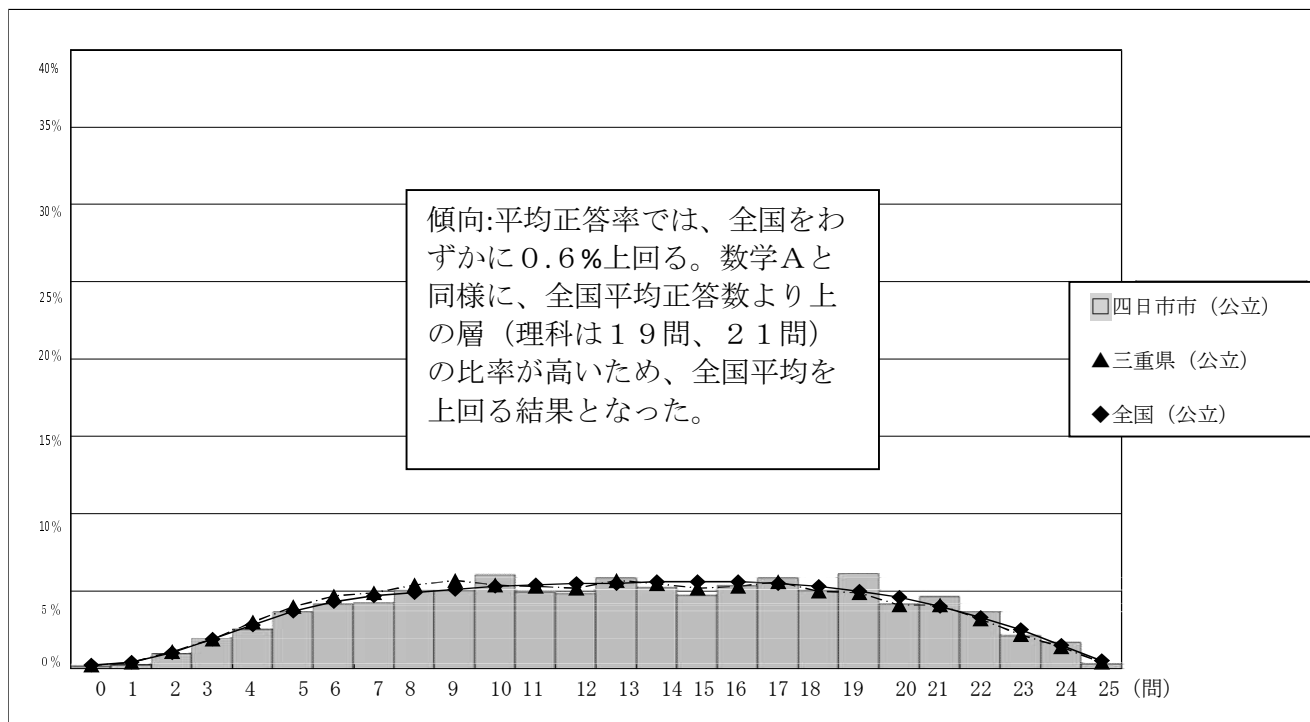


正答数分布グラフ

理科

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市（公立）	2,759	13.4 / 25	53.6	13.0	5.7
三重県（公立）	15,926	13.0 / 25	51.9	13.0	5.7
全国（公立）	1,016,572	13.3 / 25	53.0	13.0	5.7

（横軸：正答数（問）、縦軸：割合（％））



中学校 各教科の分布グラフから見えること

平均より少し上の生徒層が多く、平均正答率を押し上げる結果に

国語Aは平均正答率が全国と等しく、またグラフの形も一致しているため、これを基準に分析を進める。数学や理科は国語よりも平均正答率が高くなっており、平均正答数の分布グラフでは、平均直下の層が少なく、平均の少し上の層が多い傾向にある。全問正解に近い層は、国語・数学・理科ともに全国とほぼ変わらないことを考えると、中間層が少し右にシフトした形になっている。着実に正解を導きたい基本的な問いについては、ある程度対応できていると見ることができる。

国語Bについては、正解数1～2問の生徒の割合が全国を上回っており、充分に対応できなかったことへの対策が求められる。P20の「調査問題の分析および課題解決に向けた指導事例」でも類似の指摘を紹介しているが、作文題では制限字数をクリアしても、条件にしっかり応えた内容になっていない生徒が多い。授業において、単に字数を多く書くだけでなく、問題文を分析し、求められている内容を的確に書けるような練習が必要である。

数学においては「調査問題の分析および課題解決に向けた指導事例」P21で述べている通り、数字の操作はできても、なぜその操作が必要なのか、理由を説明する段になると正答率が下がる。B問題の全体的なグラフには表れないが、四日市市の課題として、事柄が成り立つ理由を説明する言語活動を伴う授業の充実が求められる。

理科も同様に、個別の問いを検証していく必要がある（P22参照）。たとえば、ある実験の考察を読んで、下線部を書きなおす問題では、実験の結果をふまえた考察が書けない生徒の割合が目立つ。国語Bとも関連するが、言語活動を充実させて、筋道の通った説明ができるように授業を工夫する必要がある。

3 校種・教科別 調査結果概要

【小学校 国語】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域別	国語A			国語B			問題形式	国語A			国語B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	1	53	53	0			選択式	7	64.2	66.4	3	67	68.6
書くこと	1	85.3	86	6	59.8	61.1	短答式	7	70.4	73.7	2	78.9	80.8
読むこと	4	52.2	55.2	6	67.2	68.1	記述式	0			4	54.7	55.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	73.8	77.2	0									

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 国語】

- ◎：正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○：正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽：正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼：正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
				話すこと・聞く	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化に関する事項	選択式	短答式	記述式
国語A	1ー3 漢字を読む（全員がすぐに承知した）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	▽							
	1ー2 漢字を書く（鳥の姿を観察する）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	▼							
	1ー3 漢字を書く（びょういんに行く）		▼							
	2ー 文の主語として適切なものを選択する	文の中における主語を捉える	▽							
	2ー 文の型として適切なものを選択する	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える	▽							
	5ー2 コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	▼							
	7 応募のきまりを守っていないものを選択する	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る	▽							
国語B	1ー2 見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける	▽							
	2ーア [ア]に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く	目的に応じ、中心となる語や文を捉える	▽							
	3ー2 声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する	▽							

【 小 学 校 算 数 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域別	算数A			算数B			問題形式	算数A			算数B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
数と計算	7	80.1	80.1	4	40.7	42.4	選択式	5	69.6	70.5	3	68.9	70.6
量と測定	3	68.6	71.3	3	40.7	41.7	短答式	11	76.1	77.3	5	40.4	42.2
図形	4	62.7	64.5	7	43.9	45.6	記述式	0			5	31.1	32.5
数量関係	2	84	84.9	3	41.7	43							

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 算数】

◎：正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○：正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
▽：正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼：正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式		
					数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式
算数A	1(1)	8.9-0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	○							
	1(2)	5.21+0.7は0.01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く	単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことができる	▽							
	3	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	▽							
	4(1)	90°、180°、270°、360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる	▽							
	4(2)	分度器の目盛りを読み、180°より大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	▽							
	5(1)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ	示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる	▽							
	5(2)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める	円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる	▽							
算数B	1(2)	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している	▽							
	2(2)	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる	▽							
	3(2)	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、⑦の角が30°になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、⑦の角が30°になる理由を記述できる	▽							
	4(1)	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	▽							
	5(2)	示された図形の色がついた部分の面積を求める	条件を変更した場合に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる	▽							

【 小 学 校 理 科 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

区分等		設問数	四日市	全国	問題形式	設問数	四日市	全国	枠組み	設問数	四日市	全国
A区分	物質	7	53	57.4	選択式	18	62.3	62.9	主として「知識」に関する問題	9	58.3	61.3
	エネルギー	6	65.8	65.6	短答式	3	55.3	63.6	主として「活用」に関する問題	15	59.6	60.5
B区分	生命	6	60.7	61.2	記述式	3	43.6	45.3				
	地球	7	56.1	57.8								

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 理科】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5 ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
▽ : 正答率が、全国平均よりも2 ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	枠組み		区分等				問題形式		
				に主として「知識」に関する問題	に主として「活用」に関する問題	A区分		B区分		選択式	短答式	記述式
						物質	エネルギー	生命	地球			
1 (1)	振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選ぶ	振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる	▽									
2 (1)	メダカのめすとオスを見分けるための観察する部分を選ぶ	メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	○									
2 (3)	示された器具（顕微鏡）の名称を書く	顕微鏡の名称を理解している	▽									
2 (5)	インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く	植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる	▽									
3 (2)	水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	▽									
3 (3)	水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ	水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる	▽									
3 (4)	示された器具（メスシリンダー）の名称を書く	メスシリンダーの名称を理解している	▼									
3 (5)	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けている	▼									
3 (6)	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	▽									
4 (5)	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	▼									

【 中 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域別	国語A			国語B			問題形式	国語A			国語B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	4	79.8	79.7	3	71.7	72.2	選択式	23	75.2	75.5	6	79.7	80.3
書くこと	5	73.3	73.6	3	36.9	36.7	短答式	10	77.1	76.7	0		
読むこと	5	85.7	86.1	6	62.2	62.6	記述式	0			3	36.9	36.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	73	72.9	0									

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【中学校 国語】

◎：正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○：正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
▽：正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼：正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
					話すこと・聞く	書くこと	読むこと	文化と国語に関する事項	伝統的な言語文	選択式	短答式
国語A	1二	「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	○							
	3一	用いられている表現の工夫として適切なものを選択する	表現の技法について理解する	○							
	9三イ	適切な語句を選択する（彼がこの討論の口火を切った）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	▽							
	9三エ	適切な語句を選択する（彼女は、学級の縁の下で力持ちと言える存在だ）		▼							
	9四②	「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する	単語の類別について理解する	○							
国語B	1二	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける	▽							
	2一ア	〔ア〕に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く	目的に応じ、中心となる語や文を捉える	▽							
	3二	声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する	▽							

【 中 学 校 数 学 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域別	数学A			数学B			問題形式	数学A			数学B		
	設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国	設問数	四日市	全国
数と式	12	68.3	67.7	4	63.7	63.2	選択式	19	66.6	64.6	4	49.1	47.9
図形	12	65.9	63.4	4	41.8	39	短答式	17	65.8	64.2	4	48.8	47.4
関数	8	64.7	61.7	5	32.9	30.7	記述式	0			7	37.2	34.8
資料の活用	4	64.1	63	2	32.7	31.2							

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【中学校 数学】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5 ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2 ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
				数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式
数学 A	2 (1) $5x-x$ を計算する	一次式の減法の計算	○							
	2 (2) 白いテープの長さを a を用いた式で表す	数量の関係を文字式に表す	▽							
	2 (3) 等式 $2x-y=5$ を y について解く	等式を目的に応じて変形する	○							
	2 (4) 連続する3つの整数の和は、中央の整数の3倍になることを n を用いた式で表す	文字を用いて数量の関係を説明するための構想を理解している	▽							
	3 (2) 一元一次方程式 $1.2x-6=0.5x+1$ を解く	一元一次方程式を解く（小数）	○							
	3 (3) 連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ	連立二元一次方程式をつくる	○							
	4 (2) $\triangle ABC$ を、平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかく	○							
	5 (1) 与えられた辺に垂直な面を書く（直方体）	空間における直線と平面の垂直の理解	○							
	5 (3) 与えられた投影図から立体を読み取る。	空間図形の読み取り	○							
	5 (4) 与えられた式で体積が求められる立体を選ぶ	体積を求める。立体の理解	○							
	6 (1) 同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	同位角の意味の理解	○							
	7 (2) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く	三角形の合同条件の理解	○							
	7 (3) 平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	平行四辺形の条件の理解	◎							
	10 (1) 反比例のグラフを選ぶ	反比例のグラフの理解	◎							
	10 (2) 比例 $y=2x$ のグラフ上の点 A の x 座標が3のときの y 座標を求める	x 座標を基に y 座標を求める	○							
	10 (3) 比例のグラフから、 y の変域を求める	x の変域に対応する y の変域を求める	◎							
数学 B	12 (1) グラフから、速さが最も速い区間を選ぶ	グラフの傾きが速さを表すことの理解	○							
	14 (1) 反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求める	▽							
	15 (1) セットメニューの選び方の総数を求める	順序よく整理し、場合の数を求める	○							
	15 (2) さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味の理解	○							
	1 (1) 投映距離と投映画面の高さの関係を式で表す	必要な情報を選択し、的確に処理する	○							
	3 (2) 点 F の位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	問題解決の方法を図形の性質を用いて説明する	○							
	4 (2) 正方形 $ABCD$ を平行四辺形 $ABCD$ に変えても、 $AE=CF$ となることの証明を完成する	条件を変えた場合について証明する	◎							
	6 (1) 中心角の大きさ x と半径の長さ y の間にある関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、2つの数量の関係が比例であることを判断できる	○							
	6 (2) 側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する	与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明する	○							

【 中 学 校 理 科 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

分野等		設問数	四日市	全国	問題形式	設問数	四日市	全国	枠組み	設問数	四日市	全国
第1分野	物理的領域	7	49.6	48.9	選択式	16	53.5	53.1	主として「知識」に関する問題	7	63.6	63.8
	化学的領域	7	57.2	56.2	短答式	4	61.5	61.6	主として「活用」に関する問題	18	49.7	48.8
第2分野	生物的領域	6	61.2	62.2	記述式	5	47.6	45.8				
	地学的領域	6	47.8	46.4								

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【中学校 理科】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5 ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2 ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	枠組み		分野等				問題形式		
				に主として「知識」に関する問題	に主として「活用」に関する問題	第1分野		第2分野		選択式	短答式	記述式
						物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域			
1 (1) 濃度	濃度 5% の塩化ナトリウム水溶液 100 g をつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める	特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる	◎									
1 (3)	水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する	二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる	○									
2 (1)	天気図から風力を読み取る	天気の記事から風力を読み取ることができる	○									
2 (2)	天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ	天気の記事から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測することができる	▽									
2 (3)	湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善する	他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる	○									
3 (1)	13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い湿度を選ぶ	露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる	○									
4 (2)	ヒトの「目のレンズと網膜の距離はほぼ変わらない」という条件に合う方法を選ぶ	他者の考えた実験の方法を検討して改善し、適切な方法を説明することができる	○									
6 (1)	音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠として、正しいものを選ぶ	日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することができる	○									
7 (1)	消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ	デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる	○									
8 (1)	背骨のある動物の名称を答える	背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる	▼									

4 調査問題の分析および課題解決に向けた指導事例

小学校国語

「漢字の読み書きなど、言語に関する知識・理解の習得」に向けた低学年からの指導の展開

国語A ① 漢字を読んだり書いたりする

次の一と二の問いに答えましょう。

- 一（読み） 1 友人を家に 招く。
2 自分の 信念 をつらぬく。
3 全員がすぐに 承知 した。
- 二（書き） 1 シャワーを あ びる。
2 鳥の す を観察する。
3 びょういん に行く。

正答率全国平均（100％）との比較

+0.1％
+0.1％
-3.3％
-1.2％
-7.3％
-6.4％

学習する学年

5年
4年
2・5年
4年
4年
3年

国語A ② 文の構成を理解する

次の一と二の問いに答えましょう。

- 一 主語として適切なものを選びましょう。
- 1 降っていた 雨が、急に やんだ。
2 ぼくの 妹の 誕生日は、五月二日だ。
- 二 【文の型】ア・イ・ウのどれにあたりますか。
- 1 私は、国語の学習で感想文を書いた。
2 頂上から見える景色は、素晴らしい。
3 日本で一番高い山は、富士山だ。

正答率全国平均（100％）との比較

-3.2％
-4.6％

学習する学年

1・2年
3・4年

【文の型】

- ア 「何は（が）」～「何だ」
イ 「何は（が）」～「どうした」
ウ 「何は（が）」～「どんなだ」

<結果・課題>

国語A①の漢字を書く問題は、「①浴びる（4年） ②巢（4年） ③病院（3年）」の3題出題されている。この3つの問題については、すべて全国平均を下回っている。

また、国語A②では、文の構成の理解について問う問題「①文章が文節ごとに区切られており、その中から主語を選ぶ問題 ②例文の文の構成を捉え、その文の型を選択する問題」の2題が出題されているが、どちらの問題も全国平均を下回っている。

<対策>

漢字の「読み書き」の平均割れの傾向は、今年だけでなく平成25年、平成26年も同様であり、早急に対応が必要であると言える。また、本年度の言語に関する知識・理解の問題は、いずれも4年生以下の学年で主に学習する内容であり、学力調査を受ける直前の5年生での学習というより、むしろそれまでの積み上げが影響しているとも言える。漢字の読み書き、言葉の特徴やきまりなど、言語に関する基礎的な知識の習得は、低学年からの積み上げが大切である。

②条件作文（新聞記事にする）

①インタビューの様子、
話した内容を読み取る。

①、②の順で「ア」の中に
【中田とよさんへのインタ
ビューの様子】の内容を読
み取って書き、新聞記事に
する。

②条件作文（新聞記事にする）

①インタビューの様子、
話した内容を読み取る。

①、②の順で「ア」の中に
【中田とよさんへのインタ
ビューの様子】の内容を読
み取って書き、新聞記事に
する。

②条件作文（新聞記事にする）

①インタビューの様子、
話した内容を読み取る。

①、②の順で「ア」の中に
【中田とよさんへのインタ
ビューの様子】の内容を読
み取って書き、新聞記事に
する。

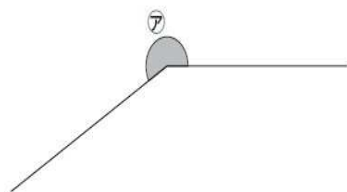
正答率 (全国) 35. 6% (三重県) 34. 7% (四日市市) 34. 6%

小学校算数

見当をつけ、その結果を振り返って確かめる指導の展開

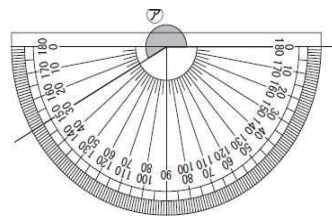
算数A 4 角の大きさ

(1)



- 1 90°未満である。
- 2 90°以上で、180°未満である。
- 3 180°以上で、270°未満である。
- 4 270°以上で、360°未満である。

(2)



<結果・課題>

(1) の正答率は78.7%とおおよその見当をつけることができています。しかし、(2) の正答率は54.8%である。誤答としては、150°と解答している反応率が37.3%、30°と解答している反応率が3.0%である。角の測定において、測定する角の大きさがどの角であるかを意識せず、分度器の目盛りの数値をそのまま読んで解答している。

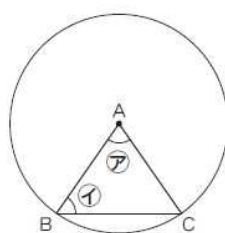
<対策>

「角の大きさの見当をつける」「角の大きさを測定する」「角の測定の結果を振り返って確かめる」の各活動を関連づけて、角の大きさを測定できるようにする。このことは、測定する場合だけでなく、計算でも同様である。

根拠となる事柄や理由を説明する指導の展開

算数A5 算数B1・3

- (1) 次の図が二等辺三角形になる (2) 角アの70°のとき、理由を選択する。 角イは何度か。



<結果>

(1) の正答率は48.3%であるが、(2) の正答率は60.7%である。誤答としては、70°と解答している反応率を見ると18.2%である。

<課題>

円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることに課題があり、なぜ、二等辺三角形になるのか根拠を明確に考えることができていない。

B問題の1・3においても同様のことが言える。

<対策>

作図する活動においては、作図の方法と図形の特徴と関連付けて捉えることができるようにする。「なぜそのような方法で作図できるのか。」と操作の意味を考えさせたり、「なぜその求め方で角の大きさを求めることができるか。」と根拠を明確に説明させたりする活動を大切にしたい。

小学校算数

似た問題に取り組み、理解を確実にする。

<対策>

- ・(基礎基本の定着) 学習した内容の理解を深める問題や繰り返し練習する問題に取り組む。
- ・(活用力を育む) 発見したことやわかったことが他の場面や問題に活用できるかどうか確かめる。
→自分でやってみてよさを実感！

【学習活動例】

学習課題

みかさんは、250円のマジックペンを、30%びきのねだんで買いました。代金はいくらですか。

追加問題

けんさんは、3600円のゲームソフトを25%びきのねだんで買いました。代金はいくらですか。

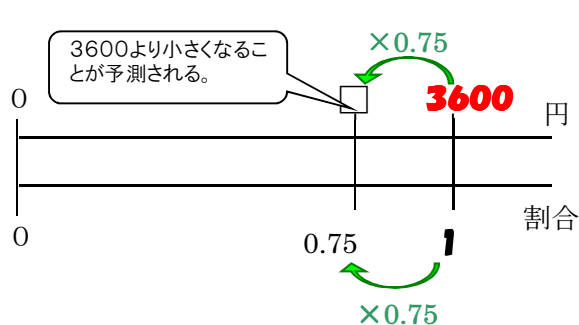
- ① 式と答えを書きましょう。
- ② 数直線をかいて説明しましょう。
- ③ 3600×0.25 と式をかいた人がいました。
その子にわかるように説明しましょう。
- ④ 場面設定の違う問題を扱う。

式と答えが求めることができればよいのではなく、本時のねらい、子どもたちの実態に合わせて工夫をしたい。
自分で問題づくりをする活動も理解を深めることができる。

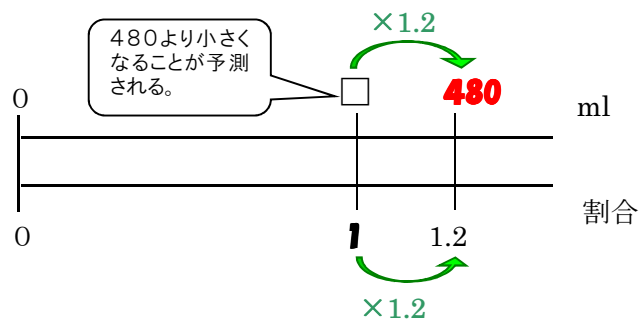
(例) 家で使っているせんざいが20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480mlです。増量前のせんざいの量は何mlですか。式と答えを書きましょう。

【数直線や図の活用】

小数倍や分数倍の意味指導をする際に、「**基準量×割合＝比較量**」の関係を公式や言葉の式だけでなく、数直線や図などを用いたり具体的な場面に当てはめたりしてわかりやすくすることや、□を使った乗法の式に表してから、除数で求めるという考えを用いることが大切である。また、**図を基に演算決定をしたり、立式の根拠を説明したり**できるよう系統的に指導していきたい。



$$3600 \times (1 - 0.25) = \square$$



$$\square \times (1 + 0.2) = 480$$

$$\square = 480 \div 1.2$$

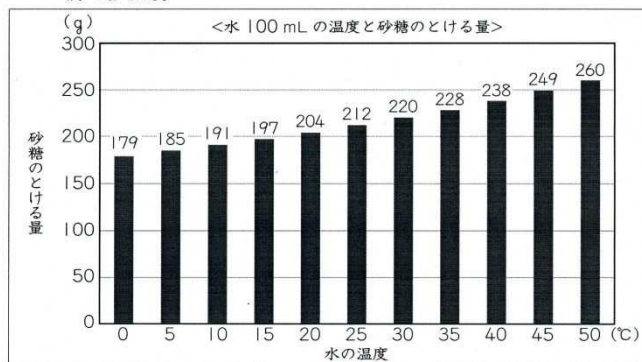
※平成27年度使用教科書（東京書籍）では、5年生上で比例の単元を設定し、比例関係と図の指導を扱っている。また、巻末には数直線の図の指導についても掲載している。（4年生下の巻末にも掲載）

※系統的な図の指導については、「平成26年度全国学力・学習状況調査結果の分析」（四日市市作成）小学校算数のページ参照。

例 3 (6)

(6) としおさんは、20℃の水 100 mL を 50℃にあたためてから、砂糖を入れてかき混ぜました。すると、とけ残りが出たので、ろ過してから砂糖水を冷蔵庫で保管しました。次の日、冷蔵庫からとり出すと、底に砂糖がたまっていました。

そこで、としおさんは、水の温度と砂糖が水にとける量との関係を調べました。



としおさん

グラフから、ろ過してとけ残った砂糖をとり除いた 50℃の砂糖水には、260 g の砂糖がとけていることがわかるね。

水の温度が下がると、砂糖のとける量が減っていくんだね。



ゆかりさん

前のページのグラフから考えると、砂糖水を 5℃の冷蔵庫からとり出したとき、とけきれなくなってたまっていた砂糖は約何 g だと考えられますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。

- 1 約 19 g
- 2 約 75 g
- 3 約 185 g
- 4 約 260 g

全国の正答率 四日市の正答率
28.9% 26.2%

○解答類型(四日市)

正しい答え2を選択し、理由も正しく記述できた	26.2%
正しい答え2を選択したが、理由を正しく記述できていないあるいは理由が未記入のもの	14.1%
正しい答え2以外を選択	53.9%
無回答	5.8%

理由を正しく記述できない子が14.1%いる

<課題>

- ① 50℃における砂糖の溶解量、5℃における砂糖の溶解量については読み取れているが、2つのグラフを関連付けて、水温に伴って物が水に溶ける量に変化することや、この性質を利用して溶けている物を取り出せることが理解できていない。
- ② 答えとして正しい選択肢を選ぶことはできているが、その理由が示せていない。

<対策>

- ① あらかじめ決まっている実験方法をノートに写させるのではなく、課題に対する予想を持たせ、それを明らかにするための実験方法を子どもたち自身に考えさせる。
- ② 実験において複数の条件がある場合、何を変えて何を変えないのかを整理することによって、条件と実験結果との関係を明確にとらえさせる。
- ③ 観察、実験の結果を基に、事実と解釈の両方を示しながら理由を説明し自分の言葉でノートに書く活動を行う。
- ④ 結果をグラフにまとめるだけでなく、グラフから読み取る問題にも数多く触れさせる。
(啓林館わくわく理科プラス、東書ウェブ等の活用)

○ その他の問題についての解答状況から浮かび上がってきた課題に対する対策

- ① 一人ひとりに実験器具の操作をさせるとともに、なぜそうすることが必要か、操作の意味とつなげてとらえさせる。
- ② 教室の壁面に方位を掲示したりするなど、日常生活の中で方位を意識する機会をつくる。
- ③ 1週間に1回程度は理科の宿題を出し、問題を通して科学的に考察する力を育てる。
- ④ 実験器具の名前や現象等、覚えなくてはならない理科用語については、その単元での学習だけでなくとどまるのではなく、フラッシュカードを作成して活用する等、繰り返して学習する。



くり返し学習って大切なんだね

○メスシリンダーの正答率

全国	70.7%
四日市	53.4%
フラッシュカードでのくり返し学習に取り組んだ市内の学校	96.6%



中学校国語については、中学校入学後に授業で扱われる内容の理解は全国平均を超えている。たとえば、「青い」と「青さ」の品詞の区別や、擬態語と直喩の区別などである。

しかし、既存の知識や言語力を生かして、文章を吟味したり、考えを条件に合わせて表現したり、といった「繰り返し練習が必要な設問」への対応力は、四日市市の課題であり、B問題が全国平均を下回る要因にもなっている。回答類型から誤答を分析すると、生徒は「なんとなくこれでいいか」という考えのもとに選択肢にあたったり、記述したりする傾向がうかがえる。以下に代表的な問いを紹介する。

B問題② 二 四択問題…消去法で検証できずに、なんとなく「よさそう」なものを選ぶ傾向

【雑誌の記事の一部】に書かれていることとして最も適切なものを、次の1から4までの中から、一つ選びなさい。

- 1 リハビリテーションやレスキュー活動などを支援する装着型ロボットが、日本では既に普及しているということ。
- 2 空港でのパトロールなどに使用されている搭乗型ロボットが、十年以上前に日本で初めて開発されたということ。
- 3 装着した人の意思を読み取りサポートする装着型ロボットの開発が、日本で進められているということ。
- 4 人の移動を支援する搭乗型ロボットが、身体機能の回復のためにも役立つよう日本で改良されているということ。

<課題>

正解にたどりつくには次のようなプロセスを経るのだが、四日市では1の誤答が多い。言葉ひとつひとつを丁寧に分析して読まないと、どれもよく見えて、安易に最初の選択肢1を選んでしまう。

× 1、2は_____部について本文でははっきり書いていないので×。4の身体機能の回復のためにも役立つのは、装着型ロボットであるから×。

○ 装着型、搭乗型をひっくるめて、ロボットの開発は進められている。つまり装着型の開発も進められているわけで3が正解。迷うなら2か3で迷いたいところである。

<対策>

授業の中で、上記のようにきちんと消去法で分析していく機会が設けられているかどうか。鉛筆で気になる部分に_____を引くなど、常に筆記用具を使う習慣をつける指導も求められる。発表する生徒は黒板の前に出てきて、指し棒（体が聞いている人の方に開き、説明する文字から離れるという利点がある）などを使って、教師のように説明するなど言語活動の場を工夫する。

B問題② 三 条件作文 決められた字数はしっかり書けるが、他の条件への意識がうすい生徒の実態

あなたは二〇二〇年の日本は、どのような社会になっていると予想しますか。また、その社会にどのように関わっていきたいと思いますか。あなたの考えを、次の条件にしたがって書きなさい。

条件1 【雑誌の記事の一部】や【ウェブページの文章】、【日本の人口推移を表したグラフ】の中から二つを選び、それらの内容を取り上げて具体的に書くこと。

条件2 「二〇二〇年の日本は、」に続けて、八十字以上、百二十字以内で書くこと。

<課題>

他の問いを見ても、条件2のような必要字数については、四日市の生徒は到達していることが多い。しかし、この問いは条件1、2の他にも隠れた条件が存在している。「どのような社会になっているか」「その社会にどのように関わっていききたいか」をしっかり表現する必要があり、これらをクリアできていないのである。

<対策>

字数は充分に書けるので、問題文が求めていることをきちんと分析して、入れ込んでいく練習が不足していると考えられる。また、条件が本問のように複数設定されていると、正答率の全国比が下がる傾向にあるため、字数以外の複数の条件を与えて、条件に即して答える練習が必要である。

数学B1 プロジェクターの最適な投映距離を見つける

- (2) スクリーンの高さは4.8 m、幅は5.6 m。投映画面を、スクリーンからはみ出ないようにして、できるだけ大きく映し出すためには、投映距離を何mにすればよいか。(選択問題)
- (3) 映像の明るさと投映画面の面積の関係から、映像の明るさを2倍にするためにどうすればよいか、正しい事柄を選択し、その理由を説明する。

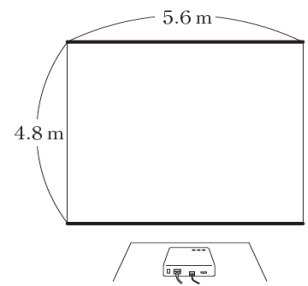
<課題>

(2) の正答率は34.3%である。「8 m」と選択した反応率は33.1%である。投映画面の高さがスクリーンの高さと同じ4.8 mになるときの投映距離を求めている。「投映画面がスクリーンからはみ出ないように、できるだけ大きく映し出すため」の投映距離を求めることが解釈されていない。

(3) については、正しく選択できていても理由が説明できていない反応率が66.4%である。

<対策>

実生活の場面での問題を解釈する活動を取り入れ、与えられた情報から目的に応じて必要な情報を適切に選択し、事象に即して数学を活用できるようにしたい。また、捉えた関係を根拠として事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れることが大切である。



小中連携の充実を図る

数学A2 (2) 数量関係と文字式

赤いテープの長さは a cm です。赤いテープの長さは、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍です。白いテープの長さは何 cm ですか。 a を用いた式で表しなさい。

<課題>

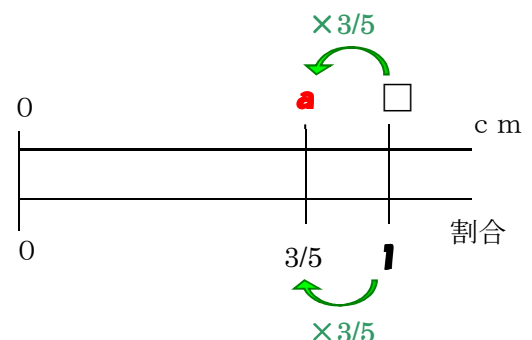
全国平均正答率も23.6%と低いが、四日市市はさらに3.9%低い正答率である。また、誤答については $\frac{3}{5}a$ (m) と解答した反応率が56.3%である。この問題は平成24年度全国学力・学習状況調査(今回の調査対象である生徒が小学校第6学年当時に実施した調査)小学校A問題では、右のような問題が出題されている。この問題の正答率は39.5%(全国より1.8%低い)であった。この結果から、数量の関係を文字式に表すことに課題がある。

赤いテープの長さは120 cmです。赤いテープの長さは、白いテープの長さの0.6倍です。白いテープの長さは何 cm ですか。白いテープの長さを求める式を書きましょう。(平成24年度小学校A問題)

<対策>

関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉えさせる。小学校では、右のような数直線の図を使って指導している。

小学校でどのような学習が行われており、生徒たちがどのような力を付けて中学校に入学しているか把握しておく必要がある。各中学校へ配付している小学校の教科書も活用していきたい。



各問いに対する正答率は、ほぼ全国平均を上回っているが、以下に示すような課題も見受けられる。その例を「活用」「知識」それぞれにおいて紹介する。

○「活用」に関する問い

例 8 (3) この問題そのものが、課題に正対していない考察を正す問いとなっている。

8 健さんは飼育している数種類の魚を観察していたところ、季節によってえらぶたの動きに違いがあることに気づき、実験を行いました。

(1) から (3) までの各問いに答えなさい。



(3) 【考察】は、課題Ⅱに対して適切とはいえません。課題Ⅱに対して適切な【考察】となるように、下線部を書き直しなさい。

レポートの続き

課題Ⅱ

ほかの種類の魚でも、えらぶたの開閉回数は、水温が高くなると増えるのだろうか。

【方法】

フナとナマズをそれぞれ3匹用意し、課題Ⅰと同様に実験を行い、課題Ⅰのハゼの【結果】と比較する。

【結果】

表2

水温	10℃	15℃	20℃	25℃
ハゼ	8	17	32	43
フナ	36	42	52	57
ナマズ	28	32	44	65

※数値はそれぞれ3匹の平均値

【考察】

【結果】の表2から、水温が10℃から25℃の範囲では、同じ水温でも、魚の種類によってえらぶたの開閉回数は異なると考えられる。

<課題>

「ほかの種類の魚①でも、えらぶたの開閉回数は、水温が高くなると増える②のだろうか」という課題に対して「表2の観察結果(事実)を根拠とし、課題に正対した考察を表現する」ことがポイントである。

正答例は「フナとナマズ①のえらぶたの開閉回数は、水温が高くなると増える②」である。

ここでの正対した考察とは、課題の下線部①「『フナとナマズ』」についても記述していること、かつ、下線部②「『水温が高くなると、えらぶたの開閉回数が増える傾向にある』」と解釈していることである。

正答率は全国が47.4%であったのに対して、四日市市では全国と同じく47.4%であった。しかし正解であっても、「フナやナマズ」を「すべての魚」や「どんな魚」というように実験していない魚についても範囲を広げていたり、「魚に関する記述がない」解答が全国比で高い傾向にあった。

<対策>

① 考察のための「書く活動」の時間を保障する。

さらに「説明」する時間があれば学びが深まる。

【課題に対して→「結果(現象)＋解釈」
というようにノートやプリントに書かせる。

② 課題・問いと答えの関係を明確化する。

☆課題が「○○の運動を調べよう」では答えは「○○の運動を調べた」となる。「～～のとき、○○はどのような運動をするだろうか」では「～～のとき、○○は□□□□【解釈】な運動となる」となり、答えとの関係が明確になる。これによって評価基準もはっきりし、学習状況から指導への振り返りも可能となる。

③ 他者の考察をお互いに見比べたり、聴き合うことで再考させ、学びを深めていく。



○「知識」に関する問い

<課題>学習用語の理解

例 背骨のある動物を「セキツイ動物」と解答する問い→全国比で正答率が低い。

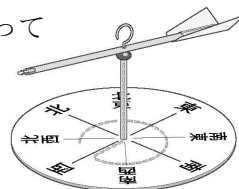
<対策>授業での説明に加え、単元末などにおいて小テストを繰り返すことで、知識の定着を図る。

<課題>実験・観察の技能の習得

例 「天気記号から風向を読み取り、風向計を使って

風向を観測することができるか」を問う問題→全国比でやや正答率が低い。

<対策>習得させたい“実験・観察の技能”を明確にし、できる限り実験・観察の場面を仕組む。また、何度も繰り返すような基本的な実験操作についてはパフォーマンステストを行い、その評価を指導に活かす。



5 各質問紙の調査結果からみえてくること

(1) 学習状況と学力の相関からみえてくること

児童・生徒質問紙によって明らかになった学習状況と各問題の正答率との相関についてその傾向をみる。

【グラフの見方について】 グラフには、以下の4種類があります(本文中ではA、B、C、Dの種別表示を省略しています)。

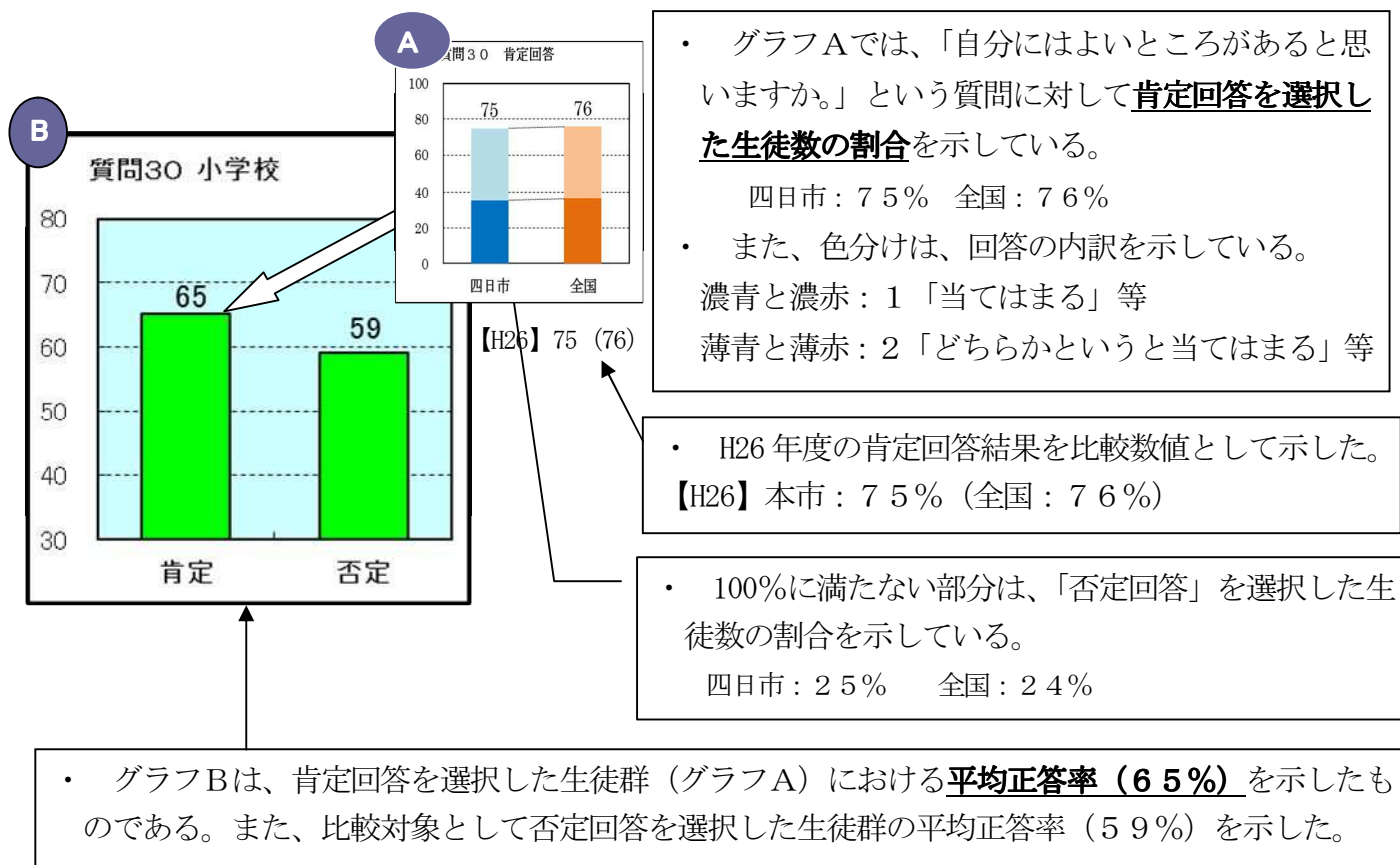
グラフ	A	質問に対して肯定回答をした児童・生徒数の割合(全国との比較)
グラフ	B	肯定回答と否定回答をした児童・生徒群の平均正答率の比較
グラフ	C	質問に対して各選択肢の児童・生徒数の割合(全国との比較)
グラフ	D	各選択肢を選んだ児童・生徒群の平均正答率

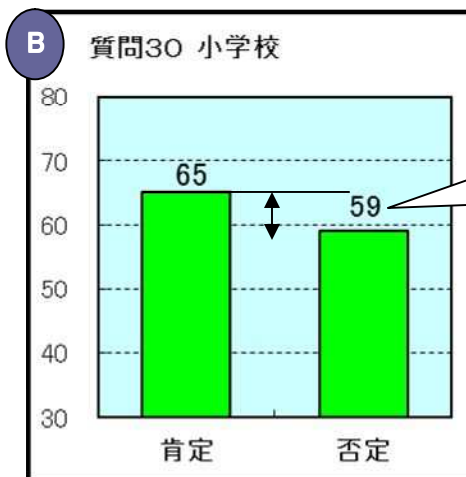
【肯定回答と否定回答の区別について】

肯定回答とは	1 「当てはまる」 2 「どちらかという当てはまる」 など
否定回答とは	3 「どちらかという当てはまらない」 4 「当てはまらない」 など
除外されるもの	その他(選択肢以外の回答や複数回答されたもの) など

● 「グラフA」と「グラフB」の見方・肯定回答を選択した生徒の正答率を示した項目例を取り上げた

(質問27) 自分にはよいところがあると思いますか。



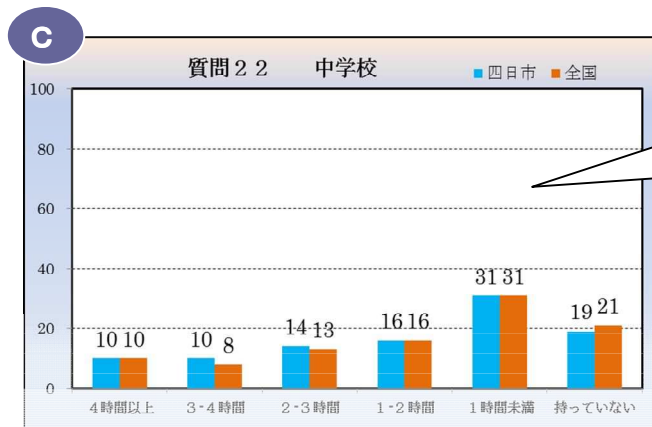


- 肯定回答をした生徒の平均正答率と否定回答をした平均正答率の差が大きいほど、その質問に関しては正答率への影響が顕著であると考ええる。

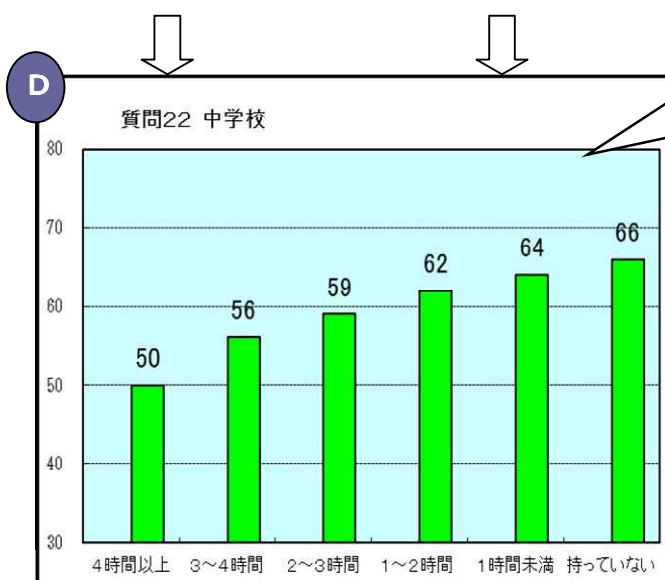
※ このグラフからは、6ポイントの開きがあり、肯定回答をする生徒の方が優位である。

● 「グラフC」と「グラフD」の見方 ・ 時間帯とその回答群の平均正答率を示した項目を取り上げた。

(質問19) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



- グラフCでは、各時間帯の生徒数の割合を四日市と全国の比較で示している。



- グラフDは、質問に係る所要時間帯等とその時間帯等を回答した生徒群の平均正答率を表したものである。

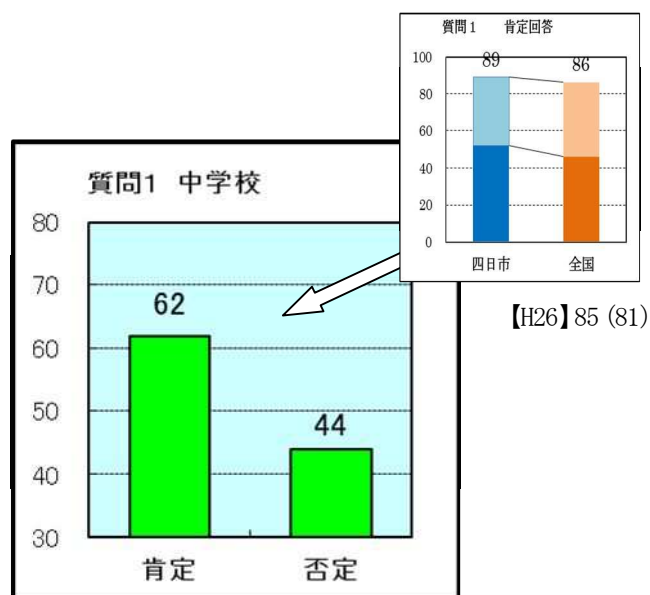
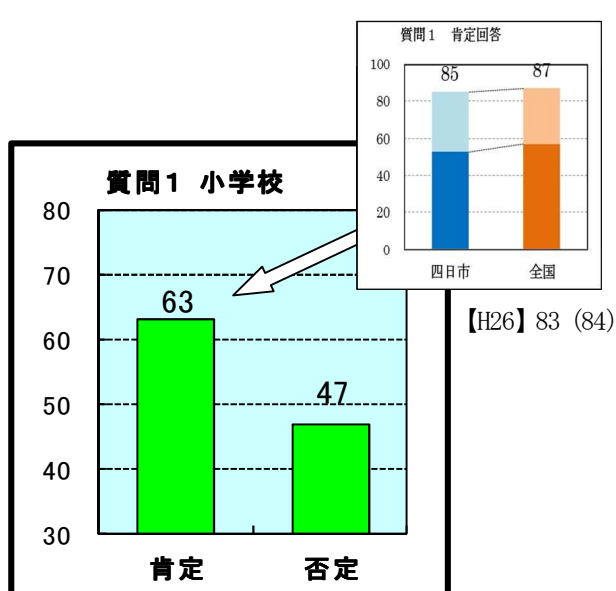
※ グラフDからは、中学校においては、「持っていない」と回答した生徒の平均正答率が最も高く、使用時間の長さに比例して平均正答率が低下する傾向が見られる。

① 学習に対する関心・意欲・態度

○ 平均正答率が高い傾向を示す児童生徒の学習状況

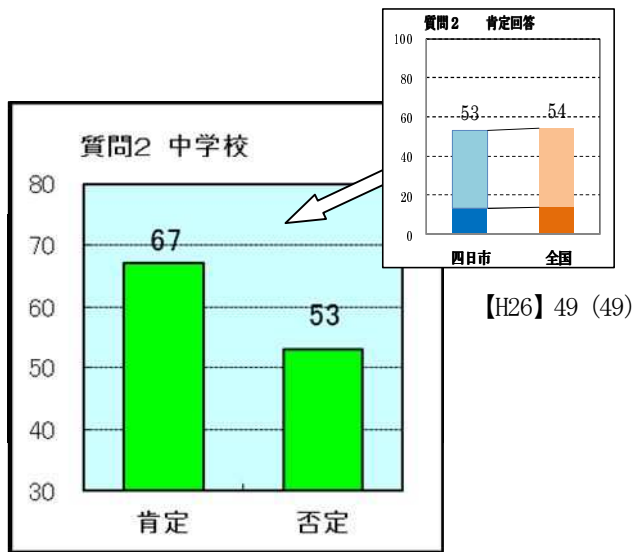
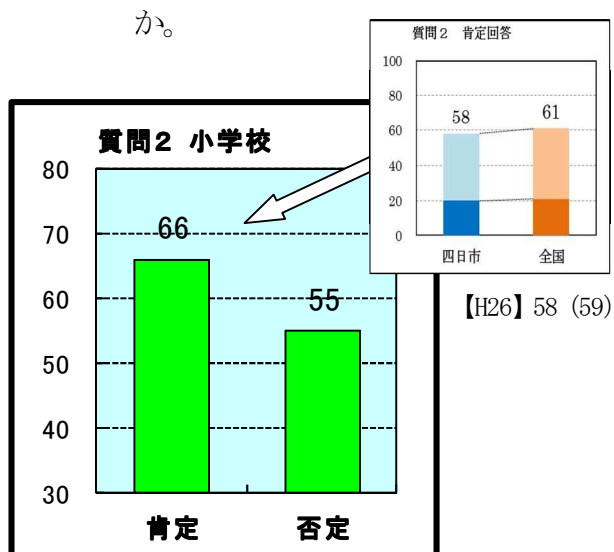
- ・国語、算数・数学、理科の学習に対する関心・意欲・態度に関する項目に肯定的に回答している場合。理科では、実験に対する予想や、実験後の考察がしっかりできている場合。
- ・日常から意見などを発表するとき、相手に伝わるように話の組み立てを工夫している場合。
- ・資料を目的に応じて必要な事柄を読み取り、自分の考えや意見を話したり、書いたりしている場合。
- ・日常から自分の考えを書くときにその理由がわかるように気をつけて書いていたり、公式やきまりなどを学習するとき、その根拠を理解するようにしたりしている場合。
- ・授業の中で自分の考え方や解き方などをノートに書いて考える場合。

(質問1) 昨年度までの授業で自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。

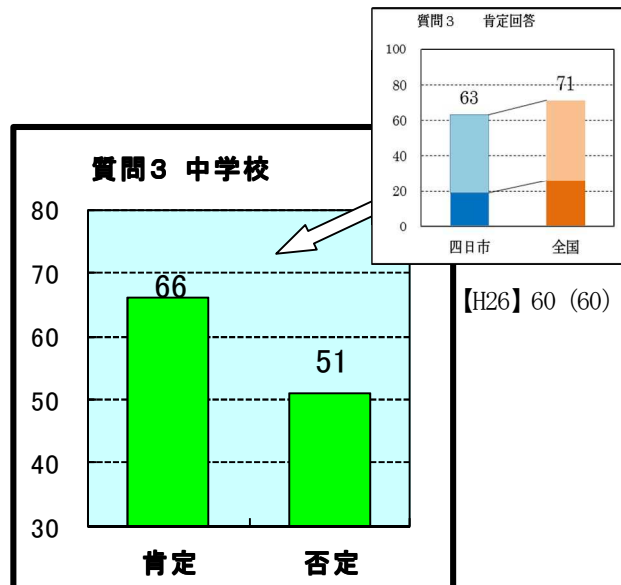
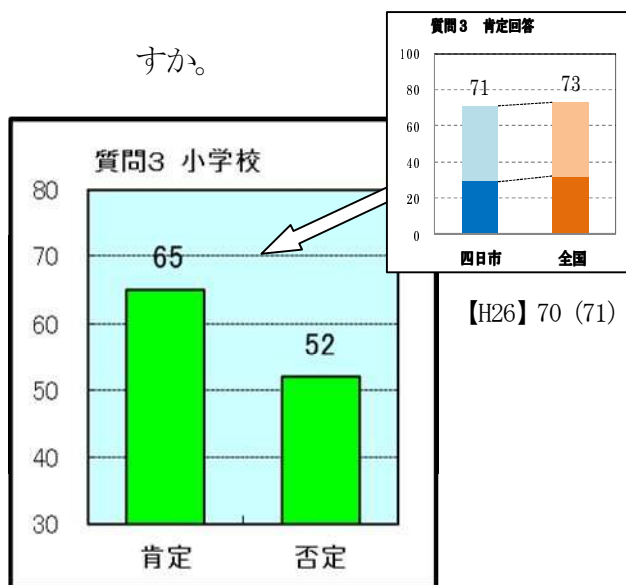


< 国語 >

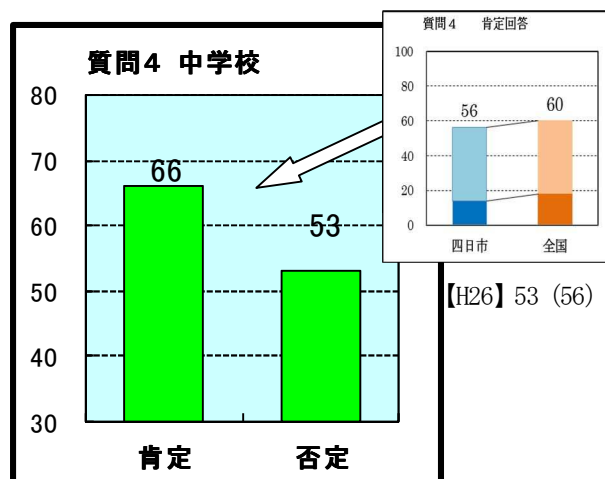
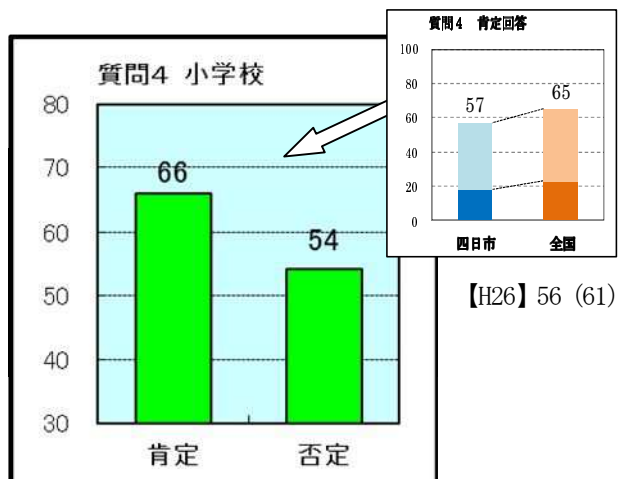
(質問2) 国語の授業で意見など発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。



(質問3) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。

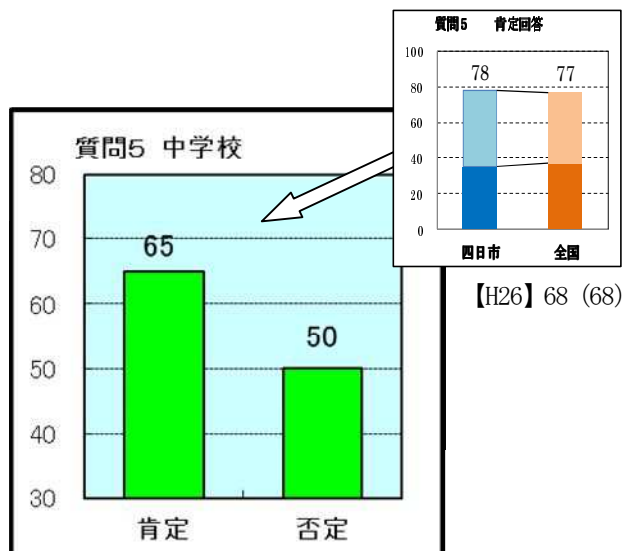
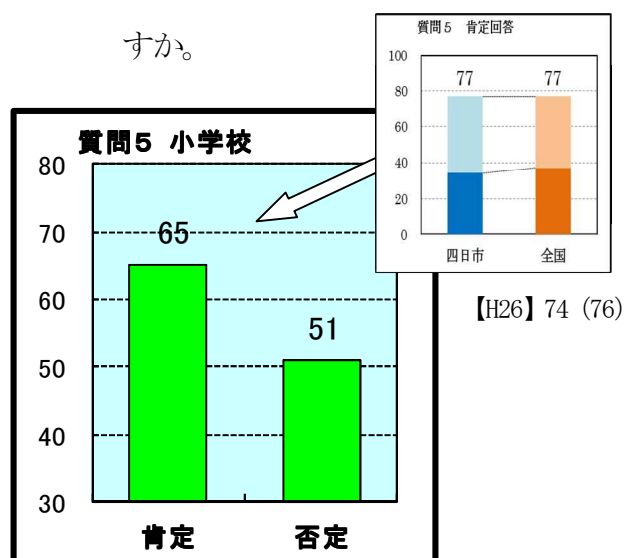


(質問4) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。



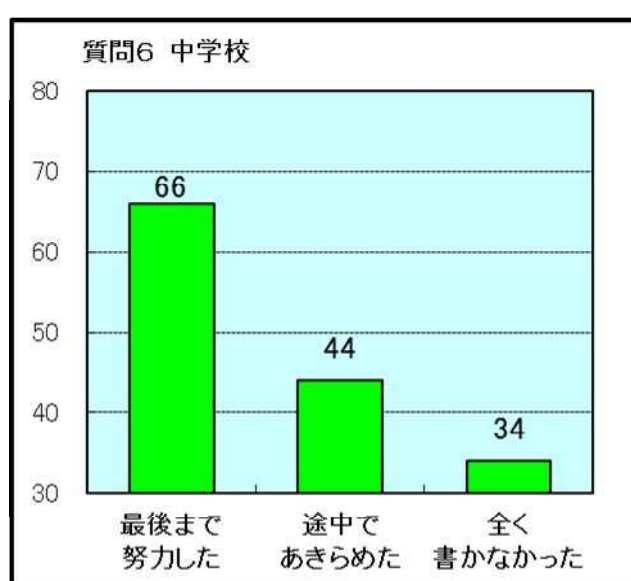
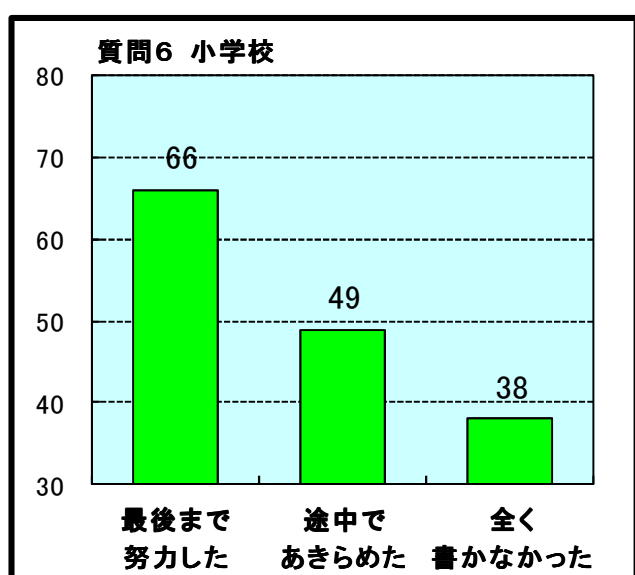
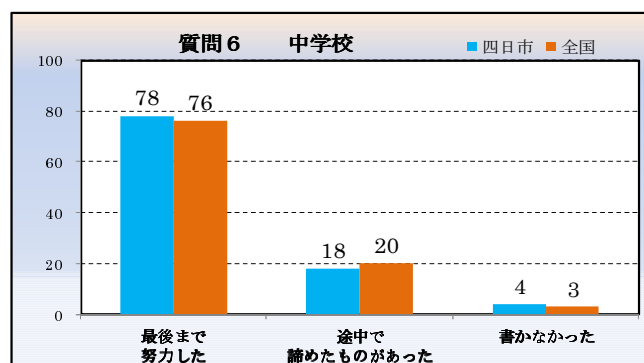
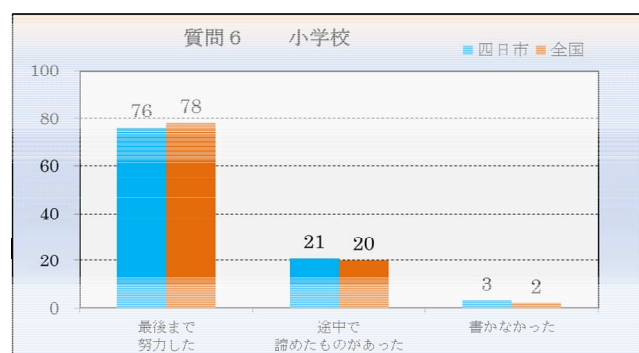
(質問5) 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいま

すか。



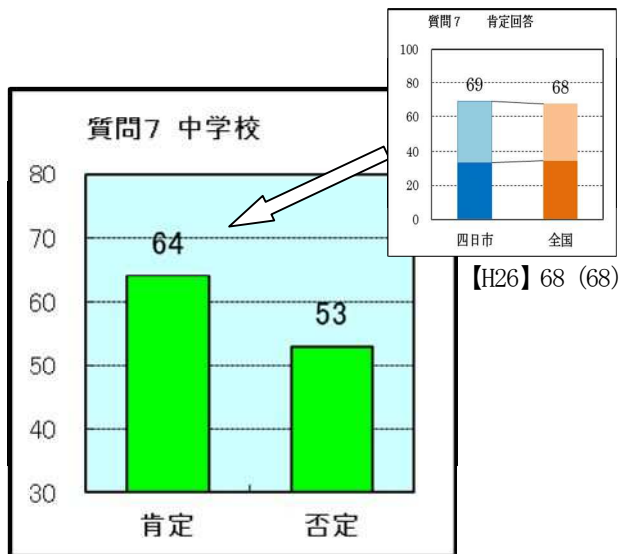
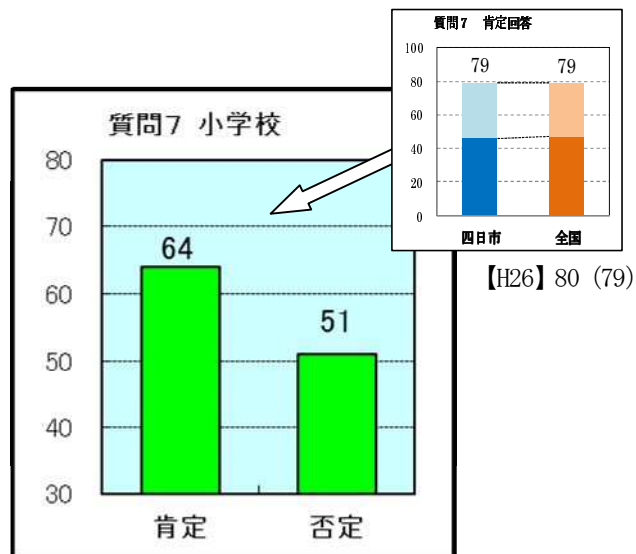
(質問6) 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こう

と努力しましたか。

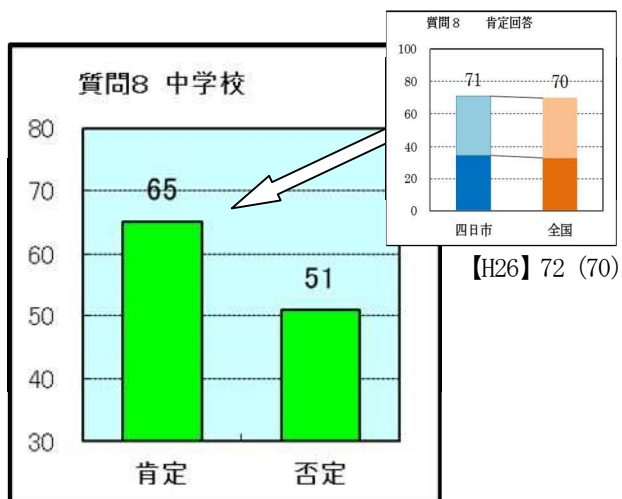
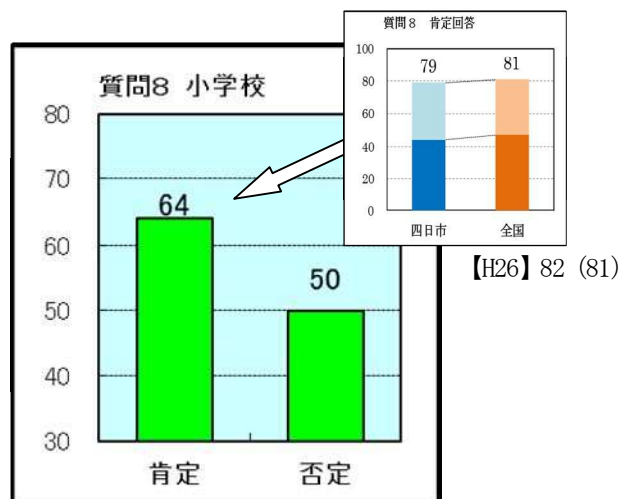


< 算数・数学 >

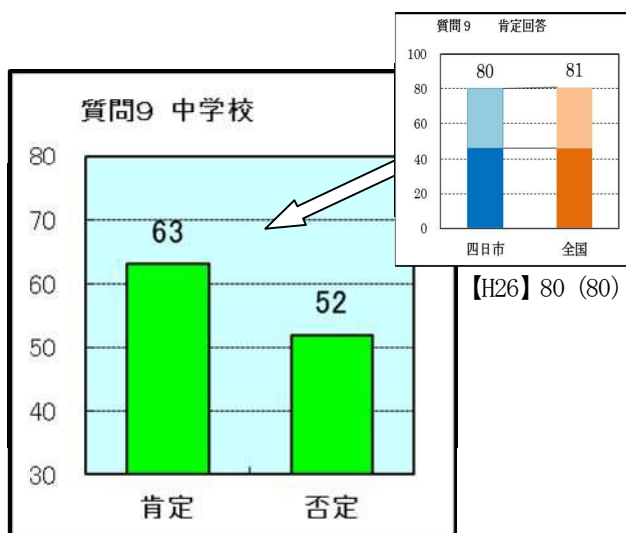
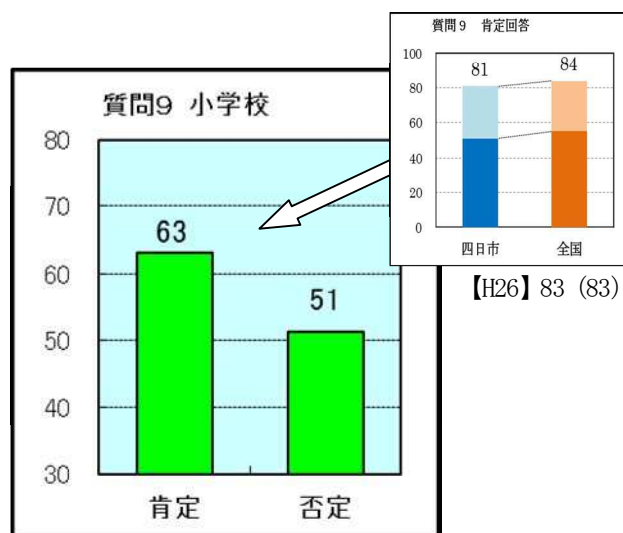
(質問7) 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。



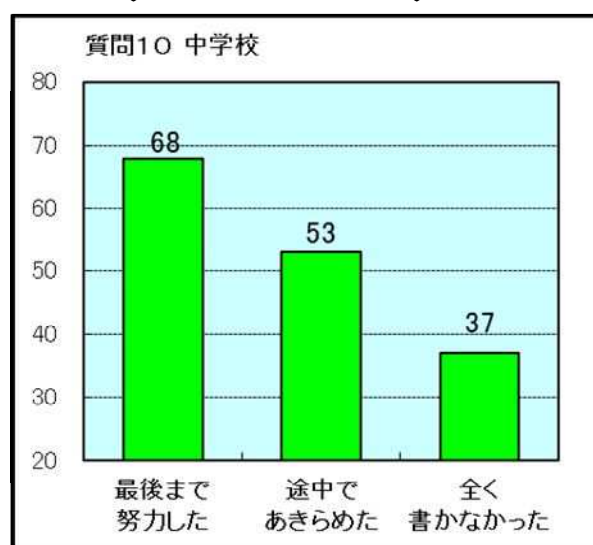
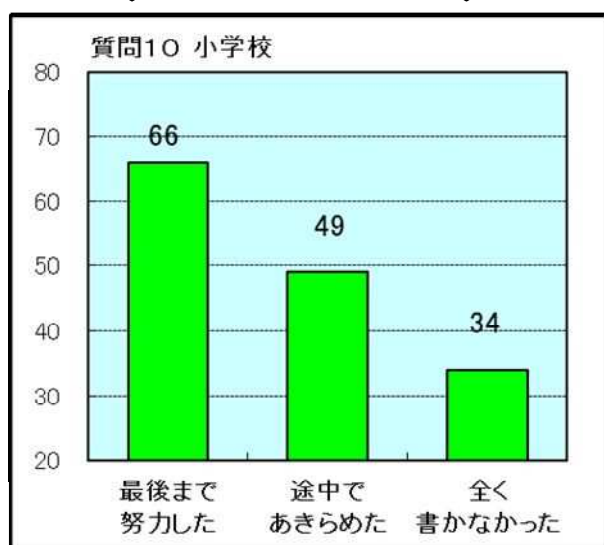
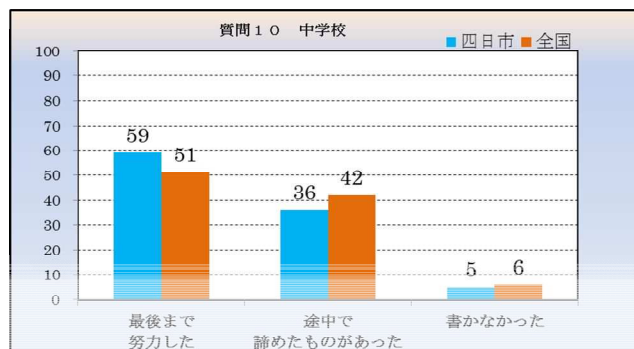
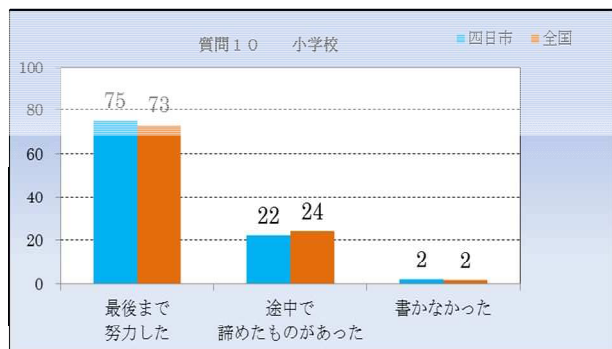
(質問8) 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか。



(質問9) 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

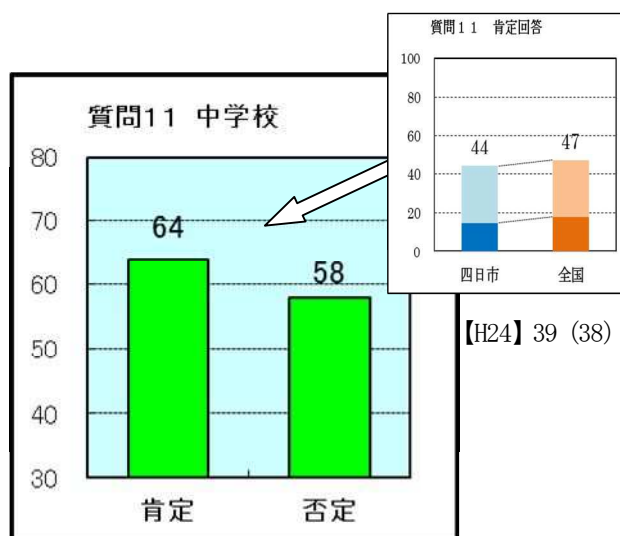
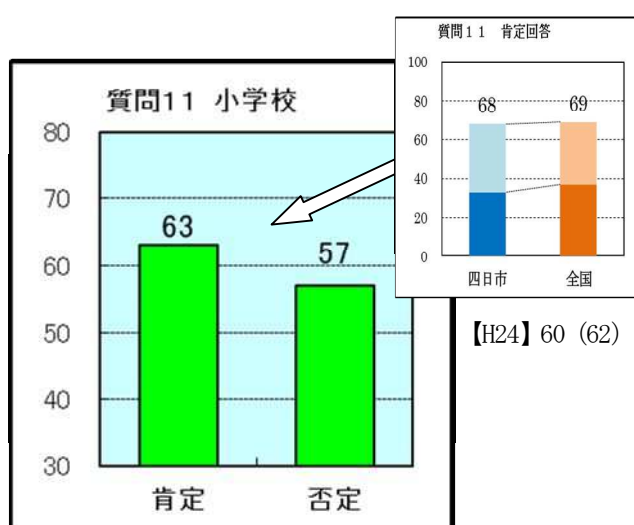


(質問１０) 今回の算数・数学の問題について、言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題がありました。どのよう

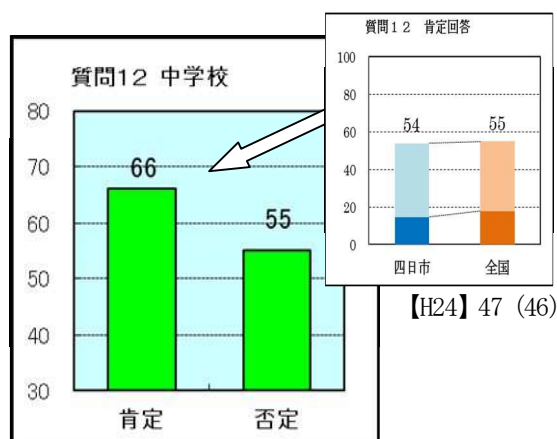
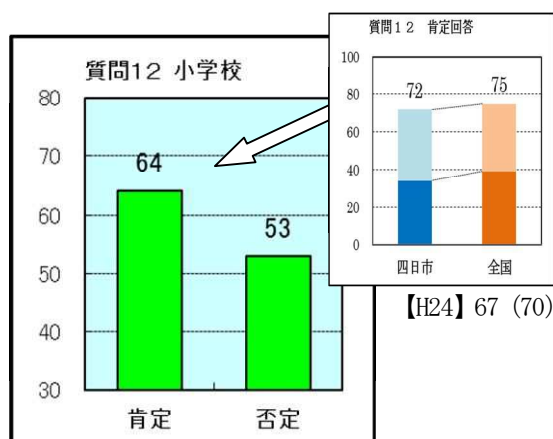


< 理科 >

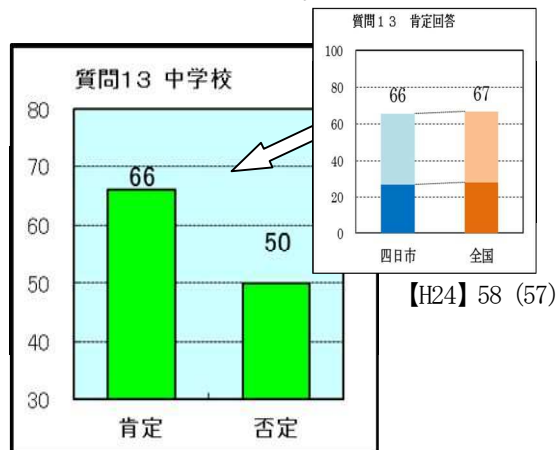
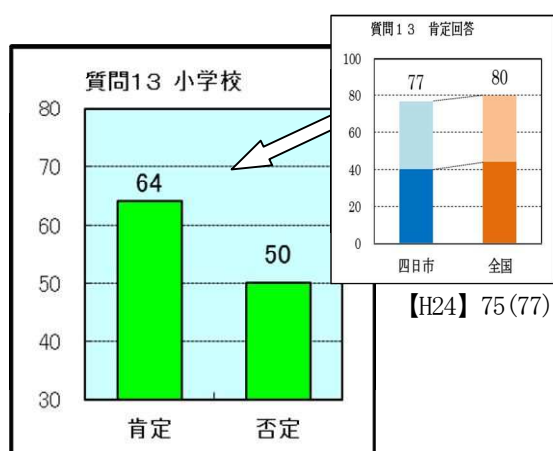
(質問１１) 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。



(質問 1 2) 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。



(質問 1 3) 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか。

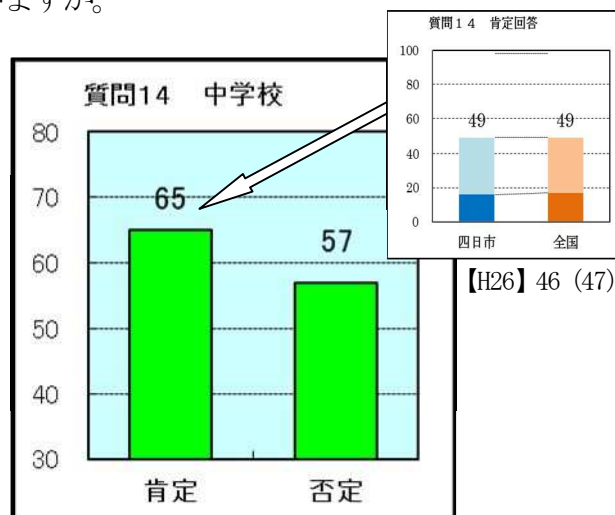
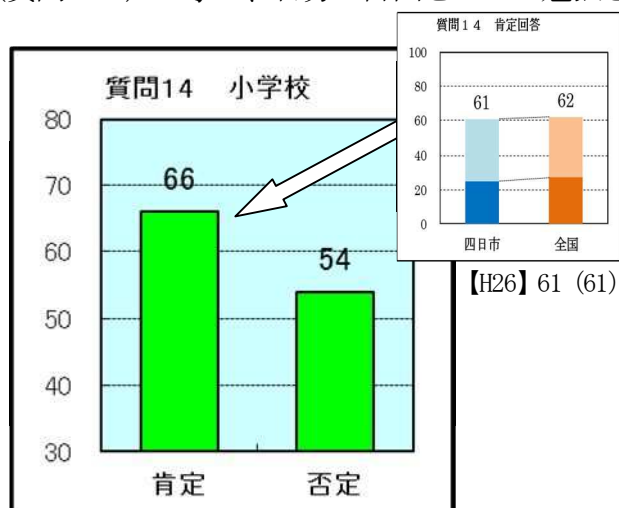


② 学習時間帯

- 一日あたりの勉強時間帯が長く、自分で計画を立てて学習し、家で宿題をしている児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

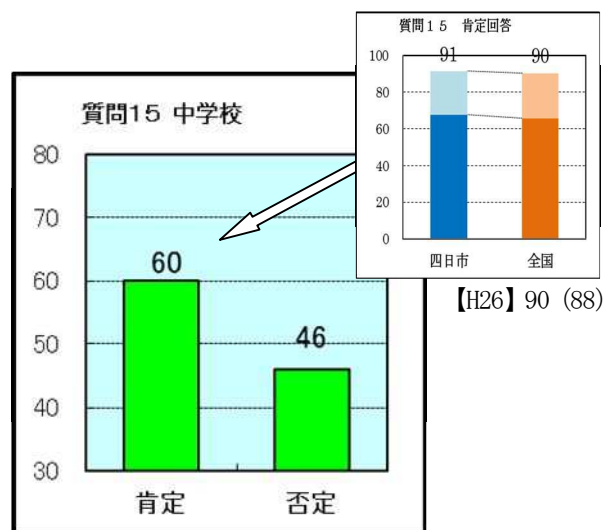
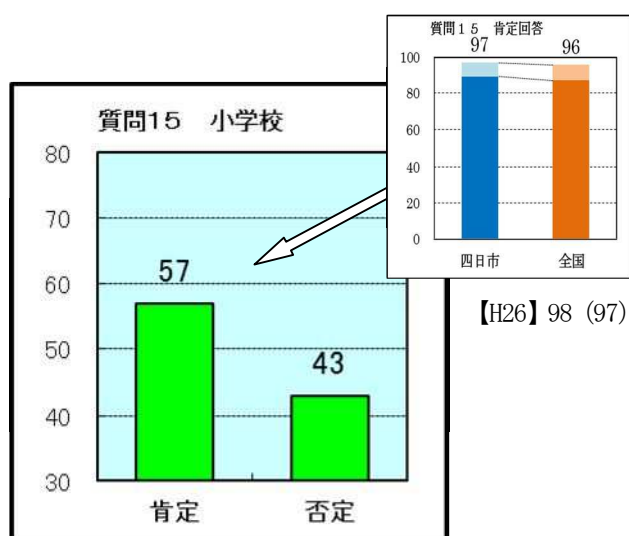
● 計画性

(質問 1 4) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

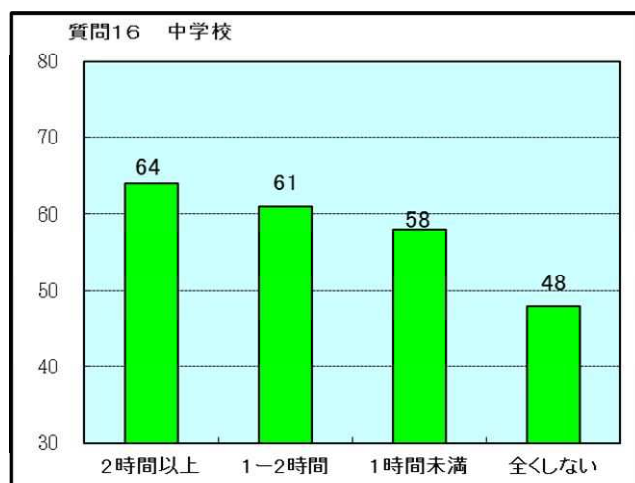
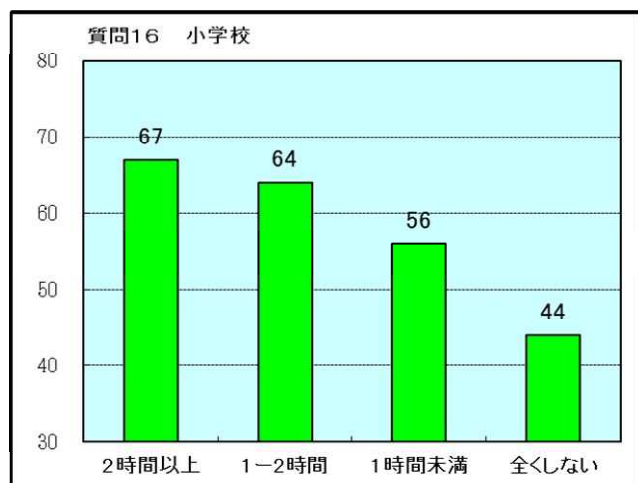
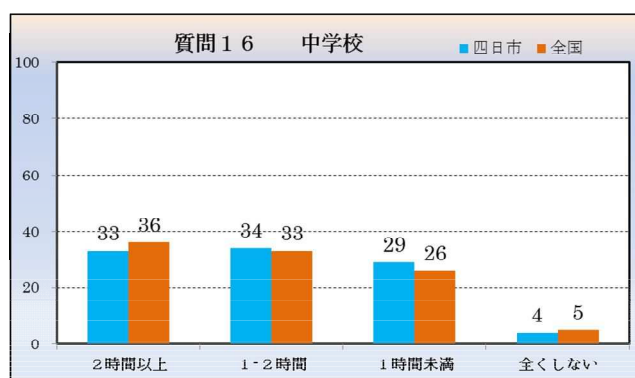
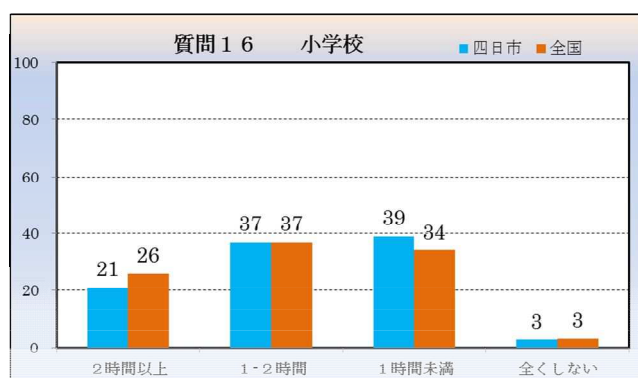


● 自主学習

(質問15) 家で、学校の宿題をしていますか。

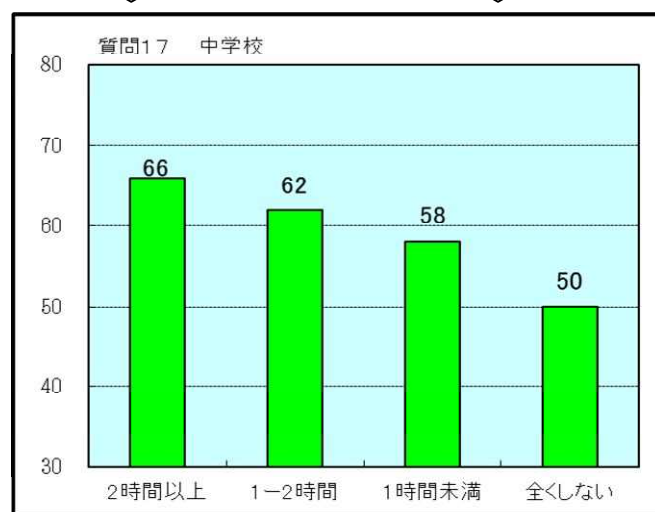
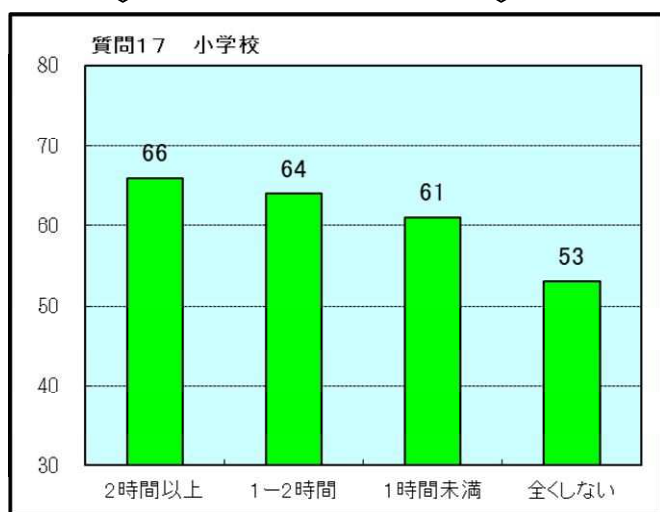
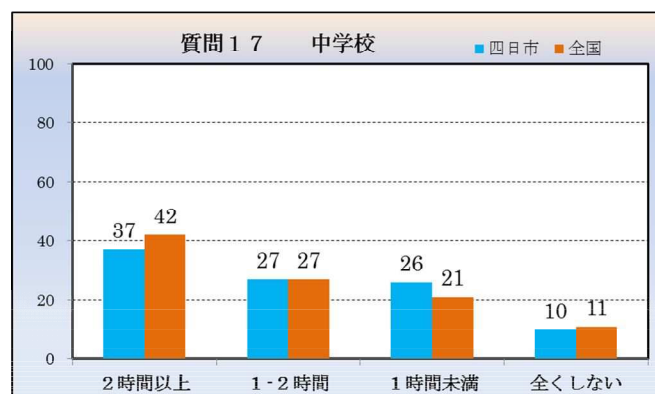
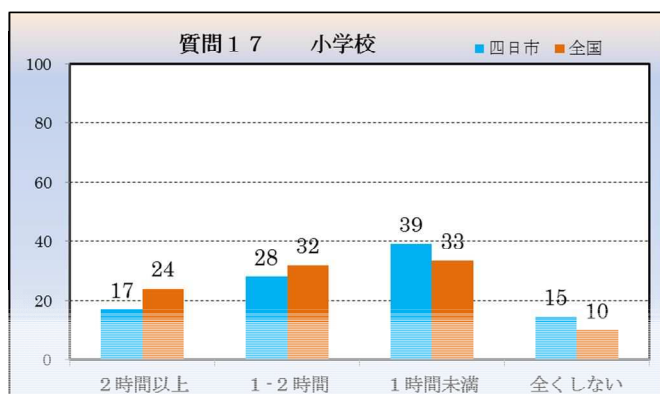


(質問16) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師含む）



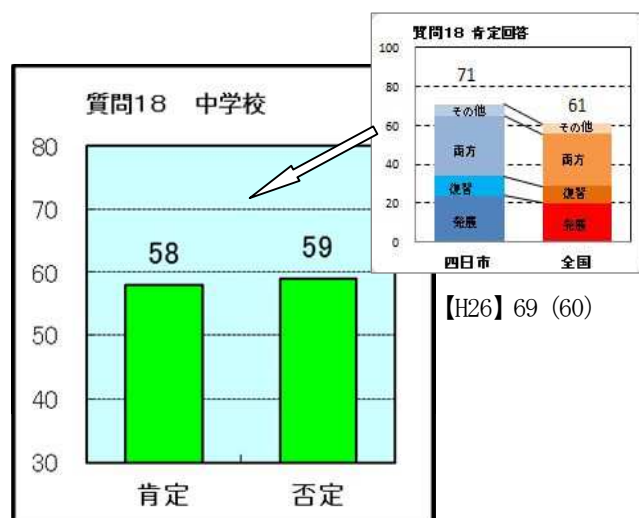
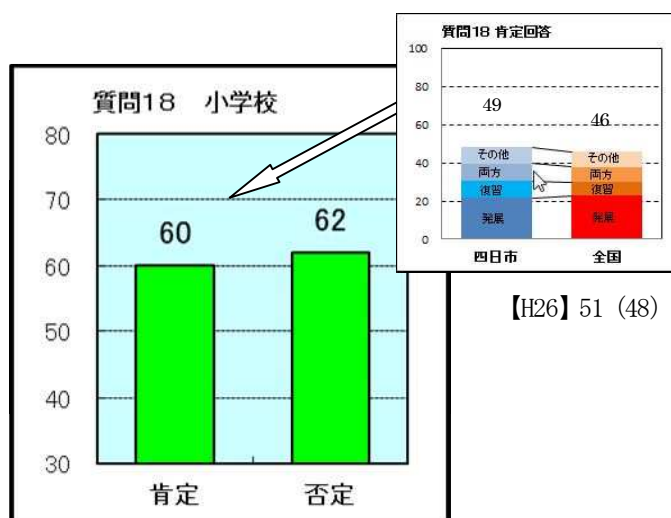
(質問 1 7) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(学習塾や家庭教師含む)



○ 学習塾等を利用しているか否かで正答率の差はあまりみられなかった。自宅での学習習慣が身につけていけば日頃の学習内容に充分に対応できることがうかがえる。

(質問 1 8) 学習塾 (家庭教師含む) で勉強をしていますか。

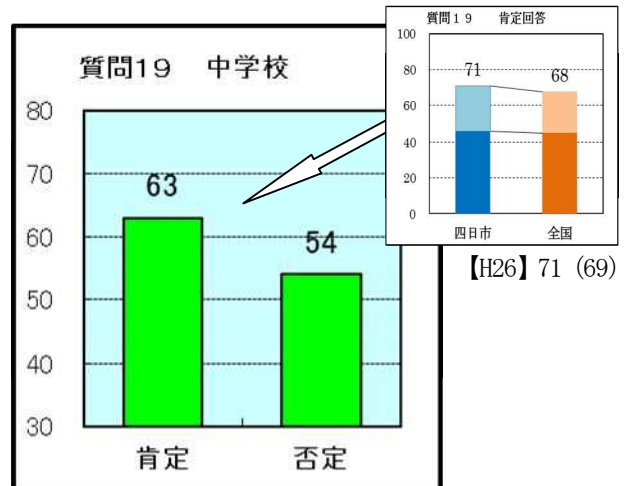
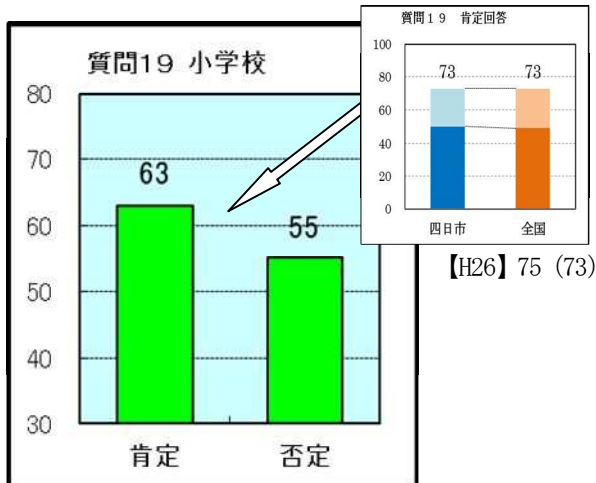


※ 肯定回答内訳は、学習塾等での勉強内容を表しています。下から、学校の勉強より発展した内容、学校の勉強の復習的な内容、両方の内容、その他の割合を示しています。

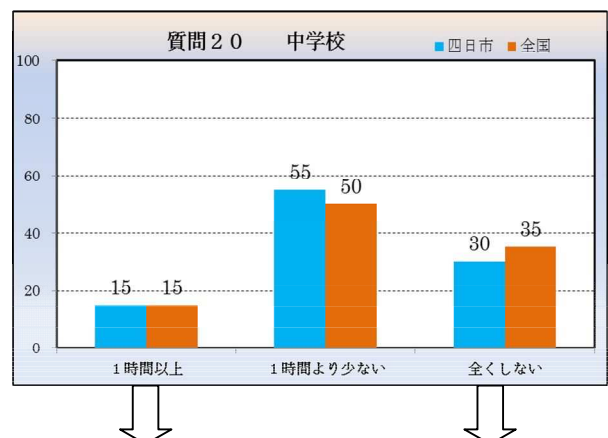
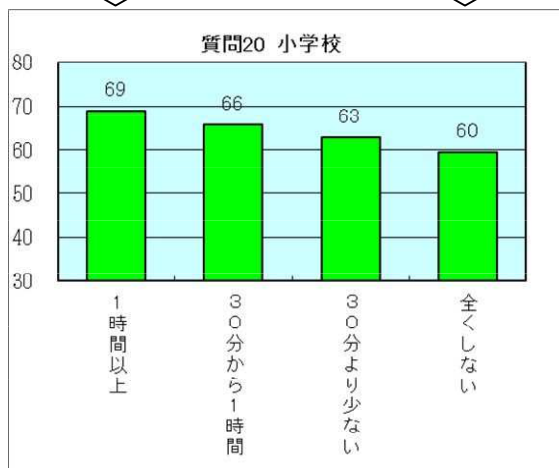
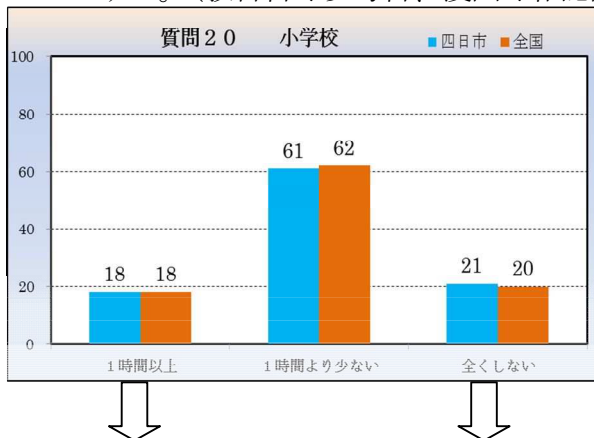
● 読書習慣

- 「読書が好きだ」と肯定的な回答（当てはまる／どちらかといえば当てはまる）をする児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。
- 読書時間との関係については、読書をしている児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問19) 読書は好きですか。



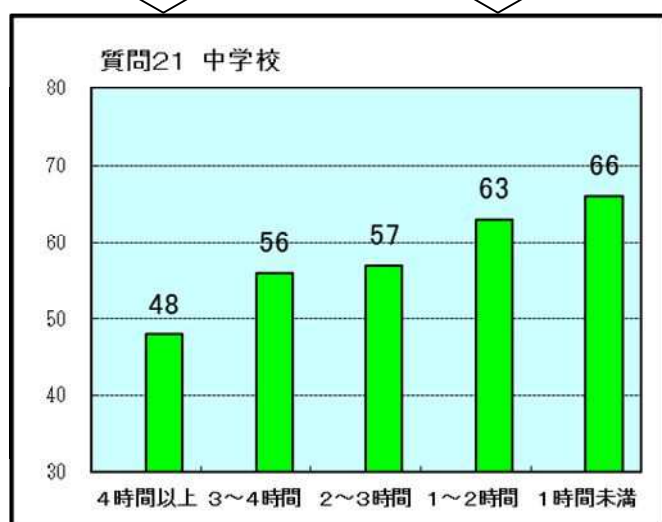
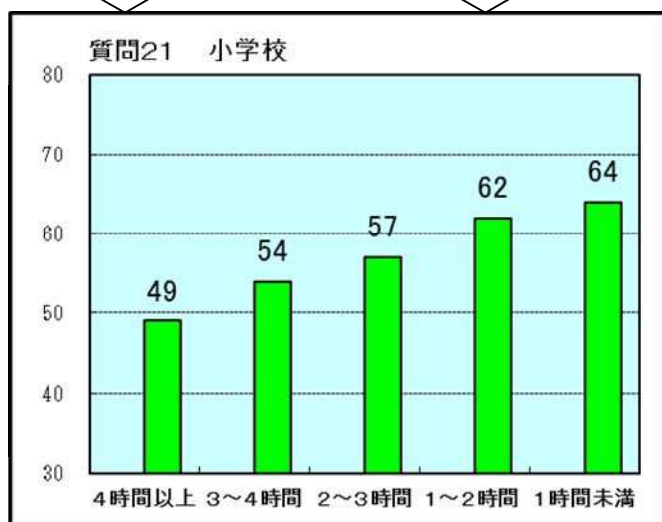
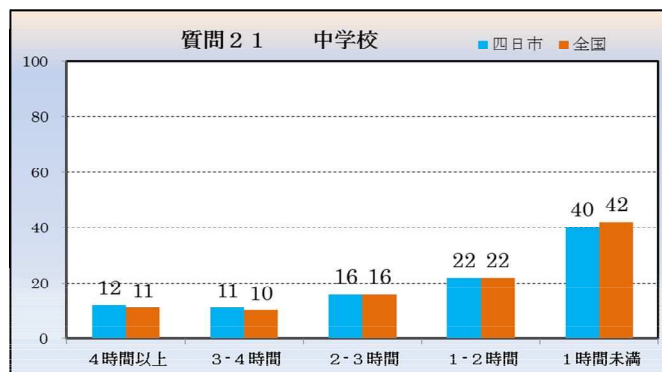
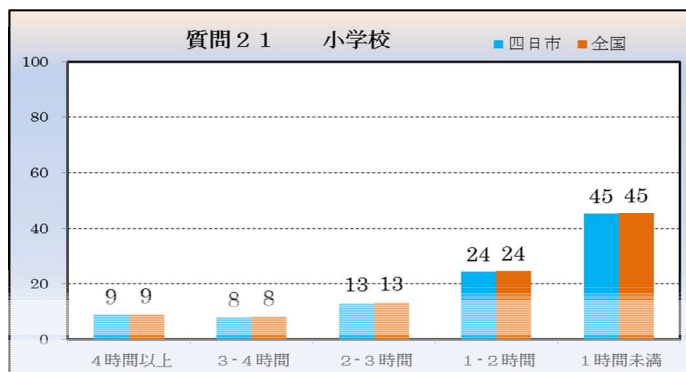
(質問20) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）



● テレビゲーム

○ テレビゲームをする時間が長くなると、平均正答率が低下する傾向がみられる。

(質問21) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか。



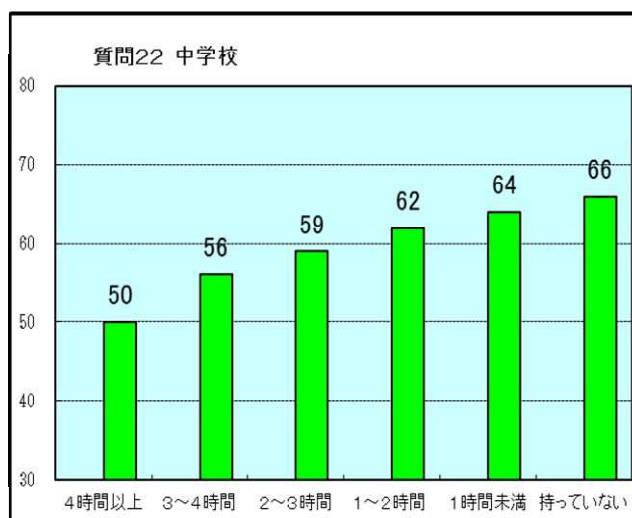
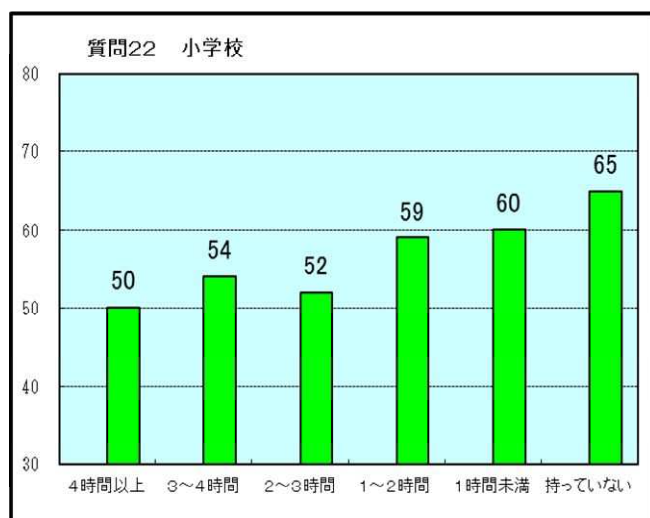
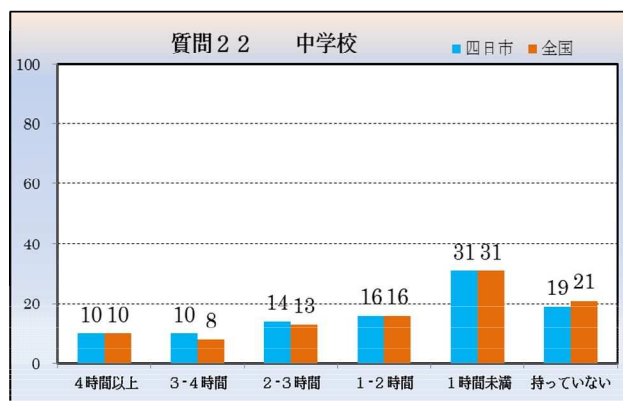
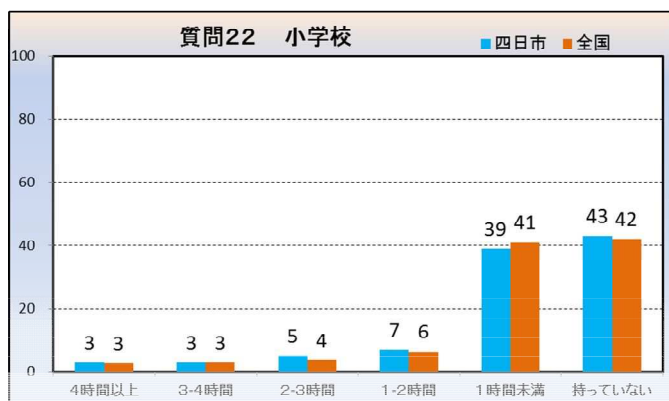
普段(月～金曜日)、1日あたりのテレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間の長さと平均正答率との相関関係においても、時間が長いほど平均正答率が低くなるという文部科学省の報告があります。



● 携帯電話・スマートフォンの使用時間

○ 携帯電話・スマートフォンを使用する時間が長いほど平均正答率が低下する傾向がみられる。

(質問22) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



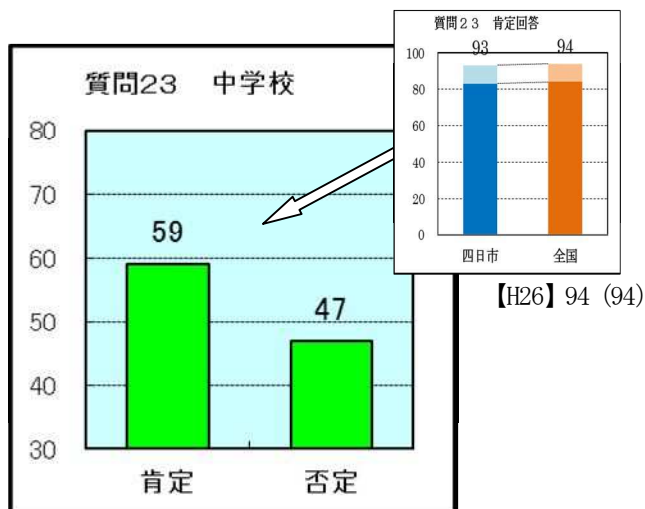
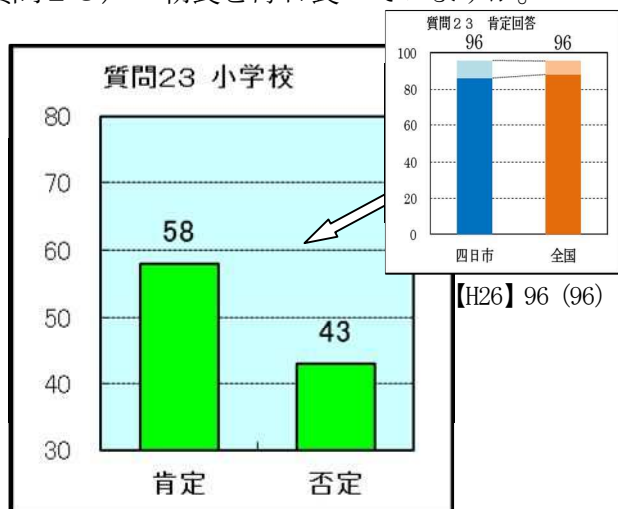
携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられると文部科学省の報告にもあります。



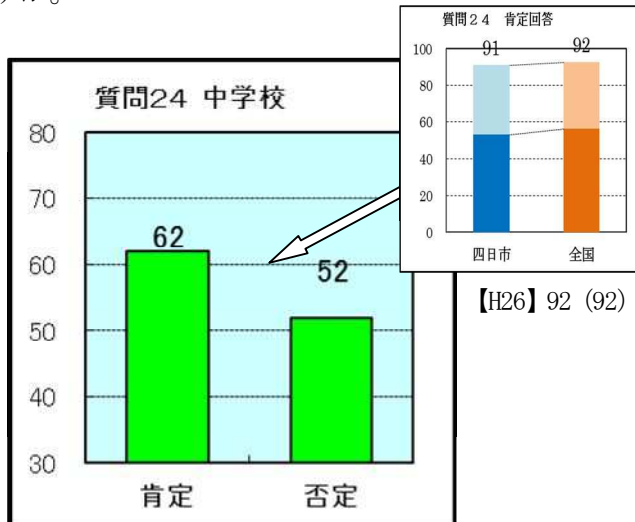
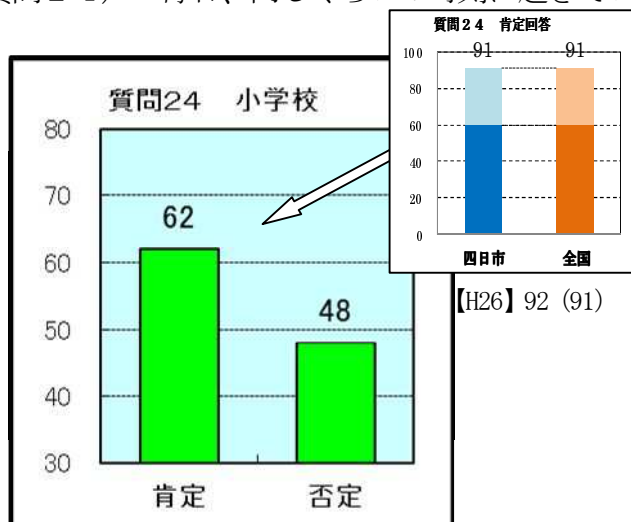
③ 基本的生活習慣

○ 朝食を毎日食べており、毎日同じ時刻に寝たり起きたりしているなど生活習慣がきちんと確立している児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

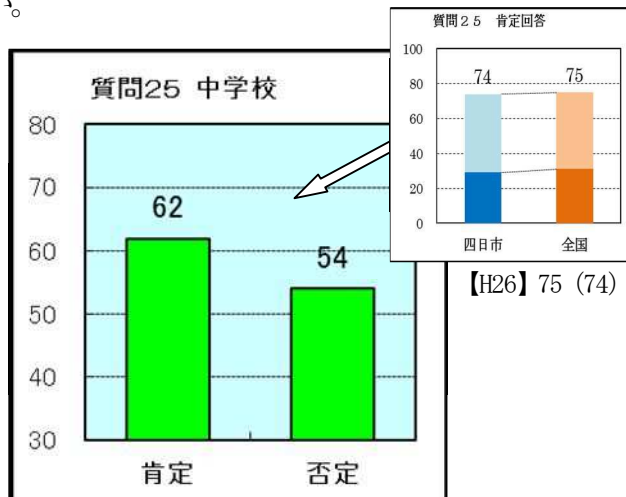
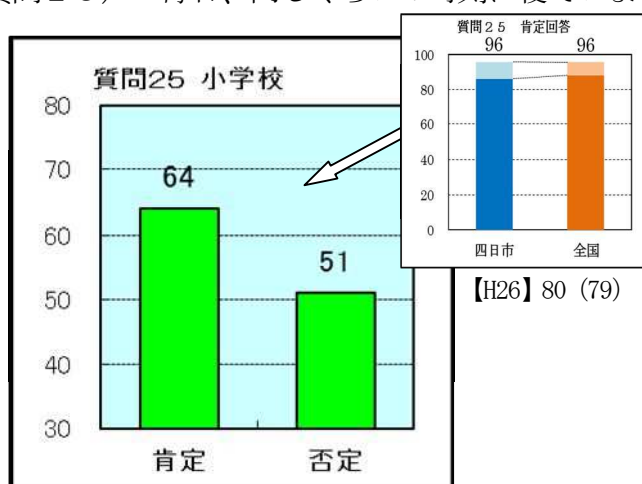
(質問23) 朝食を毎日食べていますか。



(質問24) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



(質問25) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

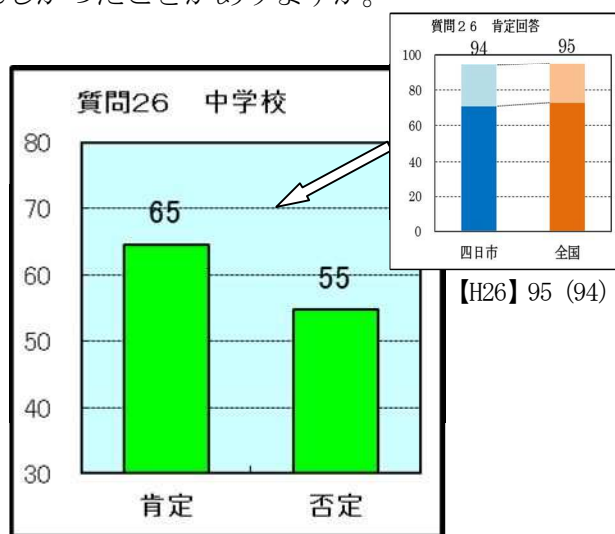
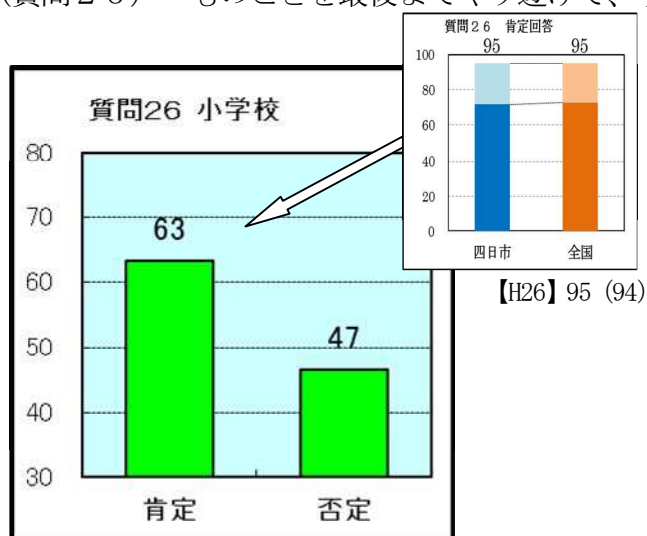


④ 自尊感情

- 個人で、または、学級みんなで何かを最後までやり遂げたり、人の気持ちがわかる人間になりたい、人の役に立つ人間になりたい、自分にはよいところがあると思ったりするなど、協調性や自尊感情が高い児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

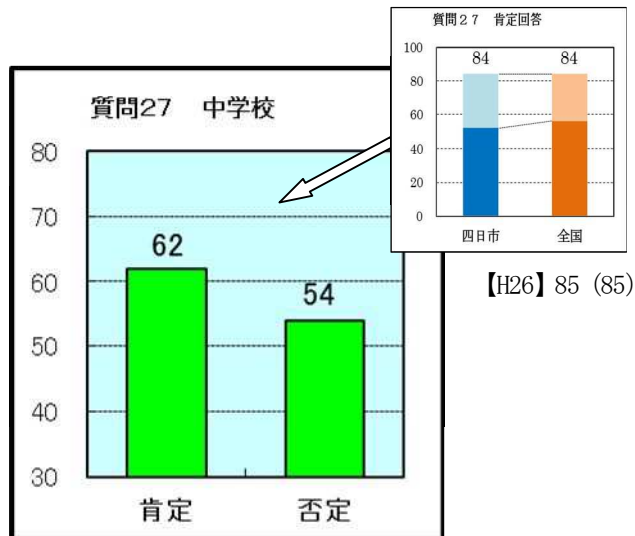
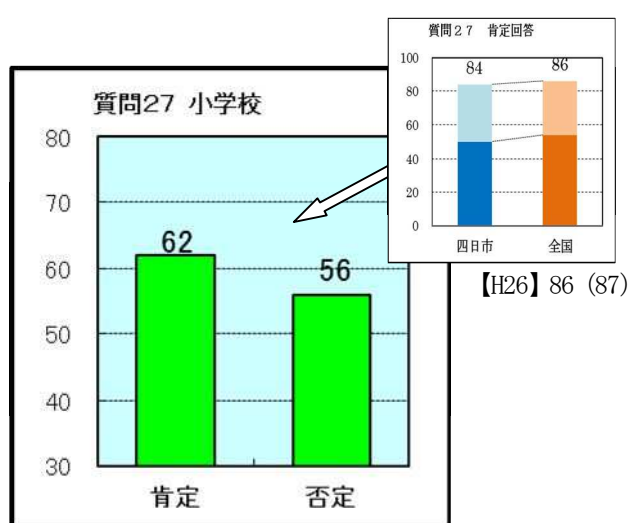
● 達成感の経験

(質問 2 6) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



● 協同的達成感の経験

(質問 2 7) 【新規】 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。

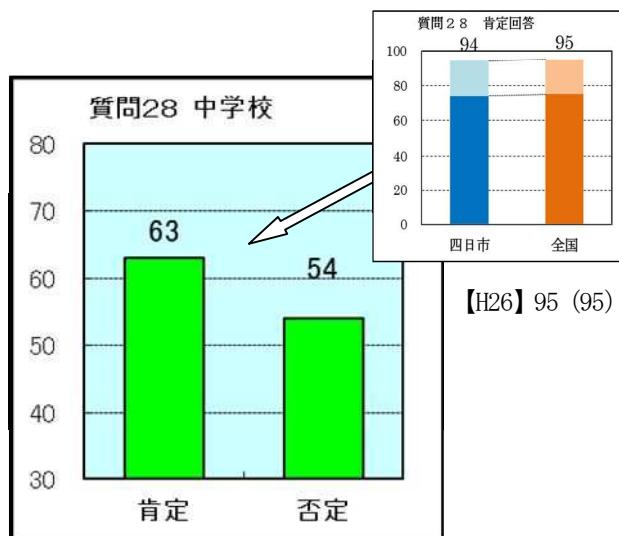
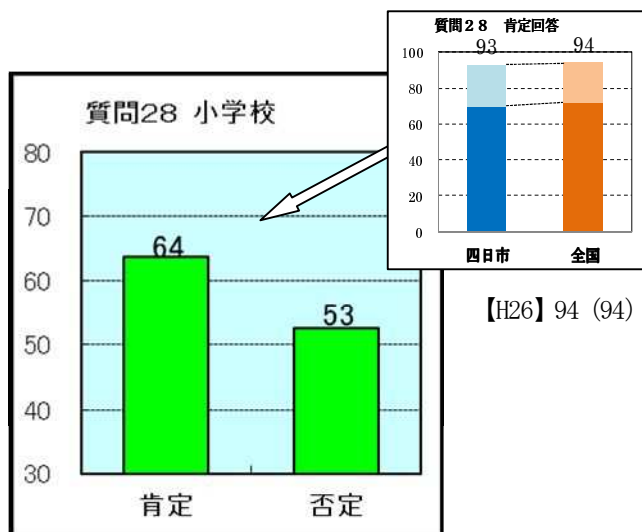


子どもたちが、他者と協力して問題を解決したり、何かを創りあげたりする体験活動を意図的・計画的に設定することは大切です。



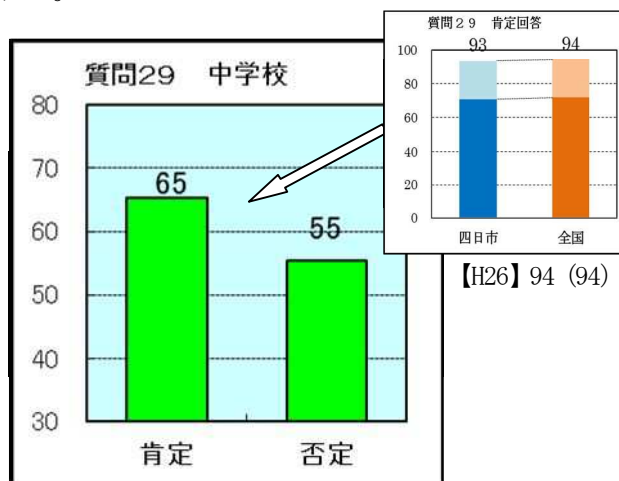
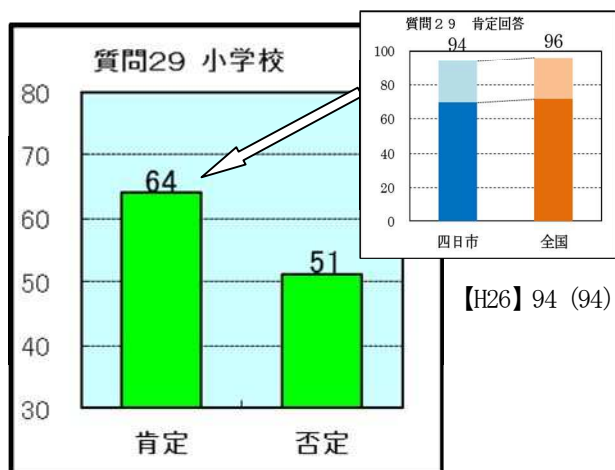
● おもいやり

(質問28) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



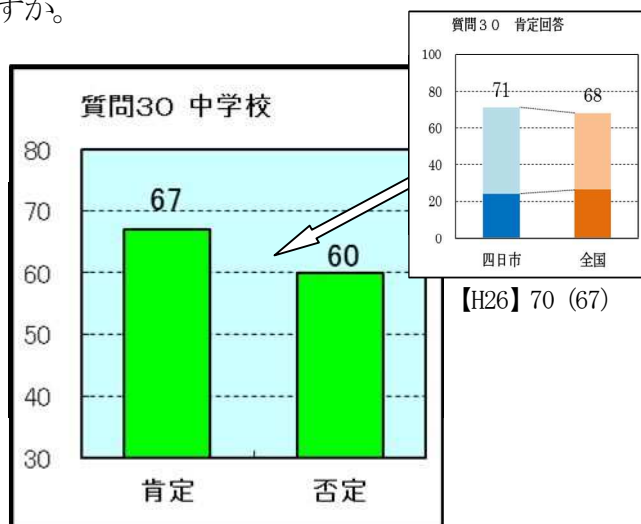
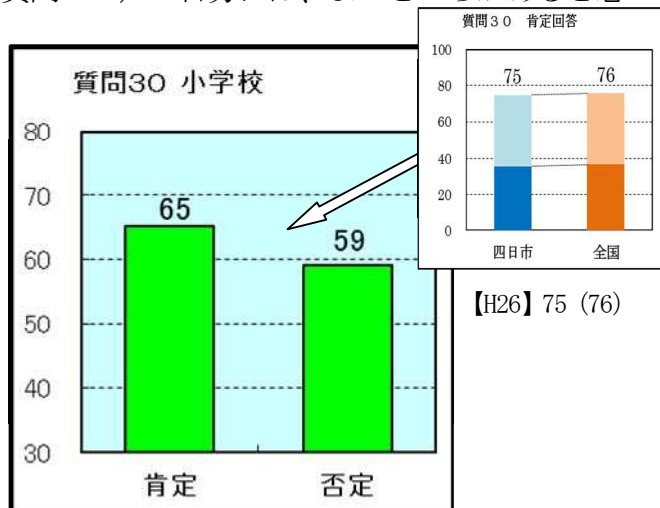
● 有用感

(質問29) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



● 自己肯定感

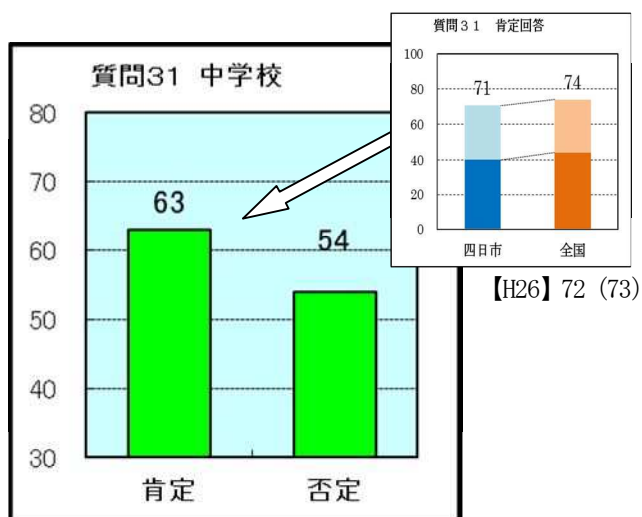
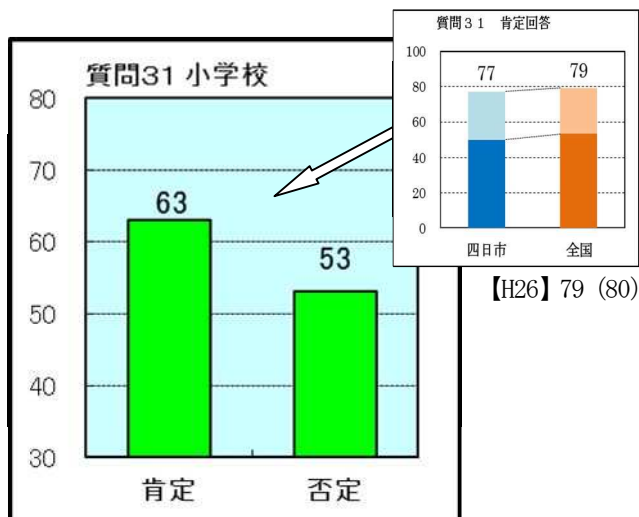
(質問30) 自分には、よいところがあると思いますか。



⑤ 家庭でのコミュニケーション

- 家の人と学校での出来事について話をしている児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問31) 家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしていますか。



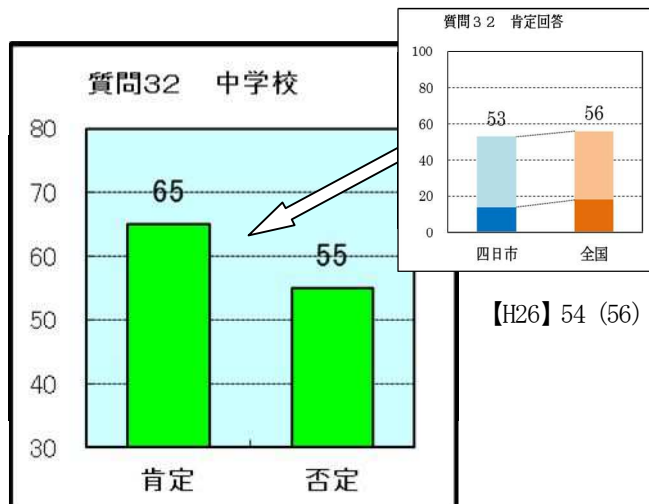
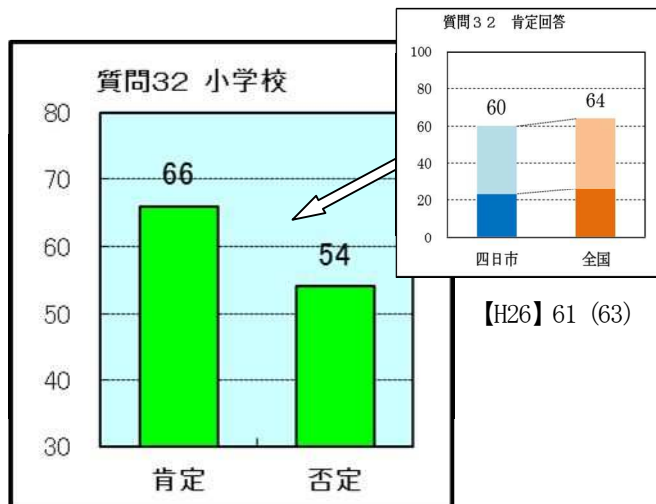
「勉強や成績」「ニュースや新聞記事」「将来や進路」「友達のこと」について子どもとコミュニケーションを図ることと学力とは相関関係があるとの国立教育政策研究所の報告もあります。
詳しくはこちらへ↓
http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/kannren_chousa/hogosya_chousa.html



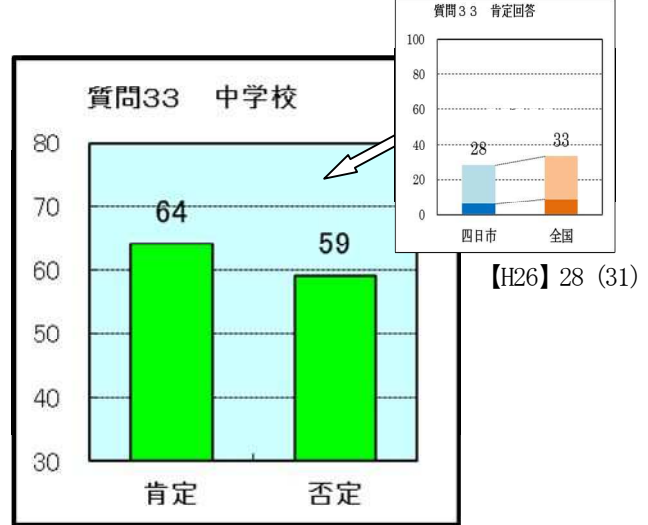
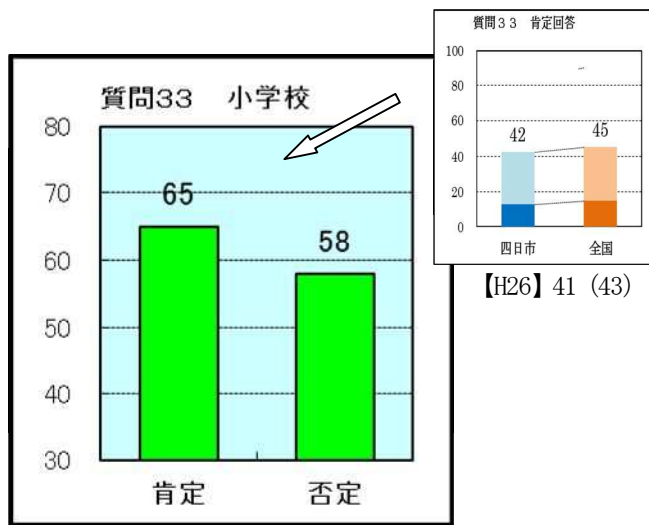
⑥ 社会に対する興味・関心

- 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問32) 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。



(質問33) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



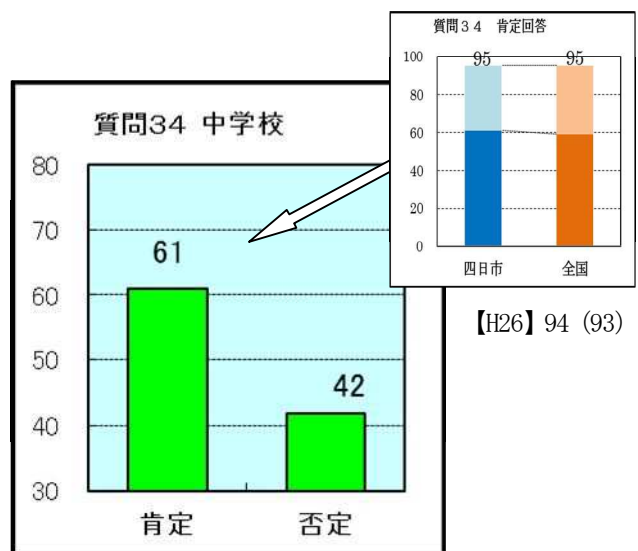
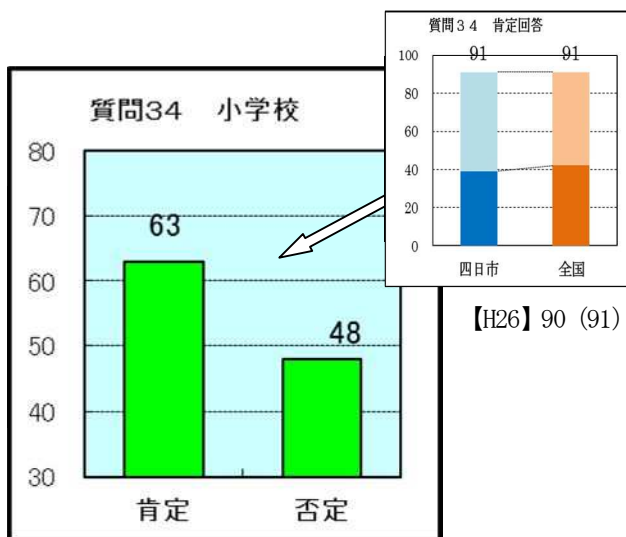
社会への興味関心について、肯定回答をしている割合そのものは、平成26年度と比べて四日市市はほぼ横ばい。全国的には微増となっています。



⑦ 規範意識

○ 学校のきまりを守っている児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問34) 学校のきまりを守っていますか。



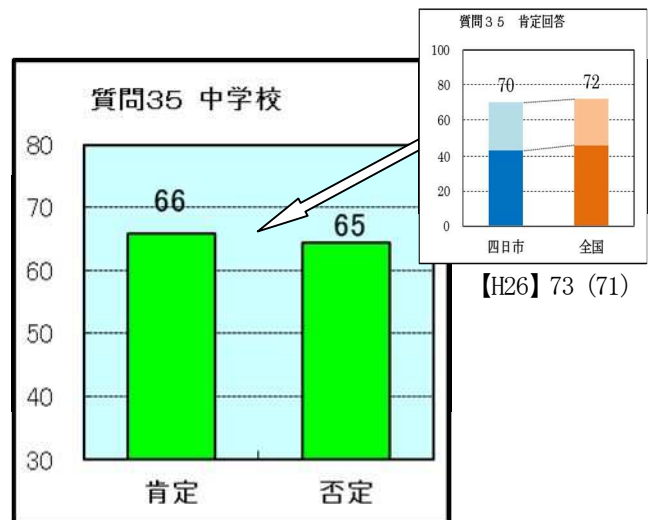
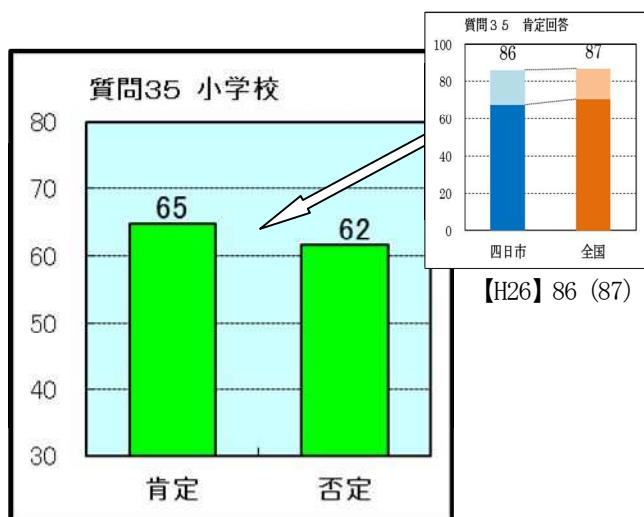
肯定回答をしている割合は、9割を超えて、小・中学校とも全国とほぼ同じです。



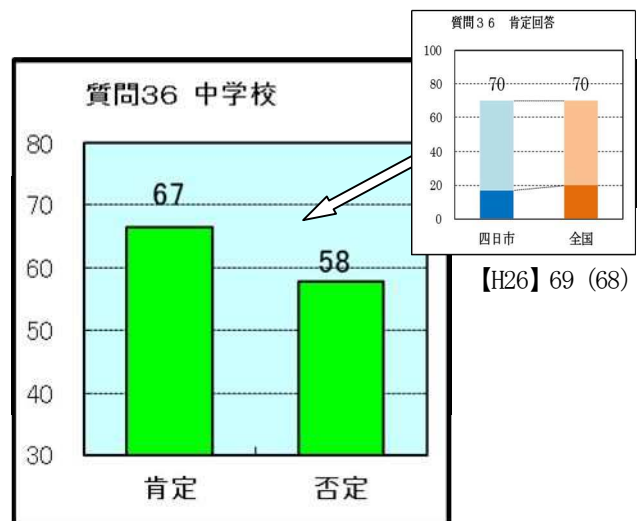
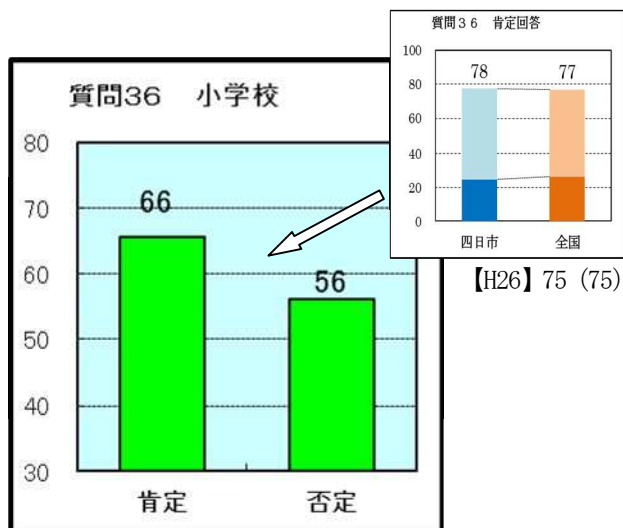
⑧ キャリア発達

- 夢や目標を持っていたり、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する児童・生徒の方が、平均正答率が高い傾向がみられる。

(質問35) 将来の夢や目標を持っていますか。



(質問36) 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。



将来の夢や目標の明確さは、正答率にあまり反映していません。現在は夢や目標が定まっていなくても学習に頑張って取り組んでいる子どもが多いことがうかがえます。

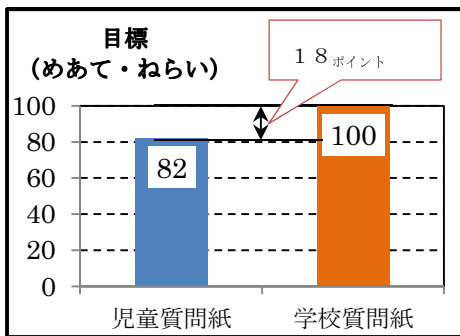


(2) 学校質問紙回答における四日市市全体と全国との比較

◎授業の中で、冒頭に目標を示す活動や振り返り活動を「実施している等」肯定回答する調査結果は、本市も全国同様、児童生徒と教師の間で「意識の差」がある。本市は、中学校の振り返り活動以外、全国よりその差が大きい。そこで、子どもが「今、何を学習しているのか」「今日は何を学べたのか」がしっかり自覚でき、充実味の味える授業となるようにさらなる授業改善が必要である。

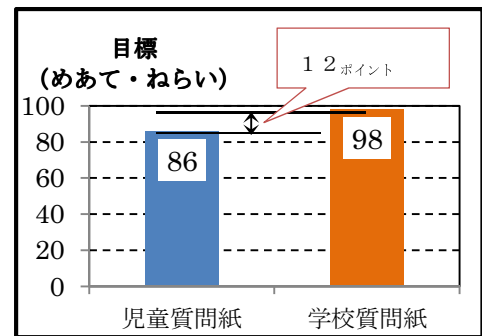
1、調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。 ※記号は、○優位 △劣位 を示す。

● 小学校 <四日市>

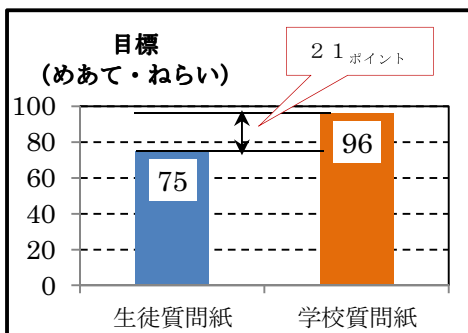


意識の差
四日市 18 ポイント
全国 12 ポイント
全国比 △6

<全国>

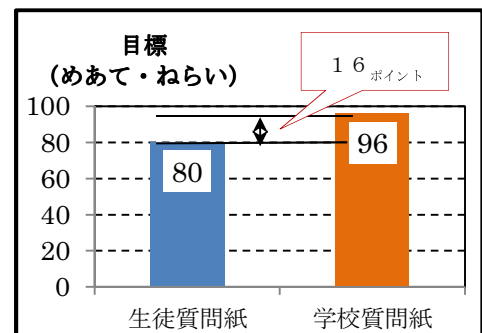


● 中学校 <四日市>



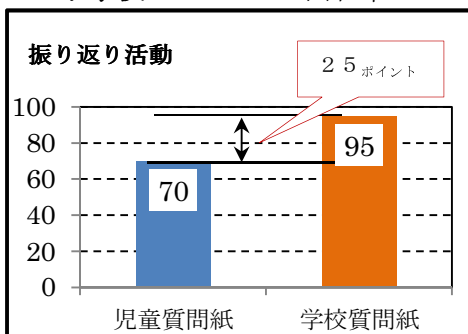
意識の差
四日市 21 ポイント
全国 16 ポイント
全国比 △5

<全国>



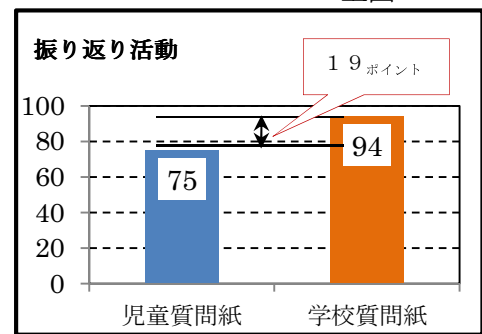
2、調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。

● 小学校 <四日市>

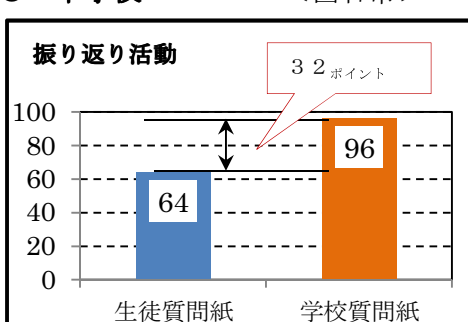


意識の差
四日市 25 ポイント
全国 19 ポイント
全国比 △6

<全国>

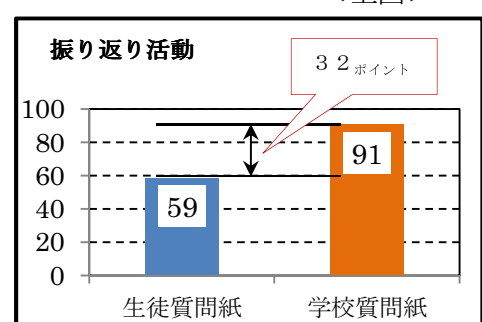


● 中学校 <四日市>



意識の差
四日市 32 ポイント
全国 32 ポイント
全国比 0

<全国>



(3) 学力向上に関する全市的な取組状況

1 二つの全市的な取組

四日市市の全小中学校では、子どもたちの学力向上のため、様々な取組を推進している。その一つが、平成25年1月から全小中学校で取り組む「学力向上のための4つの取組」である。

(1)【学力向上のための4つの取組】

- 取組1 全国学力・学習状況調査問題の活用
- 取組2 全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善
- 取組3 学習習慣の確立と学力補充の充実
- 取組4 継続的な学びへの取組

もう一つは、平成18年度から全中学校区で本格実施している「学びの一体化」である。この取組は、各中学校区の学校園が連携して「確かな学力」「健やかな成長」をめざす教育活動で、平成24年度からは、以下の取組を重点に取り組んでいる。

(2)【学びの一体化】の重点

- 重点1 幼・保・小・中学校における研究課題と指導体制の一体化
- 重点2 中学校との連携を生かした小学校高学年における一部教科担任制の導入

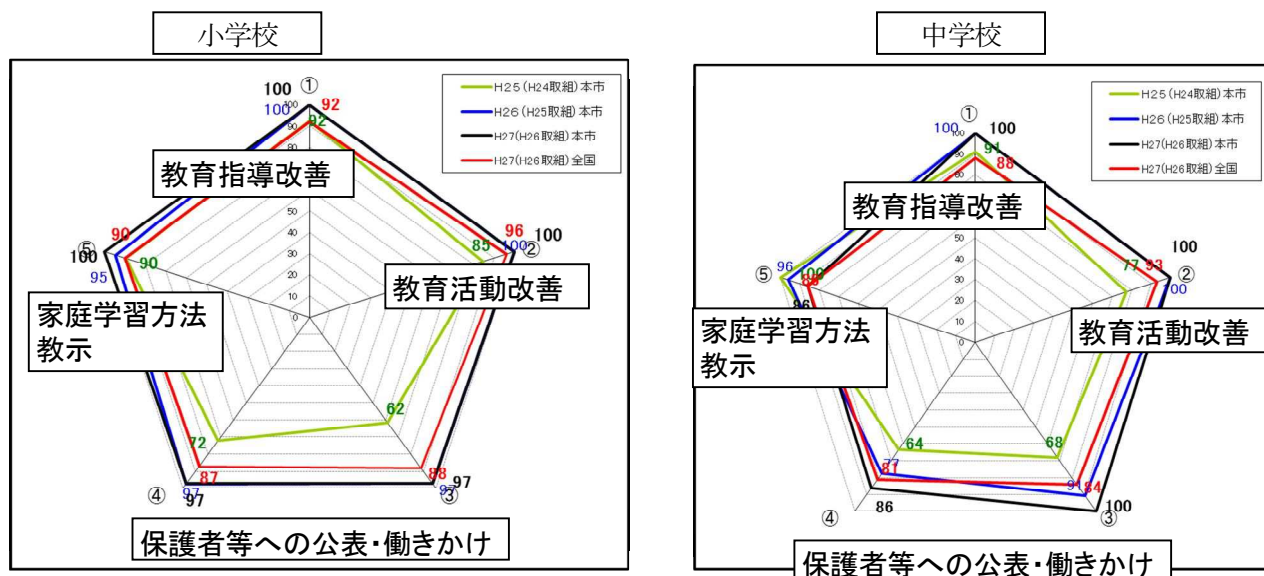
2 全国学力・学習状況調査結果に見る取組状況

全国学力・学習状況調査（全国学調）における「学校質問」の中には、上記取組【学力向上のための4つの取組】と【学びの一体化】の取組状況を読み取れる質問がいくつかある。

※ 質問は、全て前年度の取組状況についてのものです。

(1) 【学力向上のための4つの取組】

下のグラフは、次のページの質問①～⑤の結果を示している。その結果、平成24年度（平成23年度取組）以降、徐々に、学力向上の取組が進展し、平成26年度以降（平成25年度取組）は、全国レベル（赤線）を上回る傾向にある。



○【学力向上のための4つの取組】に関連する「学校質問紙」の問い抜粋

【取組1】

- ① 全国学調の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善等を行ったか。

【取組2】

- ② 全国学調の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか。

【取組3】

- ③ 全国学調の自校の結果について保護者等に公表や説明を行ったか。
- ④ 全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた取組を、保護者等に働きかけたか。
- ⑤ 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたか。

(2)【学びの一体化】

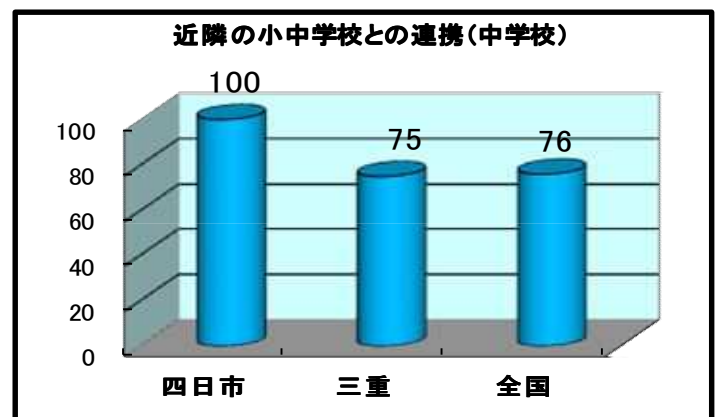
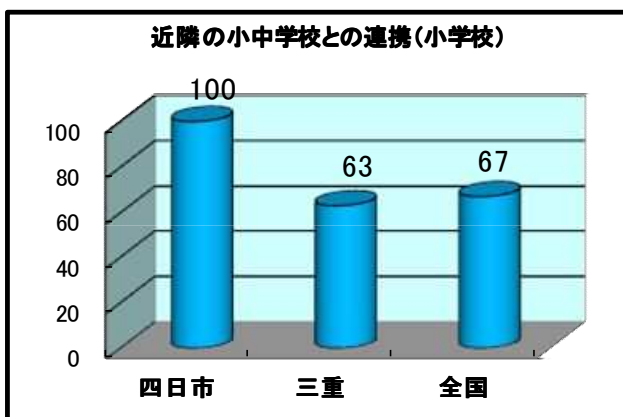
下のグラフは、下記の質問⑥の結果を示している。

四日市は平成27年度調査で初めて小・中学校ともに100%に達した。全国及び三重県平均を大きく上回る結果となっており、「学びの一体化」による小中学校の連携は、四日市市の教育の「強み」となっている。

○【学びの一体化】に関連する「学校質問」

【取組4 学びの一体化】

- ⑥ 近隣の小中学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行ったか。



3 期待される今後の取組

上記グラフからも、「学力向上のための4つの取組」及び「学びの一体化」は、その取組自体は着実に成果をあげている。このことは、各学校・各中学校区において、学力向上の取組の共通理解が図られ、本市全体に浸透してきたことを意味する。

本年度から2中学校区を教育実践研究推進校区に指定し、「問題解決能力の向上」などのテーマを掲げ、校区一体となった指導改善を推進している。従来の、子どもの情報交換や課題の共有からひとつステージを上げて、子どもにつけたい力を見すえた取組を市域に広めていく。

(4) 各質問紙の回答からみえてくる課題とその対応

全体に関すること

① 児童・生徒質問紙から

○ 学習時間について

- ・ 平日及び学校が休みの日の学習時間が全国に比べて少ない。
家庭での生活習慣と学力とは関連が大きいと考えられることから、家庭教育について保護者の協力への働きかけが重要である。

○ 読書習慣について

- ・ 読書と学力の相関関係ははっきりしている。学校図書館司書や教職員を通して、一層の読書指導の充実を図るとともに、図書室だよりやホームページなどを通して情報発信に努めるとともに、読書週間や家庭読書の日などを設定して、家庭と連携した読書活動の推進を図る。

○ 地域や社会への関心

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に対する関心が全国と比べて低い傾向にあり、平成26年度よりさらに低下している。

【小学校：四日市市約60%（全国約64%）

中学校：約53%（約56%）】

これに対して、新聞記事や情報誌等の記事を活用したり、実生活に即した課題等を学習したりすることで、地域や社会の出来事を身近に感じたり、学んだことが自分の暮らしに生きていると実感できたりするような授業改善が求められる。

- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか、肯定回答する児童生徒の割合が全国より低い傾向がある。全国的に上昇傾向にある中、四日市は横ばいである。

【小学校：約42%（約45%） 中学校：約28%（約33%）】

このことに対しては、道德教育やキャリア教育等を中心に、全ての学校教育活動で自己と社会との関わりを意識するような取組を推進する必要がある。

○ テレビ、ビデオ等の視聴

- ・ テレビゲーム、テレビ、ビデオ、DVDなどに費やす時間は、全国と同程度である。ノー・テレビデーやノー・ゲームデー等設定したり、学習につながるテレビ番組等について情報発信することで、テレビの視聴をプラス効果としたりするなど、よりよい基本的生活習慣の確立を図るよう求める。こうしたことは、家庭における家族でのコミュニケーションの時間となりうると考える。

○ 携帯電話・スマートフォンの使用時間

- ・ 使用時間の長さは全国とほぼ同等である。情報モラル教育の充実を図るとともに、家庭でのルールづくりなど今後も継続した保護者との連携が求められる。

○ 協同的な取組による達成感の経験

- ・ 個人活動だけでなく、学級みんなで協力して、何かをやり遂げ、うれしかったことがある児童・生徒の教科平均正答率は高いことから、他者と協力して取り組むような課題や場面を意図的に設定することが求められる。

② 学校質問紙から

○ 学習意欲

- ・ 「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答する学校の割合が、小学校は大変低い。中学校では逆に高くなっている。落ち着いた学習環境づくりについて、特に小学校での改善が求められる。

【当てはまると答えた割合 小学校：約 21 % (約 39 %) 中学校：約 55 % (約 50 %)】

授業規律の徹底を図るとともに、児童・生徒の学習意欲や興味・関心を高め、課題や与えられた問題に対して粘り強く取り組む態度や姿勢を育てるために、授業改善等に努めることが必要である。

○ 授業のめあての提示と振り返り活動の徹底（詳しくは、P 42 を参照）

- ・ 授業の冒頭で、目標の提示をしていると答えた学校の割合は、四日市全体では増加傾向にあるが、全国と比べると、特に小学校では差が見られる。

【当てはまると答えた割合 小学校：約 21 % (約 39 %) 中学校：約 54 % (約 49 %)】

毎時間の中で、児童・生徒がこの授業を通して「どんなことができるようになるのか」「どんなことがわかるのか」等、児童・生徒と教師が、互いに共有して授業に取り組む必要がある。

振り返り活動については、高い確率で定着してきたことがわかる。授業の終わりに児童・生徒が自らの学習を振り返り、整理する時間をとることで、各自の理解の深化が図られる。

【当てはまる または どちらかといえば当てはまると答えた割合 小学校：約 95 % (約 94 %) 中学校：約 96 % (約 91 %)】

※ 教科の指導方法・言語活動に関すること （詳しくは、P 51 を参照）

○ 家庭学習の啓発（詳しくは、P 50 を参照）

- ・ 保護者に対して、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをする中学校の割合は昨年まで中学校の低さが目立ったが、小・中学校ともに 100 % に到達した。

【小学校：約 100 % (約 97 %) 中学校：約 100 % (約 84 %)】

家庭学習を与える取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた学校の割合は、小中学校とも全国を上回っている。

【小学校：約 100 % (約 90 %) 中学校：約 86 % (約 86 %)】

引き続き家庭学習の定着を図るとともに、その質を高めるために、家庭と連携しながら進める必要がある。

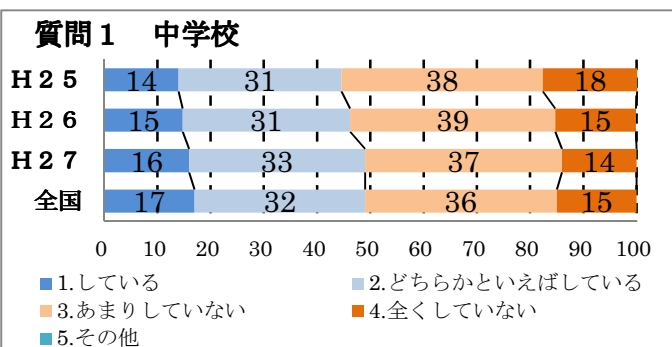
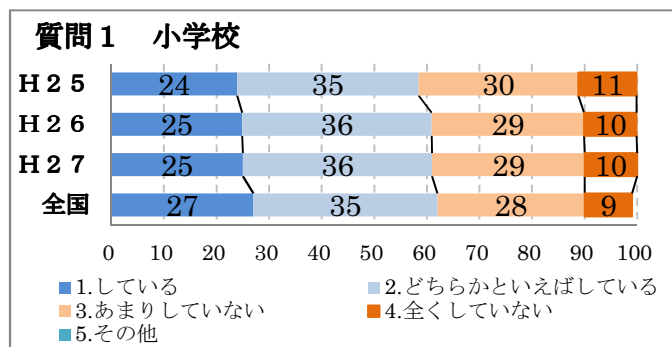
家庭学習に関すること

● 児童・生徒質問紙

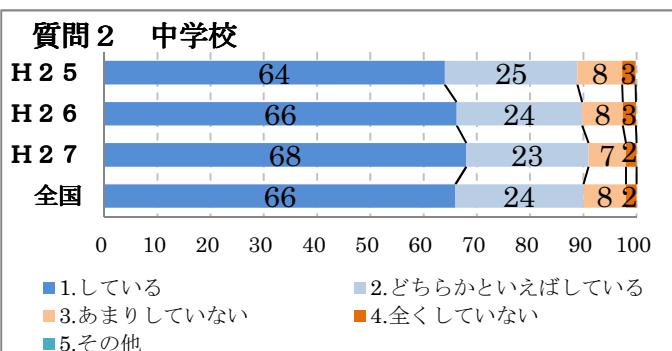
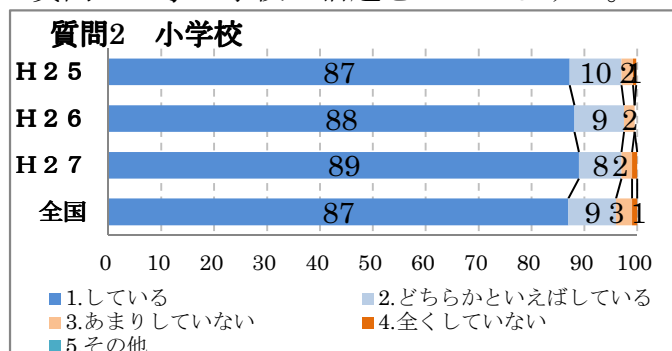
※ 数値の合計は、100にならない場合もあります。

- 自分で計画を立てて家庭学習を行っている肯定回答の割合は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同等である。
- 家で家庭学習を行っている肯定回答の割合は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同等である。
- 家で予習をしている肯定回答の割合は、小学校は、全国平均とほぼ同等であるが、中学校では、やや上回っている。

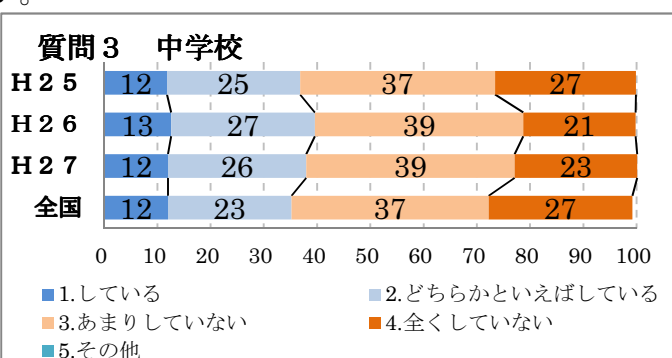
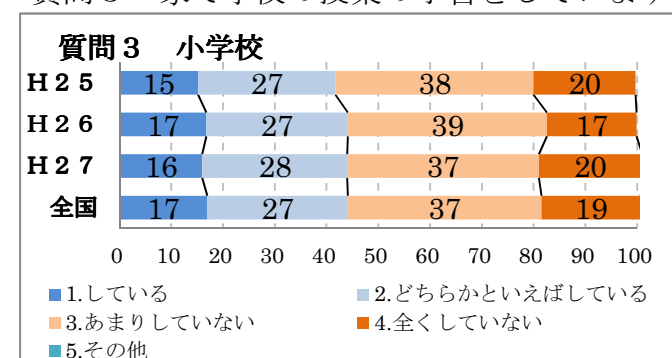
質問1 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。



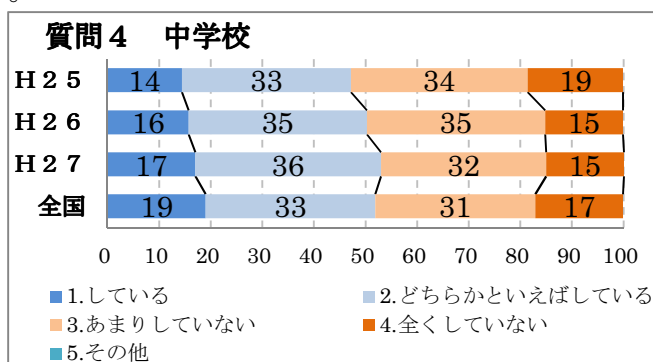
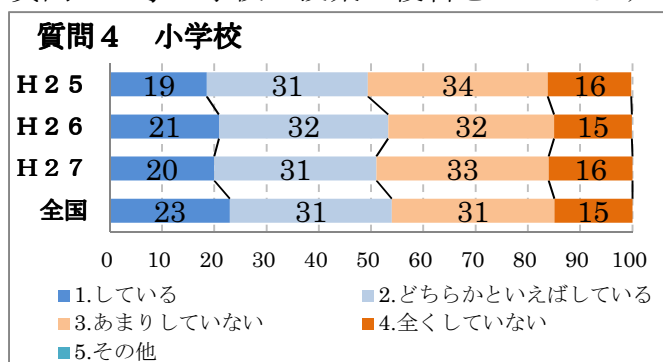
質問2 家で学校の宿題をしていますか。



質問3 家で学校の授業の予習をしていますか。



質問4 家で学校の授業の復習をしていますか。



● 学校質問紙

①「上回っている」項目

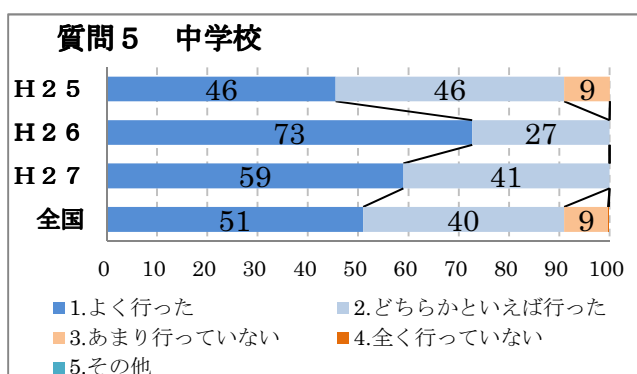
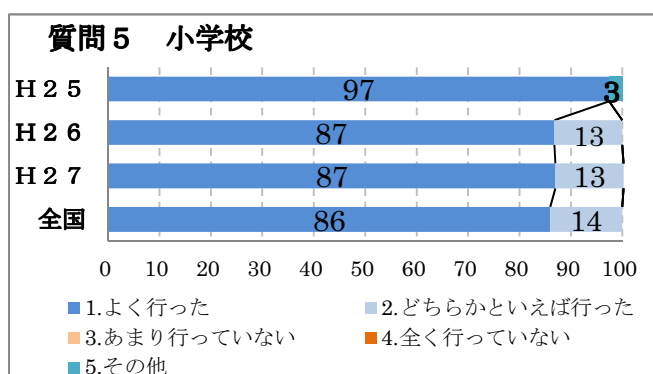
- 家庭学習を与えていると肯定回答する割合は、小・中学校において国語・算数（数学）・理科とも全国平均を上回っている。
- 家庭学習として調べたり文章を書いてくる課題を与えていると肯定回答する割合は、小・中学校とも全国平均を上回っている。
- 家庭学習を保護者に促すような働きかけは、小学校では全国平均を上回っているが、中学校でも平成27年度は改善傾向にあり、全国を上回った。

②「同等である」項目

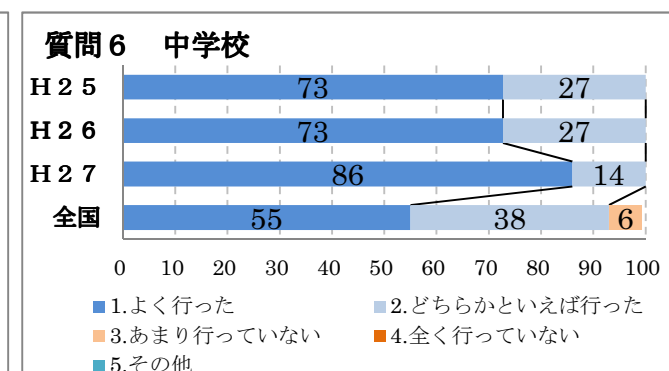
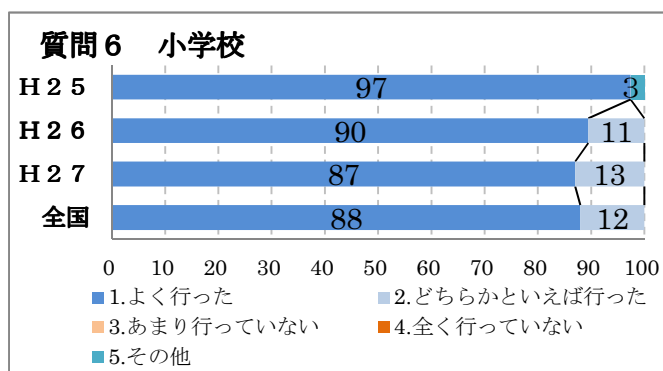
- 家庭学習の取組を具体例を挙げながら教えた肯定回答の割合は、小・中学校とも全国とほぼ同等である。

◇ 家庭学習を与えること

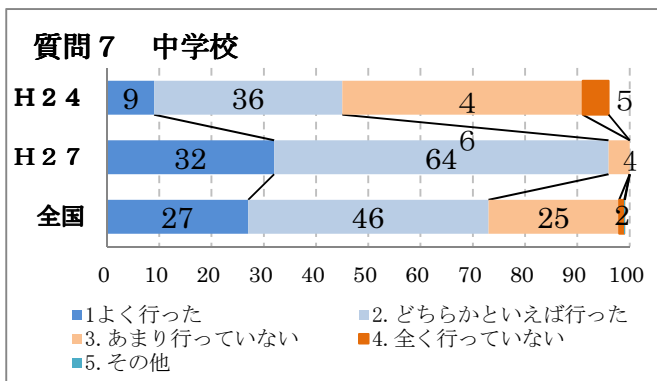
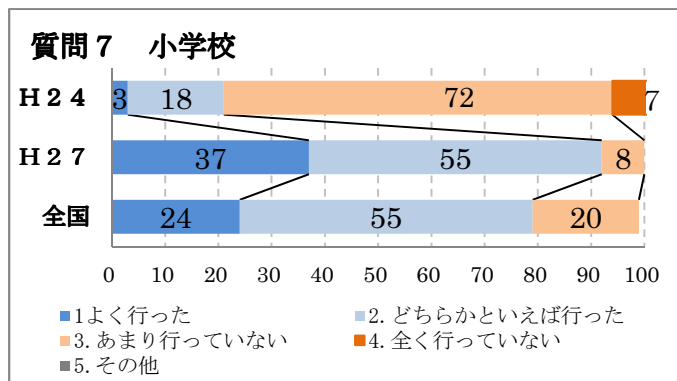
質問5 国語の家庭学習を与えましたか。



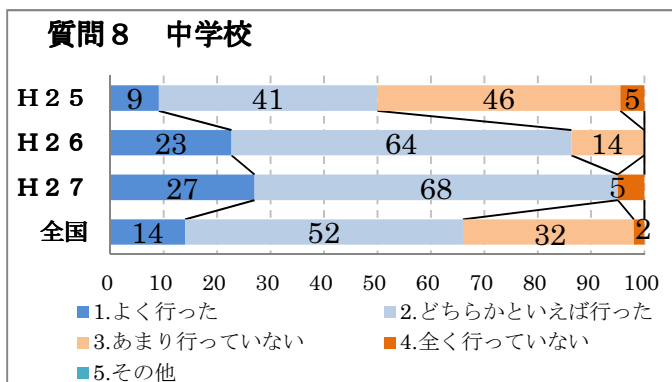
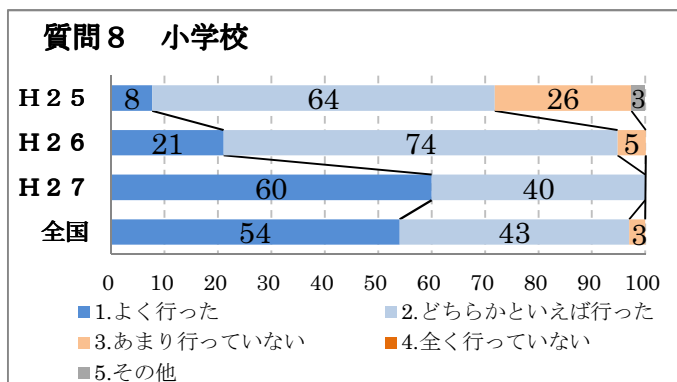
質問6 算数（数学）の家庭学習を与えましたか。



質問7 理科の家庭学習を与えましたか。

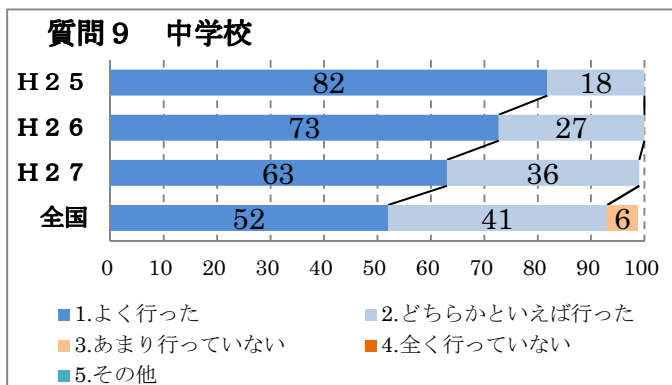
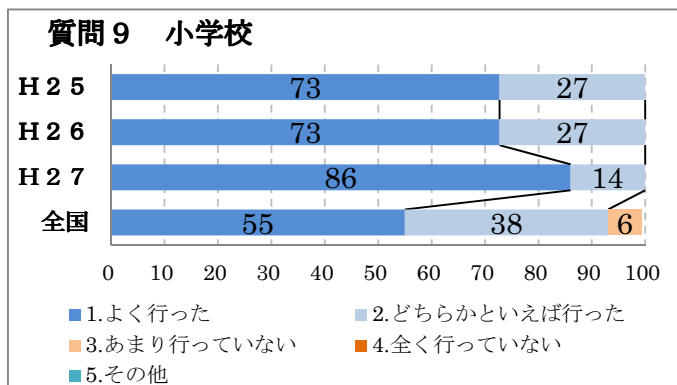


質問8 家庭学習の取組として調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。

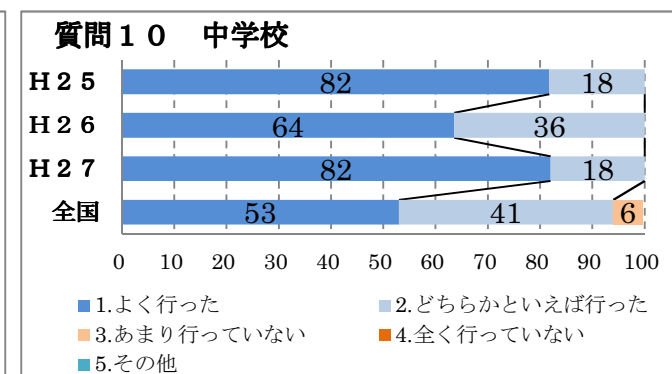
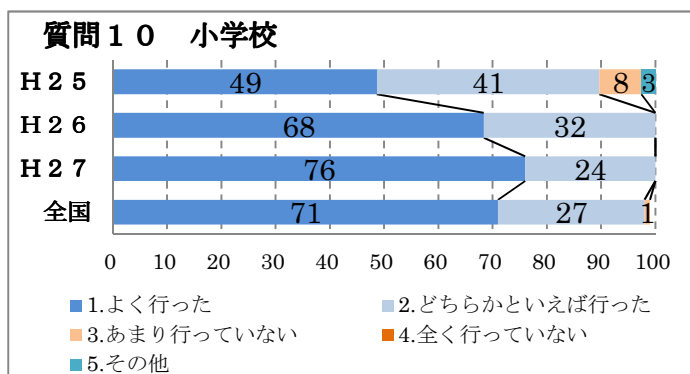


◇ 家庭学習の課題を評価・指導すること

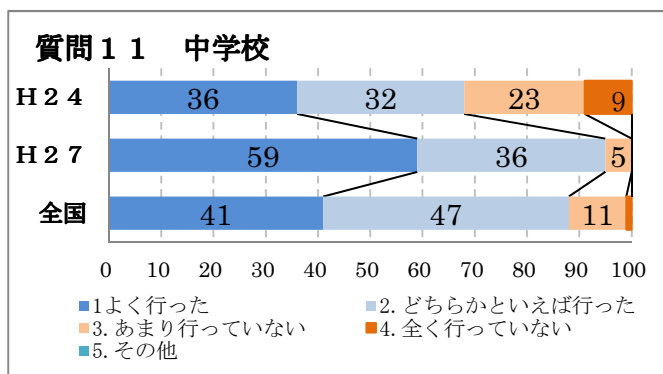
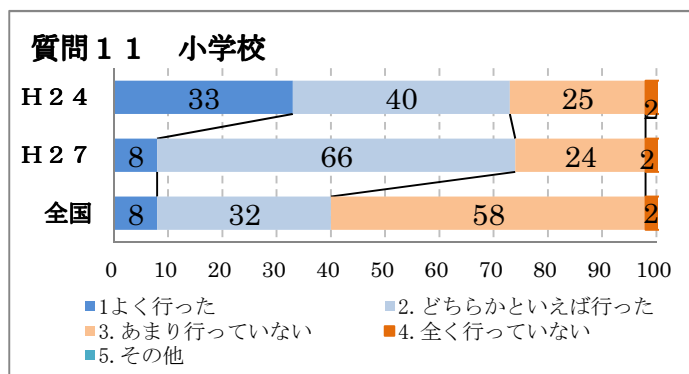
質問9 国語の課題を評価・指導をしましたか。



質問10 算数（数学）の課題を評価・指導をしましたか。

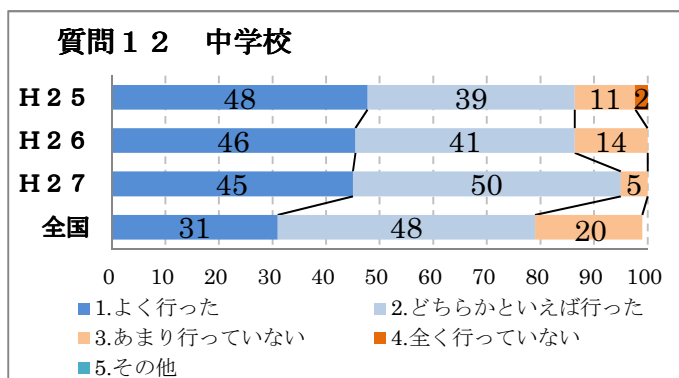
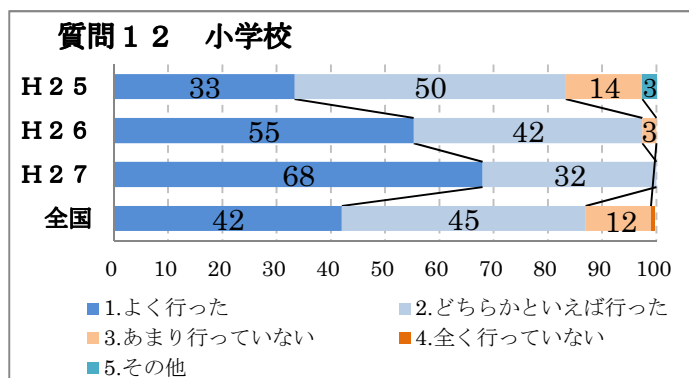


質問 1 1 理科の課題を評価・指導をしましたか。

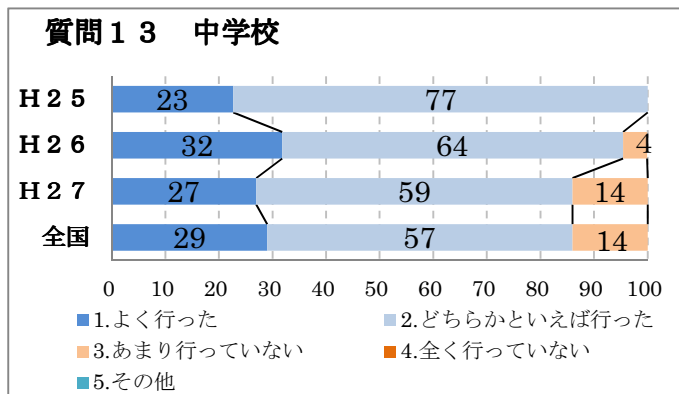
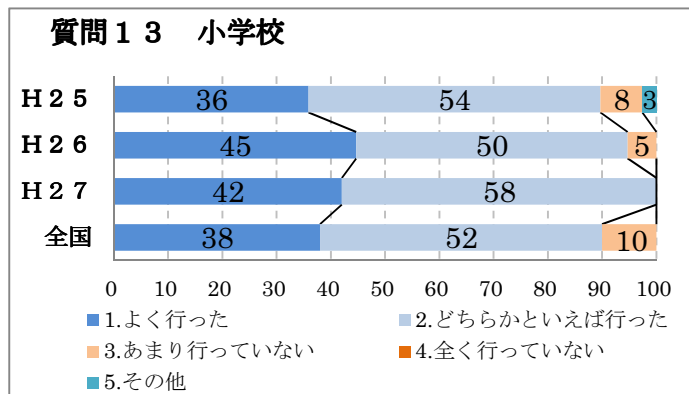


◇ 家庭学習の課題を与える際の留意について

質問 1 2 教職員の共通理解を図りましたか。

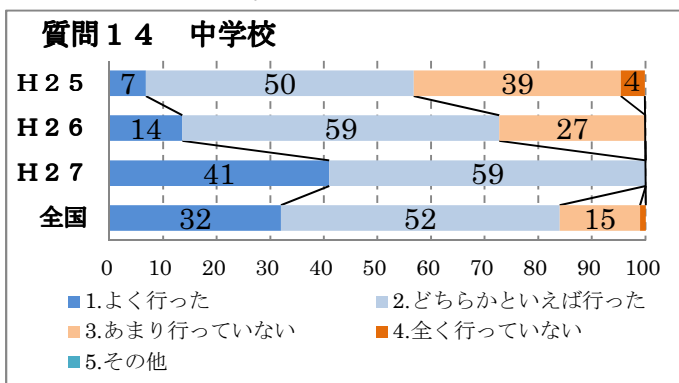
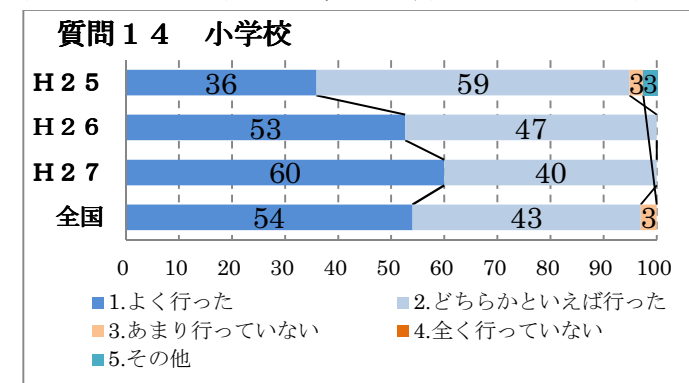


質問 1 3 家庭学習の取組として家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。



◇ 保護者への働きかけ

質問 1 4 保護者に家庭学習を促すような働きかけをしましたか。



教科の指導方法・言語活動に関すること

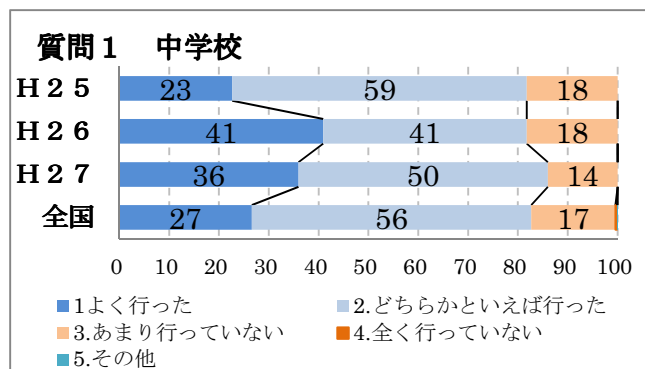
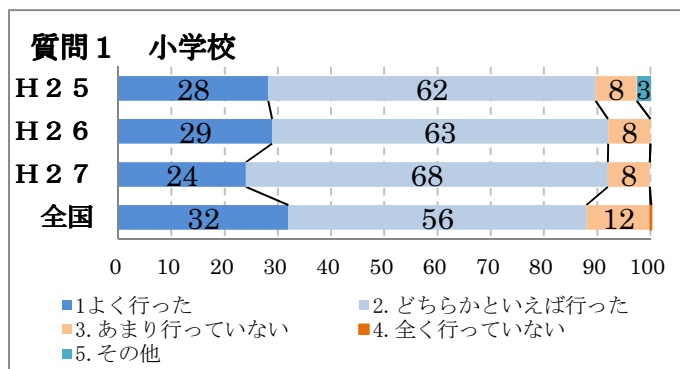
● 学校質問紙から

※ 数値の合計は、100にならない場合もあります。

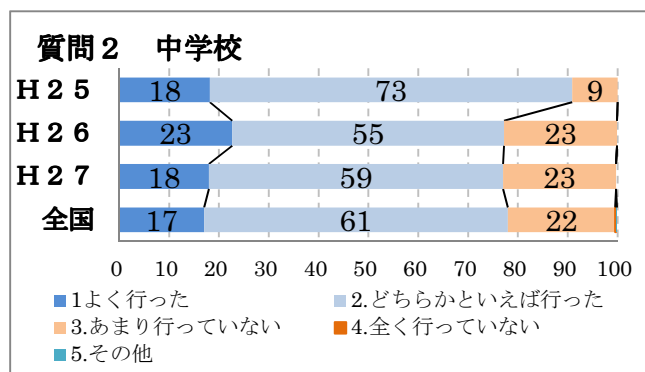
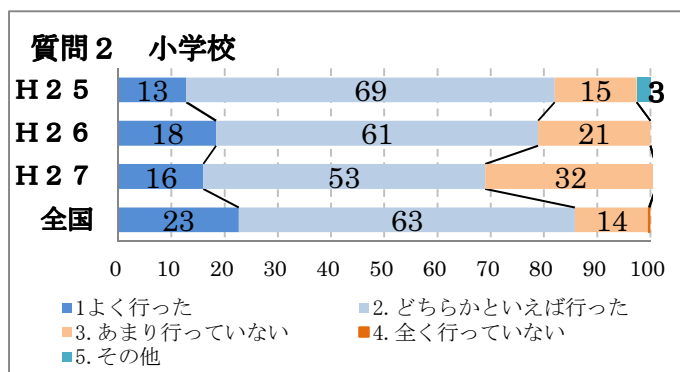
◇ 学習指導全般

- 資料を使って発表ができていない学校の割合は、小学校では下降傾向で全国を下回っている。中学校では、全国と同等であるが、26年度を下回っている。
- 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしていると回答した学校の割合は、小学校・中学校ともに全国レベルではあるが、「よく行った」と答えた割合は低い。

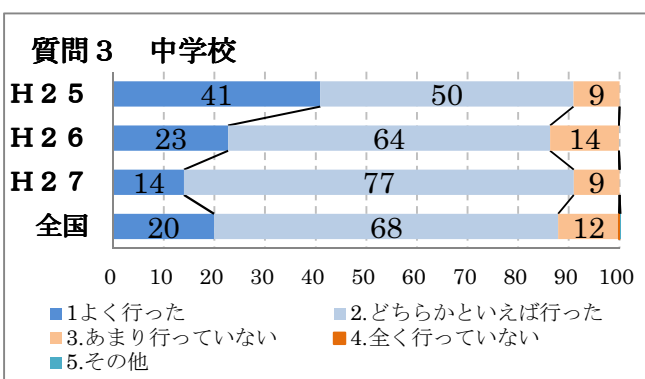
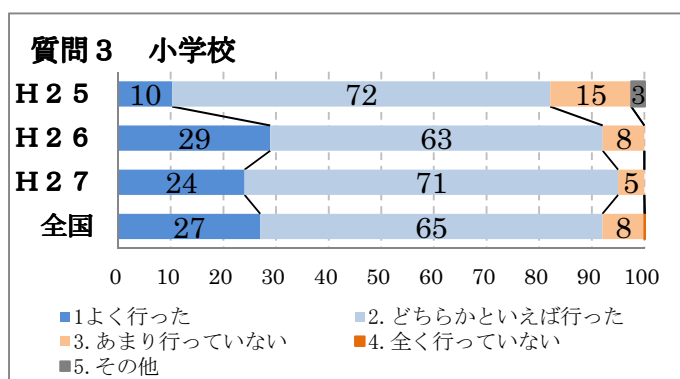
質問1 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。



質問2 児童・生徒に対して、資料を使って発表ができるよう指導しましたか。



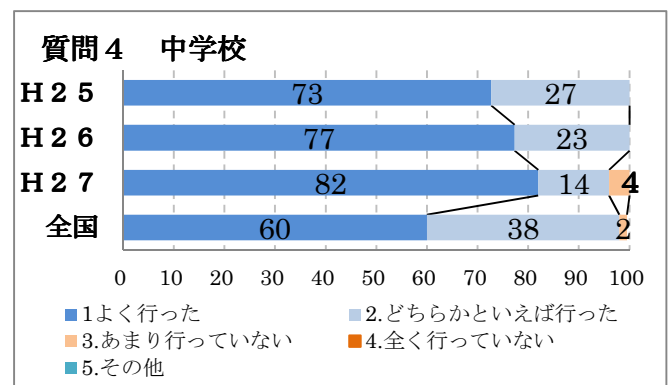
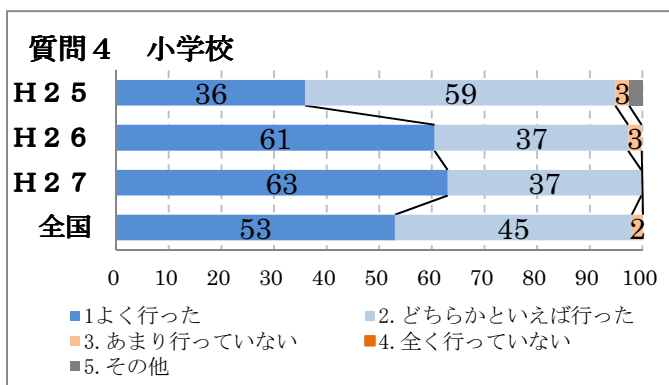
質問3 児童・生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。



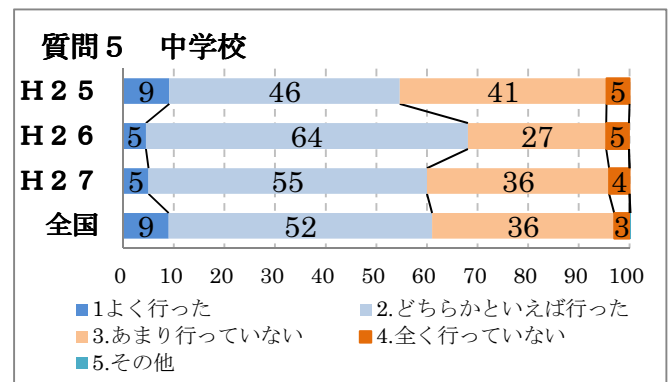
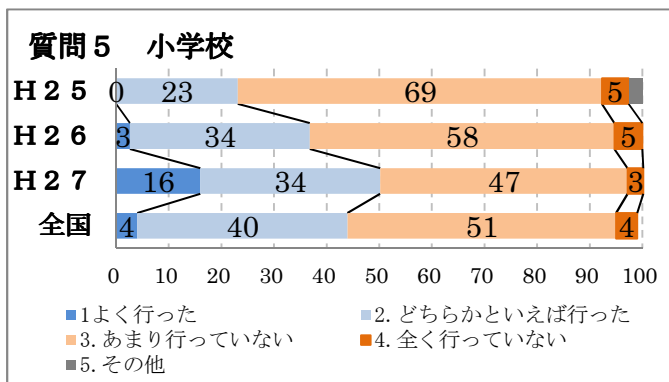
◇ 国語の指導方法

- 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行っている学校の割合は、全国を上回るが、発展的な学習の指導を行っている学校の割合は、小中学校ともに全国並みである。
- 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をしている学校の割合は、小学校では全国並み。中学校では上昇傾向にあり、全国を上回っている。
- 様々な文章を読む習慣を付ける授業を「よく行っている」とする学校の割合は、小学校は、全国より下回っているが、中学校では、上回っている。既習事項の応用場面として、よく行われることが望ましい。

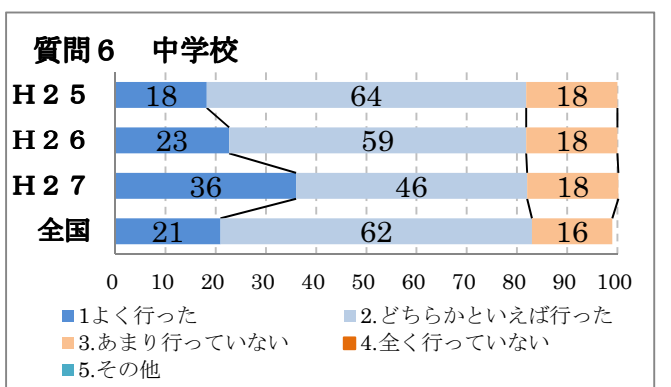
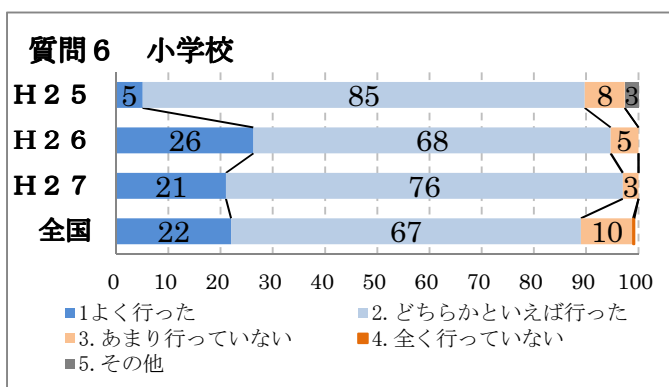
問4 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。



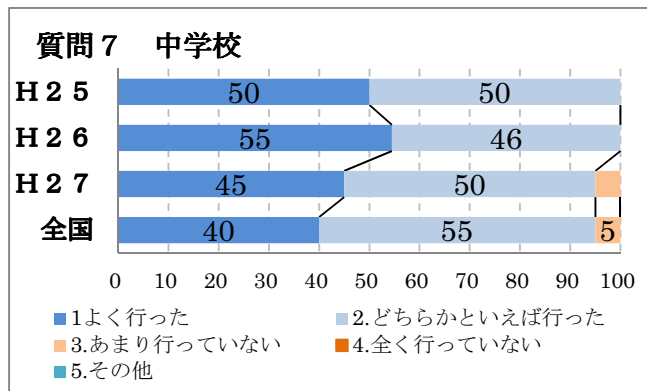
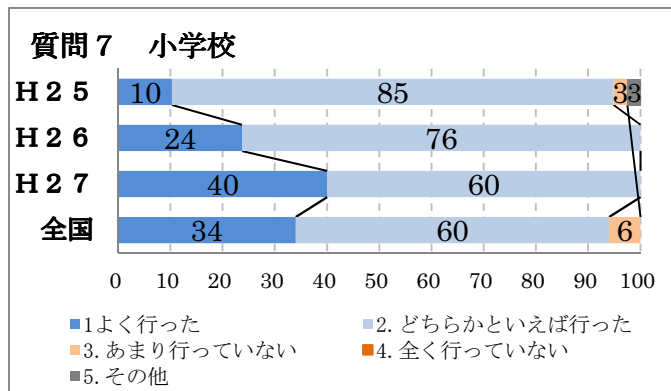
質問5 発展的な学習の指導を行いましたか。



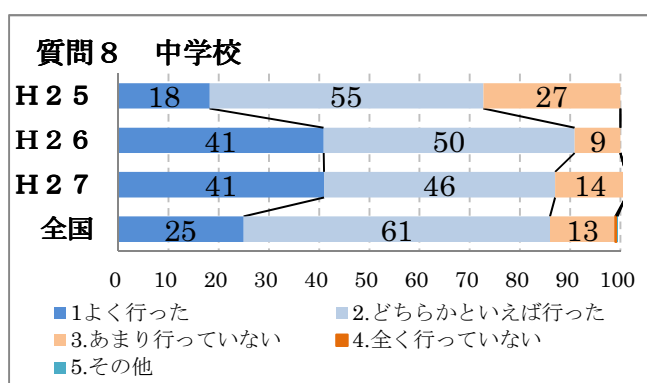
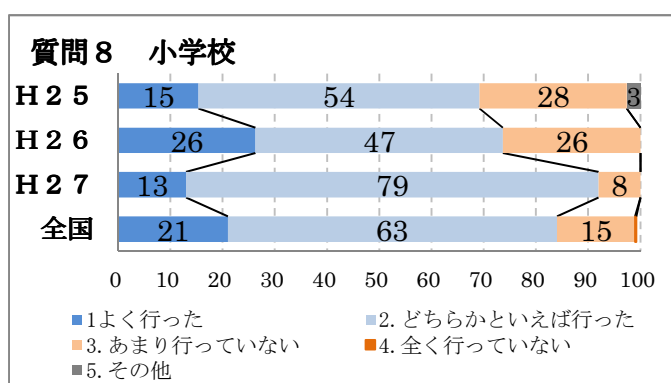
質問6 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。



質問7 書く習慣を付ける授業を行いましたか。



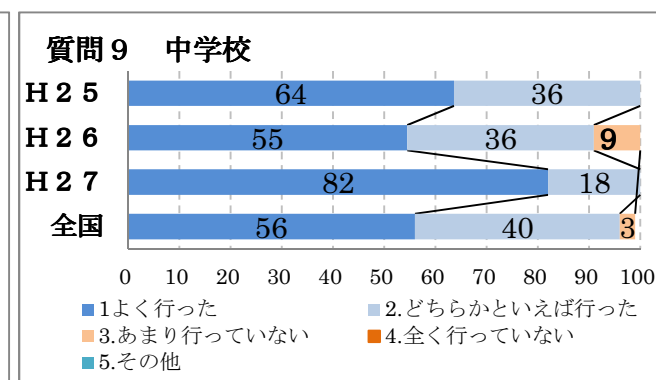
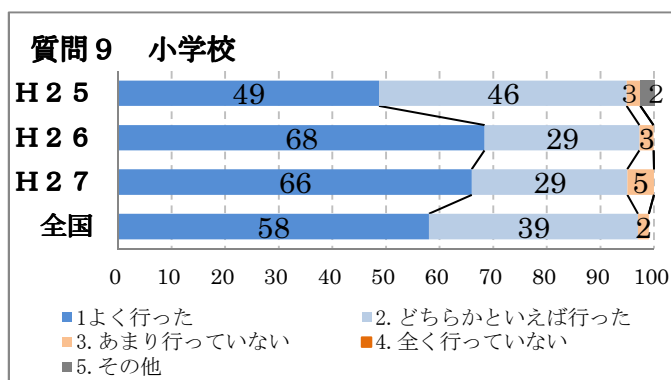
質問8 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。



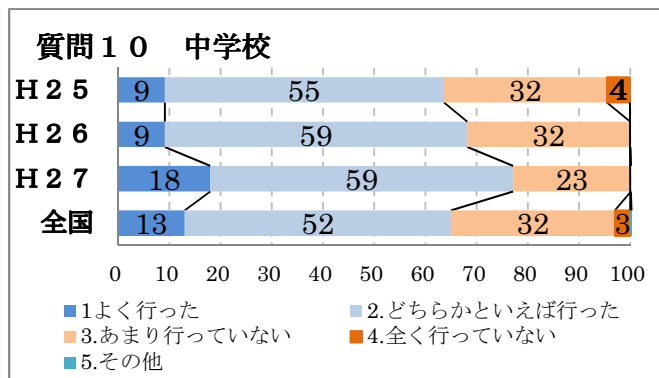
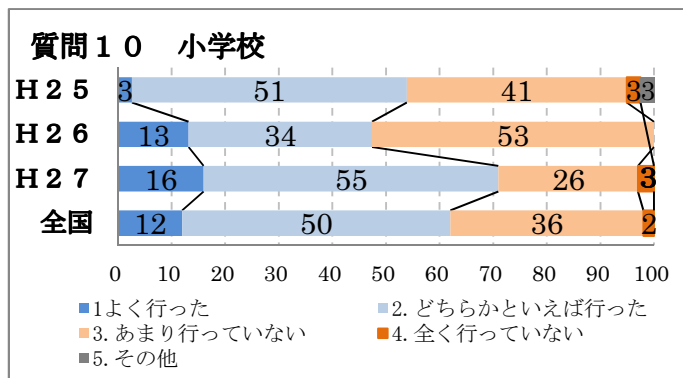
◇ 算数・数学の指導方法

- 計算問題などの反復練習をする授業を行っている学校の割合は、全国を上回り、特に中学校では8割の学校が「よく行った」と回答している。発展的な学習の指導を行っている学校の割合も、小中学校ともに上昇傾向であり、それぞれ全国を上回っている。
- 実生活における事象との関連を図った授業をしている学校の割合は、肯定的回答は全国並みであるが、中学校では「よく行った」とする学校はゼロである。

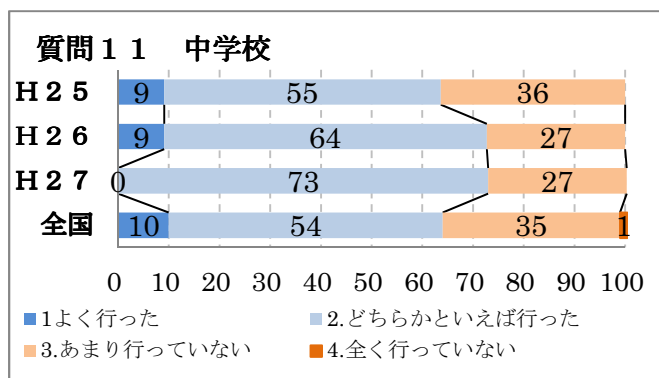
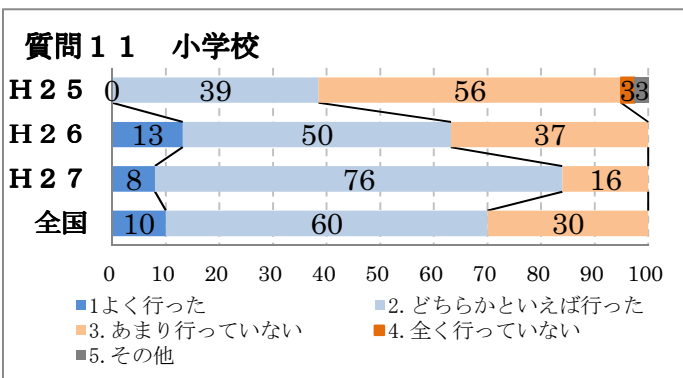
質問9 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。



質問 10 発展的な学習の指導を行いましたか。



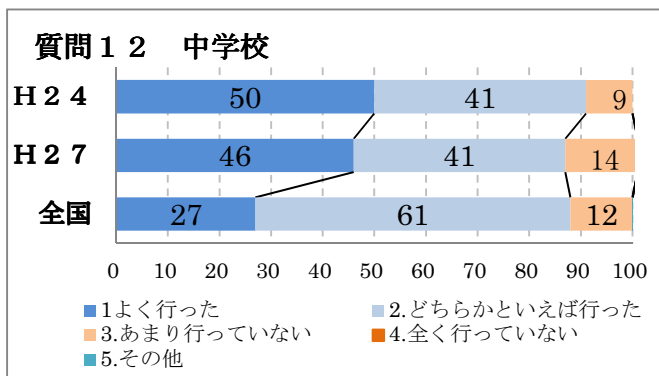
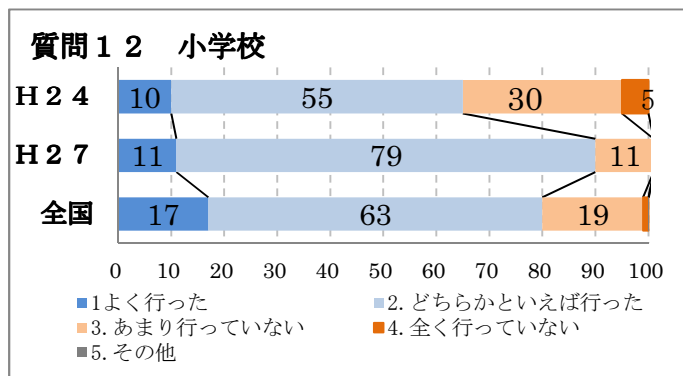
質問 11 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



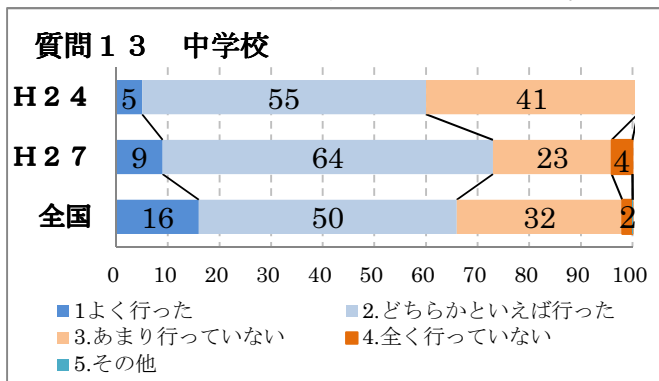
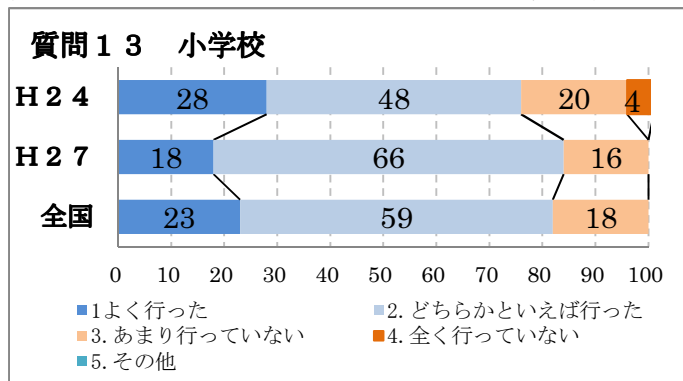
◇ 理科の指導方法

- 実生活における事象との関連を図った授業をしている学校の割合は、小中学校ともに全国を上回っており、四日市市の強みとなっている。

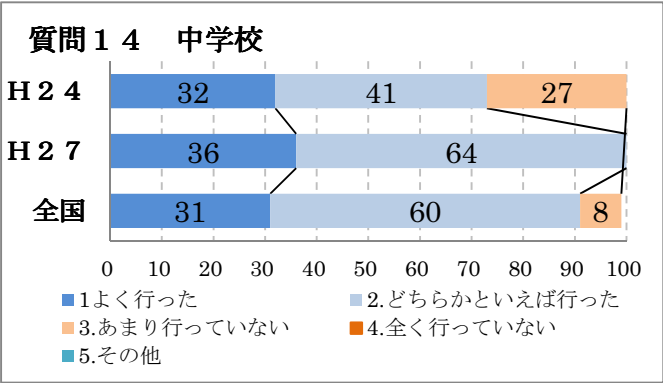
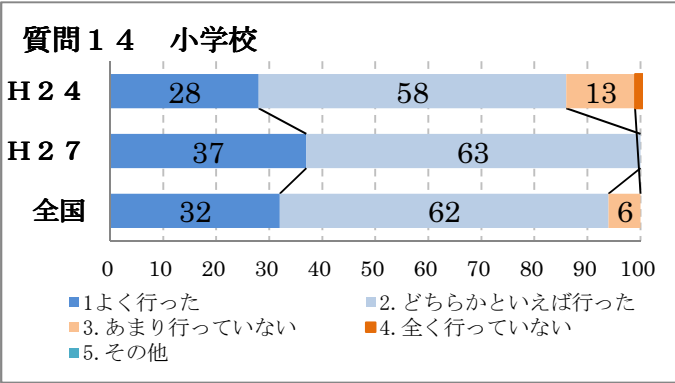
質問 12 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



質問 13 自ら考えた仮説ももとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか。



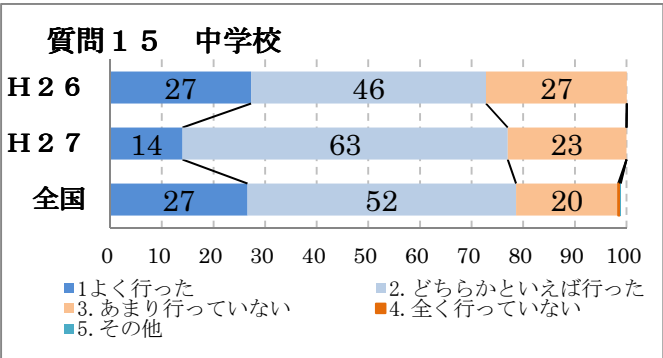
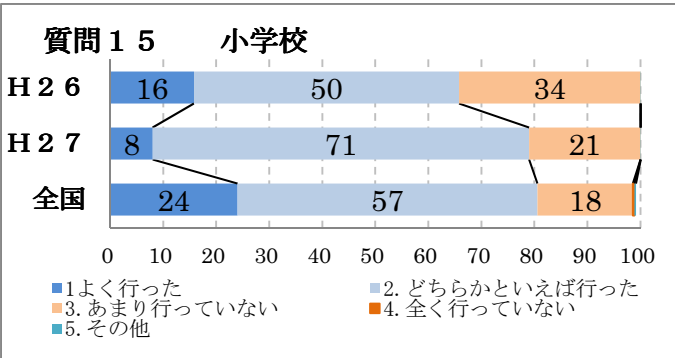
質問 1 4 観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか。



◇ 総合的な学習の時間の指導方法

- 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている学校の割合は、例年、小・中学校ともに、全国を下回っている。

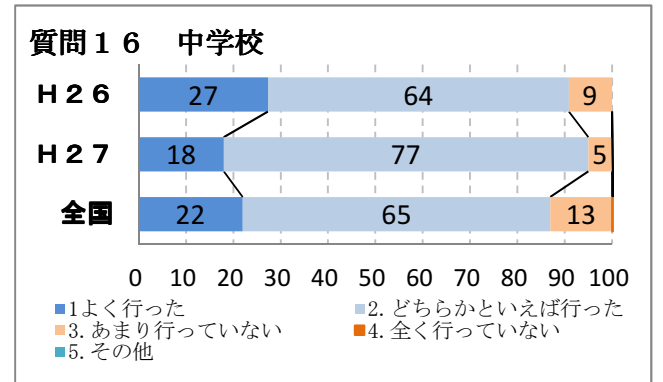
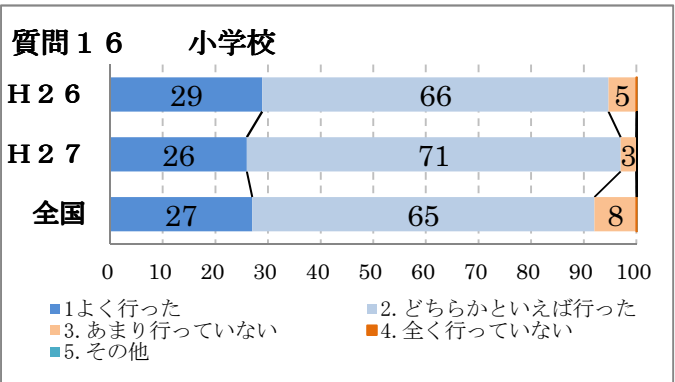
質問 1 5 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。



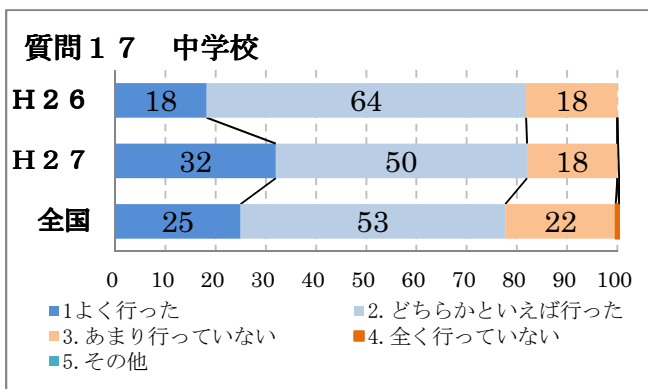
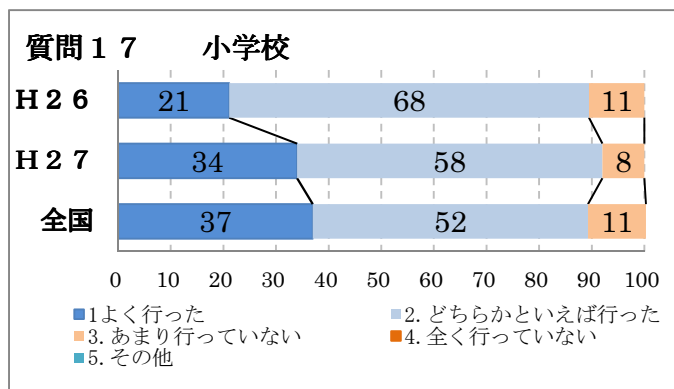
◇ 言語活動に関する指導

- 各教科において言語活動を位置づけている学校の割合は、小中学校ともに全国を上回る結果になっており、さらに、国語科以外でも学校全体で取り組んでいるかどうかについても、全国を大きく上回る。全校的な取組としては意識が高い傾向にある。（言語活動に関して以下の項目の調査は平成 2 6 年度より実施）

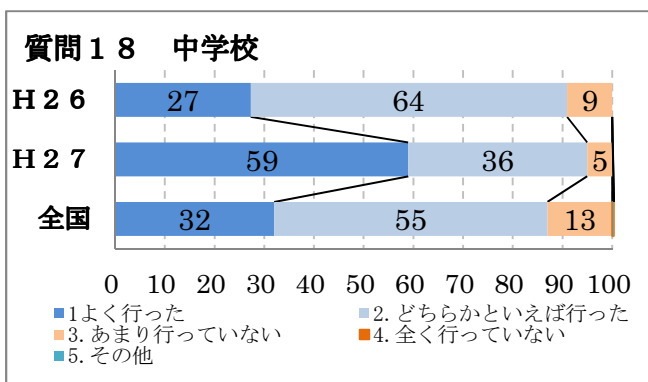
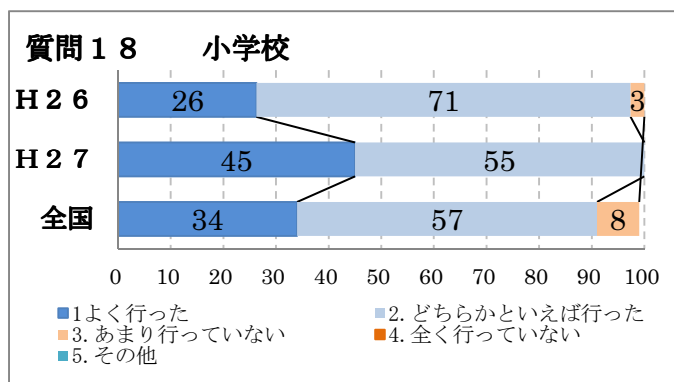
質問 1 6 各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置づけたか。



質問 1 7 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしているか。



質問 1 8 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいるか。(新規)



【今後に向けた具体的な取組】

◎ 学習方法に関する指導の充実

- ・ ノートの取り方、発表の仕方、聞き方、家庭学習の仕方等の学び方を、児童・生徒の発達段階に応じた適切なスキル指導としてきめ細やかに行い主体的な学びへと導く。
- ・ 家庭学習の指導との関連を図る。

◎ 発展的な学習や実生活における事象との関連を図った授業の充実

- ・ 小・中学校において、国語・算数（数学）・理科ともに、基礎的・基本的な知識・技能を活用した応用力や活用力を問う課題や発問を授業に位置づける。特に、小学校において、指導の充実を図る。
- ・ 実生活における事象との関連を図った課題の提示や全国学力・学習状況調査問題を意識した授業指導の充実を図る。

◎ 様々な文章を読む習慣を付ける授業の充実

- ・ 児童・生徒が、教科書教材だけではなく、同じ作者の別の作品や同じテーマや話題を取り上げた作品、同時代の作品、新聞記事やコラム、非連続型テキストを含んだ資料など多種多様なものを学習教材として、授業中の課題や家庭学習の課題として読むような指導の工夫と充実を図る。

◎ 全教科・領域などでの言語活動の充実

- ・ 教職員間で言語活動について、日常を通して話し合ったり、検討したりして、全ての教科・領域や活動を通して、学校全体で意図的、計画的に取り組む。

6 今後の取組の重点

主として学校において

1 四日市市における学力向上の全市的な4つの取組の充実

① 【取組1】 本調査問題の活用

- 児童・生徒の活用だけでなく、全教職員が問題を解いたり、分析したりして、出題のねらい、指導事項との関連、児童・生徒の解答状況等把握することで指導改善に活かす。
- 問題の活用だけでなく、調査実施後、速やかに、児童・生徒の解答状況を把握・分析して指導改善を図る。

② 【取組2】 本調査趣旨等を踏まえた授業改善

- 実施該当学年や該当教科担当者だけでなく学校全体で、「言語に関する能力」と「知識・技能を活用する力」の育成を目指した指導改善に取り組む。

◆ 授業改善の事例

- ・ 知識・技能を活用する力の育成
→ 「問題解決能力の向上」のためのガイドブックや各種授業アイデア事例集を活用した実践 等
- ・ 言語に関する能力の育成
→ 読解力を高める授業の実践（例 文章を要約する）
→ 自分の考えを整理して書く・話す場面を設ける授業の実践 等
- 調査問題と調査結果分析を活用して、自校の強み・弱みを把握し授業改善を図る。

③ 【取組3】 学習習慣の確立と学力補充の充実

- 子どもの実態を把握し、家庭学習の定着と補充学習の充実に取り組む。
- 保護者への働きかけの充実を図る。
 - ・ 家庭学習の定着、自主学習ノートによる定着、シラバスやHPを活用した家庭への啓発 等
 - ・ 補充学習の充実、長期休業及び放課後等の補充学習、「全体」と「個別」の補充学習の検討 等
 - ・ 課題について調べ自分の考えをまとめるなど、知識・技能の活用を目指す宿題 等

④ 【取組4】 継続的な学びへの取組

- 学年間及び小中学校間が連携した取組を実施する。
 - ・ 学びの空白期間となる春季休業に着目し、継続的な学びを目指した取組を検討し、工夫する。

2 授業の目標・振り返り活動を取り入れた指導計画の徹底

- 全教科において教科の特性を踏まえたうえで、目標の提示、振り返り活動の工夫と徹底を図る。
 - ・ 授業でつけたい力を明確にし、児童・生徒が、「何を学んだか」、「できるようになったのか」を、実感の伴う指導の徹底を図る。
 - ・ 学びの一体化の一層の推進を図り、教職員間では、指導と評価方法等の共通理解を図る。また、学習内容や子供たちの家庭学習への取組方法等、異校種間での共通理解を図る。

3 家庭学習の充実

- 家庭学習の課題を工夫するとともに、評価・指導の徹底を図る。
- 児童・生徒が、学び方を学べるように、学習方法の具体例を挙げて指導する。
- 保護者に家庭学習の手引きやシラバスを示すなどの働きかけをする。



4 ノート指導の充実

- ノートの活用について、意味や使い方等を小学校の低学年から発達段階に応じて丁寧に指導する。
- 黒板を写すための記録という役割に留めず、学習過程を振り返ったり、課題解決に向けた自分自身の思考過程を視覚化したりするための学習支援としての役割を児童生徒に伝え、十分に活用する。
- 自分の考えやアイデア等を「書く」という操作を日常化し、それをもとに表現させるような指導の工夫。

5 教科の特質を踏まえた言語活動を取り入れた授業の充実

- 特に国語科において、単元を貫く言語活動を位置づけた授業の構築を図る。
- 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組む。
- 論理的に思考する場、論理的に説明する場を多く設定する。
- 自分の考えの根拠を明確にさせる発問・課題を設定する。
- 文章（連続型テキスト）と図や写真（非連続型テキスト）を組み合わせたもの（雑誌等）を活用する。
- 自分の考えをわかりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現しあったりする学習活動の充実を図る。
- 自分の考えや意見を深めたり、広げたりするため、学級やグループで話し合う場面を多く設定する。

6 ICTの効果的な活用の工夫

- ICT機器の効果的な活用と同時に、誰にとってもわかりやすい授業を工夫して実践することで、すべての児童・生徒が学びに参加できたり、「わかる」を実感したりする授業づくりを行う。
- 自分の考えや意見を、根拠をもって説明したり、資料を使ってプレゼンテーションをしたりするための道具としてICT機器を活用して思考力・判断力・表現力等育成をねらいとした授業づくりを行う。

主として教育委員会事務局において

1 情報発信の充実

- 全国学力・学習状況調査にかかる本市調査結果の分析をホームページで公表する。
- 効果のある実践的な取組を発信する。

2 学力向上にかかわる教育施策の整備

- 学校と連携した学力向上につながる教育施策の整備・改善・展開に努める。
 - ・到達度検査の実施 ・読書活動の推進 ・少人数指導の充実 ・四日市版コミュニティースクール
 - ・幼・保・小・中が連携した学びの一体化事業の推進（および、教育実践研究推進校区の指定） 等

3 学校への指導・助言の充実

- 学校への要請訪問において指導・助言をする。

4 教職員研修の充実

- 今日的教育課題に対応した教職員研修を企画・実施し、教職員の指導力・授業力等資質・能力の向上を図る。

5 三重県教育委員会との連携

- 三重県教育委員会HPのワークシートの活用促進。
- みえスタディチェックの自校採点・結果分析等を授業改善に生かす工夫。

7 参考資料

○ 国立教育政策研究所（各校へ配付済み）

- ・平成27年度全国学力・学習状況調査 解説資料 平成27年4月
- ・平成27年度全国学力・学習状況調査 報告書 平成27年8月
- ・平成27年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 平成27年9月
- ・全国学力・学習状況調査を活用した授業アイデア例BOX 平成26年9月

※平成21年度から平成25年度までの授業アイデア例が入っています。

平成26年度のアイデア例は平成27年度同様単品で配付済。

○ 文部科学省

- ・言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～

平成22年12月（小学校）／平成23年5月（中学校）

※各校への配付はありません。下記のHPより参照ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/1300990.htm

○ 三重県教育委員会

- ・全国学力・学習状況調査結果の課題改善のためのワークシート

<http://www.mie-c.ed.jp/shochu/worksheet.html>

- ・全国学力・学習状況調査問題（国立教育研究所ホームページへのリンク）

http://www.mie-c.ed.jp/shochu/kokken_mondai.html

○ 東京書籍WEBライブラリー

<http://webworld.tokyo-shoseki.co.jp/>

- ・問題データベース

